

二 南京国民政府参戦問題と「對支新政策」の展開

84

昭和17年7月17日 東郷外務大臣
周仏海財政部部長 会談

南京国民政府の参戦問題や對重慶工作等に関

する東郷外相と周仏海との会談

付記 昭和十七年七月二十二日付、東亜局第一課作成

周仏海との会談における東条首相発言事項

東郷外務大臣周仏海財政部部長會談録

(木村通譯官記)

日時 昭和十七年七月十七日午後三時ヨリ同四時

迄一時間

場所 外務大臣官邸

出席者

日本側

東郷外務大臣

山本東亞局長

木村通譯官(記録)

中國側

周仏海財政部部長

黃 遠財政部参事(通譯)

大臣 今般貴部長御着京早々御挨拶ノ爲御來訪ヲ受ケタル
處生憎大阪ニ出張中ニテ失禮セリ

周 自分今次訪日ノ目的ハ一ハ國民政府ノ財政問題ノ爲

ト他ハ特ニ汪主席ノ命ニ依リ閣下ト相談セヨトノ問

題ノ爲ナルガ右問題トハ中國ノ英米ニ對スル宣戰ノ

問題ナリ

大東亞戰爭勃發當時此ノ問題カ持上リ日本側ト御相

談申上ゲタル處日本トシテハ此ノ際若シ中國カ英米

ニ宣戰スルトキハ滿洲國モ同様宣戰スル要アリ而シ

テ滿洲國ガ英米ニ宣戰スルコトハ滿「ソ」間ノ空氣

微妙ナル關係上面白カラザルニ付中國ノ對英米宣戰

モ暫ク時機ヲ待タレタシトノ御意見ノ趣承リ居ル處

汪主席ニ於テハ最近ニ於ケル獨「ソ」戰況ニ鑑ミ再

ヒ此ノ問題ヲ提起シ日本政府ト御相談セヨトノコトナリ

然ラハ何故ニ我々ハ對英米宣戰ヲ希望スルカト申サバ積極的ノ意味ヲ有スルモノニシテ即チ大東亞戰爭發生以來汪主席ハ常ニ日本ト同甘共苦ヲ強調セラレ國民政府毛主席ト同意思ナルモ一般人民ハ必ズモ斯克ハ考ヘ居ラズ即チ一般民衆ハ現在日本ハ英米ト戰ヒ居リ支那カ之ニ加擔協力スルコトハ可ナルモ日華對英米戰爭ノ爲支那カ犠牲ヲ拂フ必要ナシト考ヘ居ル狀況ニシテ斯ノ種人民ヲ激勵シ大東亞建設ニ眞ニ力ヲ致サシムル爲ニハ支那自身カ大東亞戰爭ニ參加スルコト必要ニシテ斯克テ始メテ人民ヲシテ直接其ノ義務責任ヲ自覺セシメ得ル次第ナリ

然レトモ假令中國カ參戰スルモ國民政府ノ陸海軍力ハ極メテ微弱ナル爲直ニ兵ヲ戰線ニ送ルコトハ不能ナルガ人民ヲシテ日本側ノ棉花ノ買付或ハ軍需物資等ノ購入ニ對シ協力セシメ得ベシ例ヘバ日本側ガ壓力ヲ用ヒテ是等ノ物資ヲ購入スルヨリモ中國ノ大東亞戰爭參加ニ因ル人民ノ自發的協力ニ依リ之カ目

の達成ハ容易ナルベシ

要ハ國民政府トシテ唯其ノ責任義務ヲ盡スノ一點ニアルノミナリ參戰ニ因リ日本側ヨリ何等カノ代償ヲ得ント言フガ如キ意思ハ毛頭ナシ即チ租界返還、領事裁判權ノ撤廢等ノ報償ヲ希望スルモノニアラズ此ノ點日本政府ノ御諒解ヲ願ヒ度キ次第ニテ要スルニ中國トシテノ義務感ト責任感ノ發露ニ外ナラズ

尙大東亞戰爭トテモ永久ニ繼續サルベキモノニアラズシテ何日カハ必ズ平和ハ來ルベク國際和平會議ニ於テ中國及滿洲國ガ發言權ヲ有スルニ至ルコトハ日本側トシテモ大東亞共榮圈確立上有利ナルベク主席ヨリモ以上ノ點ニ付閣下ト相談スベキ旨申サレタリ

然レトモ中國ハ斷ツテ參戰スト言フニハ非ズ又參戰ノ時期ノ問題モアル處總ベテ日本側ノ指示ニ從フモノナリ

大臣

貴部長此度ノ來朝ハ主トシテ財政問題ニ關スル協議ノ爲ナリト在南京帝國大使館ヨリ報告アリタルガ此ノ機會ニ其ノ他ノ事ニ付テモ意見ノ交換ヲ行フコトハ結構ナリト考フル次第ナルガ此ノ問題ニ關シテハ

客年十二月八日帝國ガ英米ニ宣戰シタル日ニ自分ハ在京各國大使ヲ招キ帝國ノ宣戰布告ニ至リタル次第ヲ説明シタルガ就中貴國ノ大使ニ對シテハ中國政府トシテハ今後益々帝國ニ協力セラレタキモ今直ニ大戦ニ參加セラレタシト言フガ如キ考ヘハ無ク又其ノ必要モ認メ居ラサル旨ヲ申シタル次第アリ右ハ帝國政府ノ意思ヲ代表シテ申上ゲタルモノニシテ此ノコトハ既ニ貴國政府ニ於カレテモ承知セラレ居ルコトト思考ス今ノ御話ニ付キテハ考慮シ貴部長御滯京中ニ更ニ會談スル機會モアルベキニ付其ノ節御返事申上グベキガ大体今日ニ於テモ右ノ考ヘニハ變リナキ次第ナリ

「ソヴイエット」共和國ニ對シテハ帝國ハ最初ヨリ何等恐怖ヲ感ジ居ラズ又獨「ソ」戰モ樞軸側ニ極メテ有利ニ展開シ居ル今日「ソ」聯ニ對シ更ニ恐レヲ抱ク必要ナク「ソ」滿關係ニモ何等變化ナシ尙國民政府ノ參戰問題ニ關シ御伺スルガ重慶政權ハ對日宣戰ヲ布告シタルガ帝國ハ蔣政權ヲ相手ニセズトノ根本原則上宣戰セザル次第ナルガ若シ國民政府

ガ參戰ストスレバ其ノ際ニ於ケル國民政府ト重慶トノ關係ヲ如何ニ考ヘ居ラルルヤ客年十二月頃貴國政府ニ於カレテハ全面和平ノ聲極メテ強ク斯カル際國民政府ガ宣戰シ重慶側ト戰フハ必要アリヤトノ疑問アリタルガ現在モ同様ナラズヤ、大東亞戰爭ハ將來長期ニ亘リ戰ハルベク從ツテ今急ギテ參戰スル必要ナカルベシ要スレニ重慶政權トノ關係ガ如何ニナルヤヲ伺ヒタシ

周

國民政府參戰ノ場合ニモ現在ノ重慶トノ對立關係ニ變リナク其ノ見方ハ法律的ト實際的トノ二アル處唯今閣下ノ仰セラレタルハ法律的の見方ニ付テナルガ參戰ト重慶關係ハ法律的の見レハ新シキコトナルモ事實上ハ從來ト變リ無シ

大臣

進ミモセズ退キモセズ又戰爭モセズ現在ト全然同じ状態ヲ續クル譯ナリヤ

周

現在國民政府軍ハ重慶軍ト已ニ戰ヒ居レリ例ヘバ清郷工作ニ於テモ重慶軍ト戰ヒ居ル處中國ガ參戰スルコトハ全面和平ニ少クトモ妨害ナシ寧ロ却ツテ良キ結果ヲ齎スニアラズヤト思考ス

現在全面和平ニ二方法アリ即チ一ハ蔣介石ヲ相手トスルコトト他ハ蔣介石ヲ除キ其ノ周圍部下ヲ相手トスルコトナリ而シテ現狀ニ於テハ蔣介石ヲ相手トシテノ全面和平ハ全然望ミナシ即チ蔣ガ過去五ヶ年間戰ヲ繼續シテ待ツテ居タノハ日本ト英米トノ戰ナリ其ノ多年待望ノ日英米戰ガ實現セル今日蔣トシテハ和議ヲ考フルガ如キコト萬々ナシ勿論重慶側トシテモ日本ノ迅速ナル勝利大戦果ニ對シテハ驚キ居ルモ重慶側ノ考ヘニテハ米國ハ航空機及艦船ニ大損害ヲ受ケタルモ資源豊カニシテ造船、造兵機ニ大製産力ヲ擁シ居ル爲其ノ回復モ早カルベシト考ヘ此ノ際早々ニ日本ト妥協スルガ如キコトナカルベク同時ニ華府ニ於テ反樞軸國五十餘ヶ國ガ單獨ニ媾和セズトノ協定ヲ締結シ重慶側モ之ニ參加シ居ル爲之ニ拘束サルベク要スルニ蔣ハ和議ニ應ズルコトナシ

然レドモ國民政府職員ハ日本人ヨリ蔣ハ來ラザルヤトノ質問ヲ屢々受クル處右ニ對シ蔣ハ來ルベシト返答シ居レリ其ノ理由ハ國民政府ハ全面和平ヲ希望シ居ラズ而シテ右ハ若シ蔣ガ來ルトキハ現國民政府要

大臣
 人ハ其ノ地位ヲ失フコトヲ恐レ居ル爲ナリトノ一部日本人ノ誤解ヲトカントスル趣旨ニ出テタルモノナリ
 自分ハ何等疑ヒ居ラス

周
 尙蔣ハ近イ中ニ日本ト和議スル意思ナシトノ觀測ハ汪主席モ同意見ナリヤ、又蔣側近者ノ切崩ノ見込如何

此ノ問題ハ複雑ナリ側近者ノ切崩シニハ努力ヲ重ネ居リ關係者ノ來往モ多キ處蔣ノ部下ニハ自分ノ友人モ多キカ先方ヨリ常ニ「國府ハ日本ト平等ノ地位ニ立チ居ルヤ日本ノ傀儡ニアラサルヤ」トノ質問ヲ受ケ居ル様ノ次第ニテ容易ニツキ來ラス、此ノ點ヨリシテ國府ノ強化カ必要ナリ政府ヲシキ政府ヲ造リ日華平等ナリト見セ掛ケ先方ノ南京參加ヲ誘引スルコト肝要ナリ參戰問題モ同様ニシテ參戰セル場合ニハ重慶側ノ人々ハ國府モ參戰セリトテ國府ノ力ヲ認ムルニ至ルヘク然ラサレハ重慶側ハ國府ハ參戰スル力量モナシト輕侮スヘシ又參戰スレハ平和會議ニ於ケル國府ノ發言權モ發生スルコトトモナリ重慶側ニ對

スル效果ヲ期待シ得ヘシ故ニ參戰ハ全面和平ヲ妨害セサルノミナラス却ツテ效果アリ

大臣

國府ノ強化ハ廣ク高キ意味ニ於テ實行シタシ今自分ノ話スコトニハ疑念ヲ持タズ聞カレタシ

蔣ハ全面和平ノ氣持ニナラズ從ツテ側近者ヲ引付ケルニハ國府ヲ強化セザルヲ得ズト言ハルルガ強化シテ如何ナル人物ヲ引付ケラルル考ヘナリヤ

周

重慶側ニハ現在多數ノ派別アリ例ヘバ何應欽張羣ノ

一派ハ米ハ戰爭ニ勝チ得ズト觀居リ宋子文孔詳熙(詳)一派ハ米ハ必ズ勝ツベシト信ジ居ル處自分等ハ何、張一派ヲ引込ム積リナリ

大臣

重慶工作ニ付テハ種々考ヘ居ル處蔣本人ト其ノ側近者トヲ別ケテ考ヘルコトハ大事ナリ尙國府カ日本ト平等ノ地位ニ立ツ云々ノ問題ハ素々程度ノ問題ニシテ幾何學ノ公理ノ如ク判然ト行クモノニアラス或ルモノハ平等テアリ或ルモノハ不平等ナルコトモアル次第ニテ此ノ點判然トシタ數學的見方ノ不可能ナル點多々アルヘシ由來惡口ヲ放ツ者ハ何彼ニツケ惡口ヲ言フモノナリ滿洲國ニ對シテモ同様ナルカ事實ハ

彼等ノ惡口トハ正反對ナリ然シ乍ラ重慶側カ満足ス

ル程ニ行ケルヤハ疑問ナリ又惡口ヲ言フ氣持ヲ引付ケルコトハ大事ナルカ考ヘ方、力カ問題ナリ

重慶側カ蔣及側近者ノ力ヨリモ日本ノ力ノ方カ大ナリトシ日本ト南京トノ合力ハ更ニ大ナリト力ノ計算ヲスレハ先方モ考ヘ方ヲ變ヘ來ルヘシ何應欽ノ如キモ米英勝タスト考フルナラハ彼等ハ南京ハ日本ノ傀儡ナリト言ハスシテ近寄り來ルコト當然ナラスヤ

周

唯今閣下カ申サレタル通り平等問題ヲ幾何學的ニハ判然タラシムルコトハ不可能ナルモ現在ノ狀態ニテ

ハ國府ノ人間モ満足シ得ス、自分ハ日本側ト協力スル者ナレハ率直ニ申シ差支ヘナキカ重慶ニ對シテハ武力ノ壓迫ト共ニ政治的ニ國府ノ強化ヲ示シ彼等ヲ引寄セルコト必要ナリト思考ス此ノコトハ言セ難キモ武壓ヲ加フトモ先方ハ日本軍カ重慶迄ハ來攻シ得スト考ヘ居ル爲日本トノ接近ニ一日延ハセハ一日延ハシ得ト考ヘ居レリ

尙先刻申サレタル力ノ問題ニ付テハ極メテ同感ナリ唯今參戰ノ問題ヨリ長クナリタルカ自分共ハ直ニ參

戰スルコトヲ固守スルモノニアラス時機モ亦日本ノ指示ニ從フ次第ナリ

大臣

御話ノ次第ハ好ク諒承セリ考慮ノ上御出發前更ニ會

見シ御話シタシ

周

他ハ先程申上ゲタル金融ノ問題ナルガ唯今ノトコロ

舊法幣ノ全面回収ニ依リ新幣ノ發行ノ増加ヲ見ツツ

アル處將來新法幣ノ發行高ハ益々増加スルニ至ルベ

ク之カ價值維持ガ問題ナリ此ノ點ニ付テハ大藏大臣

ト御話シタルカ閣下ノ御耳ニ入レタシ

目下ノ所一億圓ノ「クレヂット」ヲ以テ發行ノ準備

ト致度ク協議中ナリ尙自分ノ承知シ居ル所ニテハ現

在日本軍中央部ニテハ軍票撤廢ヲ決定シ居ル趣ナル

ガ斯クテハ華中華南ニ於ケル軍票ヲ儲備券トスル必

要アリ儲備券ノ發行高ハ愈々増加スルニ至ルベク自

分ノ希望トシテハ現在軍票ノ價值維持ノ方法ヲ其ノ

ママ襲踏致シ度ク此ノ點ニ付テハ興亞院及南京貴國

大使館ニモ御話セリ尙他ハ財政問題ナルガ之ニ關シ

テハ南京日高公使トモ御相談致シタルガ公使ハ此ノ

問題ニ付テハ閣下トモ御相談申上グル様申サレタリ

今關稅ニ就キニツニ分ケレバーハ關稅收入ヲ以テ外債擔保ニ充テ他ノ一ハ關餘ヲ借款ノ形式ニテ使用シ

居レリ此ノ關餘ヲ借款形式ニテ使用スルコトヲ止メ

國府ニ於テ直接使用致度借款形式ヲ採用セル原因ハ

日英關稅協定ノ存在トIGガ英人ナリシ爲ナリ然ル

ニ大東亞戰爭後ハ事態ハ一變シ總稅務司モ日本人ト

ナリタル爲スカル形式ヲ採ル要ナクナリタル次第ナ

リ

大臣

儲備券ノ價值維持ニ付テハ國府ハ素ヨリ帝國トシテ

モ熱心ニ盡力致シタキ考ニシテ借款ニ付テモ出來得

ル限り助力スベシ唯之等ノ詳細ニ付テハ大藏大臣及

青木顧問ト御相談アリタシ關餘ニ付テモ成ルヘク貴

意ニ副フ様努力スベシ國民政府ノ強化ハ日本側ニテ

眞面目ニ考ヘ居リ強化ニハ信用ノ強化モアリ信用ノ

強化ニハ財政ノ強化ガ必要ナリ國府ニ於カレテモ信

用ノ高マル様内部ニ於テ努力セラルル必要アルヘク

兩々相俟ツテ信用高マリ國府ノ強化モ期待シ得ラル

ル次第ナリ

御說ノ次第御尤ニテ國府トシテモ財政強化ノ爲ニハ

周

出來得ル限り出費ヲ節約シ居ルカ在南京日本大使館ニ於カレテモ十分御諒知セラレ居レリ

現在國府ノ軍、警及官吏ノ俸給ハ十年前其ノ儘ニシテ此等ノモノハ其ノ日ノ暮シモ困難ノ狀況ニ在リ物價ハ騰ル一方ニテ平均約十倍ノ高騰ヲ見居ルニ拘ラス俸給ハ之ニ應シ得ス昨年若干ノ増俸シタルモ到底之ヲ救フニ足ラズ上級官吏ハ別トシ下級官吏ハ食フニ事缺ク現狀ニテ自然惡事ヲナシ政府ノ信用ヲ損ジ居リ之ガ解決ニ苦心シ居レリ

大臣
御苦心ノ程ハ十分御察シス此ノ難關切拔ケ解決ノ爲更ニ一段ノ御努力ヲ希望ス

周
自分ハ力足ラサルモ一生懸命努力致スヘキカ最モ困難ナ問題ハ下級官吏モサルコト乍ラ軍隊ノ給與ノ少キハ治安ニ影響スルコトナリ何等カ辦法ヲ講シ解決ニ努ムヘシ將來解決策決定ノ上ハ閣下及外務御當局ノ特別ノ御援助ヲ願ツテ已マス
南京ニ於ケル日本大使館ト常ニ密接ニ連絡シ居リ他ニハ言ヒ得サルコトモ大使館ニハ總テ打明ケ居ルニ付御安心下サレタシ

大臣
打明ケ打解ケルト言フコトハ萬事解決ノ素ニテ誠ニ結構ナコトナリ

周
御多用中長時間御邪魔シ恐縮ナリ云々

(午後四時辭去)

(付記)

東條總理大臣周佛海會見ニ關スル件

(昭和十七、七、二十二 亞一)

(欄外記入)
二十二日午後陸軍省宮本中佐ヨリ二十四日午後總理大臣官邸ニ於テ行ハルヘキ周佛海ト總理大臣トノ會談ノ際ノ總理

大臣ヨリ述フヘキ事項ノ資料トシテ宮本中佐ニ於テ作成セルモノノ内容概略左ノ通内報アリタリ

一、帝國政府ヲ信賴シテ施政全般ニ一層努力セラレ度キコト
二、國民政府内有力分子相援ケテ協力一致シ人ノ和ヲ旨トセラレ度キコト

三、幣制改革ニ關シテハ日本側ノ必要トスル儲備券ヲ圓滑且充分ニ供給スルコトニ努メラレ度キコト(軍票新規發行停止ニ關スル件)ニ記載アル字句ニ據ル)及本件ハ國民政府自体ノ問題ナルヲ以テ同政府トシテモ其ノ處理ニ一

層盡瘁セラレ度キコト

支那ニ於ケル經濟事情ノ特殊性ニ付テハ充分了解スルモ
戰爭遂行上從來ノ如キ自由主義經濟ヲ其ノ儘放任スルコ
トハ不可能ニシテ實狀ニ即シ必要且有效ナル統制經濟ヲ
實施セラレ度キコト

(欄外記入)

二十四日周佛海ノ語ル所ニ依レハ同日東條首相ハ參戰ノ件ニ關
シ「國民政府側御申出ノ趣旨ハ洵ニ御尤モト存ス、重大ナル事
項ナレハ十分研究スルコトト致度シ」ト述ヘタル由ナリ

85

昭和17年7月29日 東郷外務大臣
周仏海財政部部長 會談

南京国民政府参戦等に関する東郷外相と周仏

海との第二回會談

東郷大臣周部長第二次會談録

(一七、七、二九、木村通譯官記)

日時 昭和十七年七月二十九日午後五時ヨリ同五時二十
分迄

場所 外務省大臣室

會談者

日本側 東郷大臣

中國側 周部長

會談要記

大臣 國民政府ノ育成強化ハ何處迄モ行ハルト言フコトハ
日本政府ノ既定ノ根本方針デアツテ將來トモ此ノ點何等
變ルコトナキヲ以テ國民政府ニ於カレテモ懸念スルトコ
ロ無ク此ノ上トモ努力セラレタク此ノ度成立セル一億圓
ノ借款モ國府ノ育成強化テフ帝國ノ根本方針ノ現ハレナ
リ

尙前回會談ノ際ニ御話ノ二ツノ問題ニ付御答ヘスベシ
即チ(イ)海關剩餘見返り貸ノ話ニ關シテハ其ノ後當方ニ於
テモ關係方面ト折衝ノ結果主義上ハ御希望ニ應ズルコト
トナレリ即追ツテ細目ニ付決定ノ上實施スルコトト致ス
ベク右御承知アリタシ

次ニ(ロ)中國ノ參戰問題ニ關スル御話ノ次第ハ篤ト諒承セ
リ但タ今直ニ南京政府ガ參戰セラルルコトガ果シテ得策

ナリヤ又其ノ必要アリヤ研究ノ要アリ此ノ問題ハ各方面ニ大ナル影響ヲ及ボスコトニテ十分考究スル必要アルニ付日本政府トシテハ戰爭遂行方針ト睨ミ合ハセ篤ト研究致シタク右ニ御承知アリタシ

但ダ現ニ遂行中ノ戰爭ニ付キテ言フモ其ノ動キ極メテ速カニシテ新事態ガ續々發生シ居ル状態ナレバ又何時如何ナル事態ガ發生スルヤ豫測ヲ許サザル次第ニ付南京ニハ帝國ノ機關モ存在スルコトニモアリ貴方ニ於テモ之ト連絡ノ上萬一ノ場合ニ應シ得ル様研究置キアリタシ

周 種々御高配ヲ忝フシ感謝ニ堪ヘズ

尙汪主席ノ意見モ今直グ參戰ト言フニハアラズ十分研究シ日本ノ指示ニ從フト言フニ外ナク御話ノ新事態ノ發生及準備ハ極メテ肝要ナリ

大 臣 各方面ヨリ觀察シ參戰スルコトガ是カカヲ十分考ヘテヤル又若シ戰爭ニ入ルトスレバ如何スルカ十分ニ研究スルコト肝要ナリ

周 南京ニ歸リ相談スルト共ニ日本側關係方面トモ連絡致スベシ汪主席モ主義上參戰ヲ言ハルルモ今直ニトハ申サレズ準備モ必要ナリ

大 臣 日本トシテハ原則トシテ善キヤ否ヤ大イニ研究スル要アリト云フニアリ

尙一ツ申述べタキハ客年汪主席ノ來訪アリ最近亦褚外交部長モ來訪セラレタルニ付帝國トシテモ之ニ對スル答禮且日華兩國ノ親善關係ヲ更ニ強化スル爲特使ヲ派遣スルコトトナリ其ノ人選ニ付話ヲ進メ内定ヲ見タルガ特派使節トシテ平沼男、有田前外務大臣及永井前拓務大臣ヲ南京ニ行ツテ貴フコトニ話ヲ進メ居リ三人ニ於テモ異存ナキ次第ナルガ未タ正式ニハ發表シ居ラザル次第ニ付汪主席及褚外交部長ニ對シ貴下ヨリ自分ノ傳言トシテ右傳ヘラレタク南京着ハ九月ニ入ルコトトナルベキガ種々御世話ニナルコトト存ズ

周 御話ノ次第ハ早速主席等ニ報告シ準備致スベシ

大 臣 尙主席會々隨員トシテ外務省山本東亞局長隨行スル處局長ハ中國ノコトハ好ク解リ好都合ナリト存ズ尙陸海軍側ヨリモ二名宛位其ノ他ノ方面ヨリモ隨員トシテ隨伴赴寧スル筈ニテ人數ハ或ハ二十名ヲ超スヤモ知レズ

周 船ナリヤ飛行機ニ依ラルルヤ

大 臣 飛行機ナルベシ唯當時ハ颱風ノ季節ナルニツキ或ハ

二百二十日後即チ九月中旬頃トナルヤモ計ラレズ平沼
モ御老體ナレバ餘リ暑キ時期ハ面白カラズ稍涼シクナリ
タル時期適當ナルベシ

周 自分ハ愈々明朝(三十日)辭京上海ニ出發致スベシ

大臣 帝國ト貴國トノ關係ハ離ルベカラザルモノナレバ相

互協力シ兄弟ノ如ク行リタキ心算ナリ

從ツテ貴國ノ方モ單ナル仲良シニアラズシテ兄弟トシテ

行ツテ頂キタシ即餘リ形式ニ拘泥スルコトナク兄弟ノ氣

持ニナルコト必要ナリ

周 兩國ハ一ツノ船ニ乘リ居ルト同様ニシテ失敗スレバ共

ニ敗レ成功スレバ共ニ榮ユル次第ナリ

大臣 其ノ船ニ乘リ居ルモノモ他人同志ニアラズシテ兄弟

ナリ、此ノ點主席初メ政府要人ニモ傳ヘラレタシ

周 御用事モアラバ駐日大使ヲ通シ御申越サレタシ

大臣 兩國ハ近クモアルコトニモアリ相互力ヲ協ハセ行ル

ベシ

(以上)

86 昭和17年10月15日

在北京土田参事官より
谷外務大臣宛(電報)

租界及び治外法權問題につき大局的措置が必

要である旨意見具申

北京 10月15日後発

本省 10月15日後着

第九八一號(館長符號)

今次英米ノ在支治外法權撤廢(重慶側ニ於テハ佛國等ニ於
テモ英米ト同様ノ措置ニ出スヘキコトヲ期待スル旨宣傳シ
居ル模様ナリ)ハ重慶方面ノミナラス支那側一般ノ心理ニ
重大ナル反響ヲ與ヘツツアルヤニ看取セラルル處我方トシ
テハ日華基本條約ニ依リ治外法權撤廢及租界還付ノ方針ヲ
決定シ居ルノミナラス從來ヨリ東亞ノ解放ヲ強調シ居ル次
第二ニ此ノ際前記英米側ノ政治攻勢ニ對抗シ宣傳ノミナラ
ス實質的ニ支那側ノ協力ヲ促進スヘキ何等カノ措置ヲ執ル
ニ非サレハ支那側一般ヲシテ我方ノ誠意ヲ疑ハシメ支那側
民心把握上面白カラサル結果ヲ招來スヘキコトヲ惧ルル次
第ナリ(當方面ニ於ケル我方ニ理解アル有力要人方面ニ於
テモ大東亞戰爭勃發以來日本ハ赫々タル戦果ヲ擧ケ居ルモ

一般支那民衆ハ何等利益ニ均霑シ居ラス

却テ物資ノ不足乃至物價ノ昂騰ニ依リ生活上ノ困難ヲ増大シツツアル譯ノミナラス此ノ儘ニ放任スルニ於テハ支那側ノ民心把握ハ益々困難トナルヘシトノ意見ヲ洩シ居ルモノアリ)就テハ此ノ際租界及治外法權問題ノ處理、在支占領地ニ於ケル政治ノ根本的改善等ニ關シ戰爭指導ノ大局の見地ヨリ思切ツタル措置ニ出テ少クモ在支占領地ニ於ケル支那側民心ヲシテ重慶乃至共產黨側ヨリ離脱シ我方ニ接近セシムル様大勢ヲ誘導スルコト最モ時宜ニ適スルノ策ニ非スヤト存ス右ハ既ニ御考慮中ノコトトハ存スルモ爲念

南大、上海へ轉電セリ

87 昭和17年10月29日 大本営政府連絡會議決定

「國民政府ノ參戰竝ニ之ニ伴フ對支措置ニ關スル件」

付記一 昭和十七年十月三十日起案、谷外務大臣発在

中国重光大使宛電報案

右決定につき報告

二 昭和十七年十一月一日付、清水(董三)書記官作成

三 昭和十七年十一月十三日付

「國民政府ノ參戰問題ニ付テ」

谷外相、青木大東亞相、重光大使合意による

南京國民政府參戰問題への対処方針

●國民政府ノ參戰竝ニ之ニ伴フ對支措置ニ關スル件

方針

帝國ハ國民政府ノ參戰希望ヲ容レ同政府ヲシテ米英ニ對シ成ルヘク速カニ宣戰セシメ以テ支那側ノ對日協力ヲ促進シ大東亞戰爭ノ完遂ニ資ス

參戰ノ時機ハ在支敵産ノ處理、日支關係調整、其ノ他日支提携強化ニ關スル諸般ノ措置ヲ講シ其ノ見透シツキタル後トシ別ニ之ヲ定ム

要領

一、參戰ト同時ニ帝國ト國民政府トノ間ニ大東亞戰爭完遂ニ關スル新ナル協定乃至取極ヲ行フモノトス

二、右措置ニ對應シ左ノ諸件ヲ實施ス

(一) 在支敵産ニシテ帝國ノ大東亞經營上之カ取得ヲ要スル

- モノヲ選別シ要價擔保保全ノ爲速カニ之ヲ帝國ニ歸屬セシムルノ處置ヲ完了スルト共ニ爾餘ノ敵産ハ之ヲ國民政府ニ移管スルノ準備ヲ爲シ參戰後之ヲ實施ス舊敵産ハ軍事上必要トスルモノヲ除キ此ノ際原則トシテ之ヲ移管スル如ク措置ス
- (二) 國民政府參戰ト共ニ帝國ハ在支帝國租界ヲ同政府ニ還付スル旨ヲ聲明シ成ルヘク速ニ之ヲ實施ス
- (三) 上海共同租界ハ速カニ帝國ノ實權ヲ確立シタル上將來適當ナル時機ニ之ヲ國民政府ニ移管スルモノトス
- 廈門共同租界及北京公使館區域ノ措置モ亦右ニ準ス
- (四) 佛伊兩國ニ對シテハ帝國ノ措置ニ順應シ其ノ在支租界ヲ返還セシムル如ク施策ス但シ上海佛租界ニ付テハ其ノ共同租界ヘノ併合ヲ考慮スルコトアリ
- 廣州灣佛國租借地及澳門ハ當分現狀ノ儘トス
- (五) 國民政府參戰ニ伴ヒ問題トナルヘキ九龍租借地ハ我方ニ於テ之ヲ確保シ得ル如ク所要ノ措置ヲ講ス
- (六) 以上ハ友邦強化ノ爲帝國ノ敢行スル公正妥當ナル措置ナルコトヲ認識セシメ支那側ヲシテ是以上望蜀ノ念ヲ起サシメサル如ク指導スルト共ニ愈々戰時體制ヲ強化

シ帝國ニ對スル戰爭協力ノ實效ヲ擧クルニ努メシム備考(一) 參戰ノ時機ニ付テハ本年中ニ其ノ見透ヲツケ得ル如ク諸般ノ施策ヲ進ムルモノトス

(二) 敵産及租界ニ關スル具體的處理ニ付テハ別ニ定ムル所ニ依ル

(三) 本件ヲ國民政府ニ通報スル時機ハ別ニ之ヲ定ム

(四) 滿洲國ハ現下ノ情勢ニ於テハ參戰セシメサルモノトス

(付記一)

(欄外記入一) 國民政府ノ參戰要望ハ諸般ノ考慮ヨリ今日ニ至ルマテ之ヲ抑制シ來レル處今次特派大使答訪ニ際シ汪主席ヨリ重ネテ本件ニ關シ申出アリタルニモ鑑ミ更ニ各方面ヨリ本問題ニ付檢討ヲ加ヘタル結果速カニ在支敵産ノ處理、日支關係ノ調整其ノ他日支提携強化ニ關スル諸般ノ措置ヲ進メ其ノ見

透シ着キタル後ニ於テハ寧ロ成可ク速カニ國府ノ要望ヲ認ムルコト適當ナリトノ結論ニ到達シ二十九日政府大本營連絡會議ニ於テ「國民政府ノ參戰竝之ニ伴フ對支措置ニ關スル件」(要旨別電第 號⁽³⁴⁾ノ通り)決定シ諸般ノ準備完了ヲ

（依ッ）
挨ツテ國民政府ヲシテ參戰セシムルコトニ決定ヲ見タリ

參戰ノ時期ニ付テハ別ニ之ヲ定ムルコトトセルモ概ネ本年
中ニ其ノ見透シヲ着ケ得ル如ク諸般ノ施策ヲ進ムルコトト
ナレリ

尙本件ヲ國民政府ニ通報スル時期ハ別ニ之ヲ定ムルコトト
ナリ居ルニ付テハ事前ニ外部ニ洩レサル様措置アリ度
本決定ハ國家機密トナリ居ルニ付取扱特ニ注意アリ度

（欄外記入一）

本件軍側ト協議ノ結果大使ノミニ取り敢エス通報スルコトニ打
合せタリ

（欄外記入二）

陸軍倉本中佐ヨリ

本件取扱ヲ慎重ニシ、現地ヨリ呼寄スヘキヤノ議アルニ付發電
ハ暫ク待タレタシ

2.00p.m.

（付記一）

國民政府ノ參戰問題ニ付テ

昭和十七年十一月一日清水記

一、參戰問題ノ經過

一、大東亞戰爭勃發當時國民政府ノ參戰問題論議セラレタル
カ、我方ニ於テハ政府ノ方針ニ基キ大使館及總軍司令部
ヨリ國民政府ニ對シテ參戰ヲ暫ク差控ヘ實際上日本ニ對
シテ協力スルヲ以テ足ル次第ヲ申入レタリ

二、本年九月周佛海副院長訪日ニ際シ總理大臣及外務大臣ニ
對シ國民政府參戰ノ要望ヲ提示セリ、其ノ際外務大臣ハ
政府ニ於テ協議セル趣旨ニ基キ國民政府ノ參戰ハ其ノ各
方面ニ及ホス影響ノ大ナルニ鑑ミ慎重考究ヲ要スル問題
ニシテ、今遽カニ參戰スル必要ヲ認メサルモ、國際情勢
ノ變化ニ伴ヒ之ニ即應スルノ準備ハ必要ナルニ付、現地
日本當局ト連絡シ具体的研究ヲ進メ置カルルコト然ルヘ
シト告ケタリ。

三、平沼有田永井特使來訪ノ際、汪主席ハ國民政府ノ參戰ハ
政府治下軍官民ノ士氣ヲ鼓舞シ政府ノ結束ヲ堅カラシム
ル效果アルト共ニ現在國民政府側カ日本ニ對シ協力シツ
ツアル軍需物資ノ供給モ正々堂々ト行フコトヲ得重慶側
カ國民政府ヲ以テ傀儡政府ナリト宣傳スル口實ヲ失ハシ

二 南京國民政府參戰問題と「對支新政策」の展開

ムル效果アリト述へ、參戰ノ有意義ナルコトヲ強調セリ。

三、國民政府ノ參戰要望ノ理由

國民政府側ノ參戰ヲ主張スル理由トシテ表面的ニ説明シアルトコロハ左ノ如シ。

一、管下軍官民ノ士氣ヲ鼓舞スルコトヲ得。

二、日本ニ對スル物心兩方面ノ協力ヲ更ニ一層積極的ニ行フコトヲ得。

三、重慶側カ國民政府ヲ目シテ日本ノ傀儡ナリト爲ス宣傳ヲ封スルコトヲ得。

而シテ、國民政府當局ハ參戰ニ依リ敵國權益ノ分ヶ前ニ預ラントスルカ如キ考ハ之ヲ有セスト述ヘ居レリ。

然レトモ以上ハ何レモ日本側ニ對スル説明ニシテ必スシモ其ノ眞意ヲ吐露セルモノト認ムルヲ得ス。各方面ノ情報ヲ綜合スルニ參戰ヲ希望スル眞ノ理由ハ左ノ如キモノト見テ差問ナシ。

一、國民政府ハ各種ノ事情ニ依リ部内ノ意氣揚カラス意氣⁽¹⁾惰

沈ノ姿ニアルヲ以テ之ヲ引立ツルニハ參戰ノ如キ新ラシ

キ目標ヲ與フル必要アルコト。

二、現在國民政府ハ日本ニ對シ戰爭協力ニ努メツツアルモ參

戰セサル以上大義名分トシテ其ノ協力ハ單ニ日本ヨリ要求セラルルコトヲ聽從スルト言フ形ニ止マリ之ニ對スル負擔苦痛ヲ解釋スルニ由ナキコト。

三、外國權益ノ回收ハ支那近年ノ要望ナルカ、現在國民政府ハ參戰シ居ラサル爲メ其ノ分ヶ前ニ預ル能ハス、眼前ニ日本ノ爲ス儘ニ任セ之ヲ傍觀スルノ外ナキコト。

四、國民政府ノ對外的地位ヲ幾分ニテモ高ムル爲メニハ參戰ヲ有利ト考フルコト。

五、國民政府カ正式ニ宣戰スレハ日本モ國民政府ヲ重シ政治經濟上ノ強壓ヲ緩和シ、幾分ニテモ自由ヲ與フルニ至ルヘシト豫想シ居ルコト。

三、國民政府ノ參戰ト日本トノ關係

(特ニ支那事變處理ニ關シ)

國民政府ノ參戰要望ハ政府ノ眞意ハ寧ロ敍上ノ如キモノニシテ之ニヨリテ支那一般民衆ノ要望タル自由ノ恢復又ハ商工業ノ復興ヲ圖ラントスルモノニシテ、斯クノ如クシテ日本トノ眞ノ協力ヲ容易ナラシメントスルモノナリ。

萬一參戰ニ依リ支那側トシテ何等獲ル所ナク今日以上日本ヨリ強壓ヲ加ヘラルルコトトナラハ全く豫想ニ反スルコト

(欄外記入)

トナリ、參戰ノ結果ハ却ツテ支那國民ノ失望ヲ招キ國民政府ヲ愈々窮地ニ追込ムコトトナルヘク、而シテ今日ノ如キ窮境ニアル支那ノ社會狀況ニ鑑ミ、支那上下一般ノ對日感情ハ極度ニ惡化スルノ虞アリ。從ツテ日本カ國民政府ノ參戰ヲ機會ニ對支政策ノ一大進轉ヲ圖リ政治的ニハ敵國ノ在支權益ヲ出來得ル限り支那ニ還付スルハ勿論外國(日本ヲモ含ム)ノ權益ヲ整理シ不平等條約關係ヲ調整シ、支那ヲシテ東亞建設ノ一員タル資格ヲ認識セシムルト共ニ政治上ノ抑壓ヲ緩和シ經濟的ニハ今日行ハレ居ルカ如キ壓迫ヲ排除シ支那國民ヲシテ東亞解放ノ戰爭トシテ欣然之ニ協力セシムルノ工夫ヲ凝ラス用意ナカルヘカラス。若シ然ラスシテ漫然國民政府ヲ參戰セシムルカ如キハ支那問題ヲ一層惡化セシムルモノト言フヘク、萬一日本カ參戰ニ依リ一層國民政府ニ強壓ヲ加ヘ一層支那ヲ搾取セントスルナラハ其ノ結果ハ遂ニ支那問題ヲシテ破産セシムルニ至ルヘシ。

(付記二)

國民政府參戰問題

(一七、一一、一三)

一、國民政府ハ大東亞戰爭勃發以來同甘共苦ノ精神ニ基キ帝

國ノ戰爭遂行ニ協力シツアルトコロ此際寧ロ參戰ヲ斷行シ國民ノ嚮フ所ヲ示シ政府ノ立場ヲ明カニシ以テ前記政策ノ遂行ニ資シ積極的ニ大東亞戰爭完遂ニ協力スルニ若カサルコトヲ痛感スルニ至レリ

二、帝國政府ハ現下大東亞戰爭カ益々深刻ヲ加ヘ支那ニ對シ協力ヲ求ムルコト愈々切實ヲ要スルモノアルニ鑑ミ此ノ際右國民政府ノ要望ヲ容レテ其ノ參戰ヲ實現シ支那官民ノ帝國ニ對スル協力ノ熱意ヲ喚起シ國民政府ノ政治力ヲ強化シ益々帝國ニ協力シ得ル體制ヲ整ヘシムルコトハ大東亞戰爭完遂ノ爲緊急ノ對策ナリ

三、然レトモ國民政府ノ參戰ニ當リテハ帝國政府ハ之ニ對應シ充分政治的考慮ヲ加ヘ支那官民ヲシテ衷心大東亞戰爭ニ協力スルノ有意義ナルコトヲ感セシメ且ツ協力ヲ容易ナラシムル素地ヲ作り併セテ日支關係ノ將來ニ新タナル希望ヲ繫カシムルニ足ル各般ノ措置ヲ講シ以テ情勢ノ一大轉換ヲ圖ラサルヘカラス

四、而シテ帝國政府カ右ノ如キ措置ヲ講スルニ決定セル上ハ中央統帥及政府ノ各機關一體トナリ現地各機關亦一致シテ飽迄之ヲ實行スルノ堅キ決意ト用意トヲ以テ政策ノ徹

底ヲ計リ以テ帝國ノ威信ヲ繫キ且ツ其ノ效果ヲ充分ニ發揮スルニ努力スルコト肝要ナリ

五、前記ノ趣旨ニ基キ國民政府参戦ノ際取ルヘキ帝國政府ノ措置ハ左ノ通トス

(イ) 民生ノ安定及産業ノ復興ニ對スル協力

(ロ) 重慶敵産ノ返還及米英等ノ敵産ノ支那ニ對スル好意的

處置

(ハ) 租界ノ返還(佛伊租界返還ニ對スル斡旋ヲ含ム)

(ニ) 治外法權撤廢其ノ他不平等條約ノ改訂等

六、國民政府参戦ノ前後ニハ左ノ如キ手續ト順序トヲ執ルモノトス

(イ) 總理大臣渡支ノ上汪主席ニ對シ國民政府ノ要望ニ應ジ参戦セシムヘキ旨ヲ通報スルト共ニ其ノ際帝國ノ採ル

ヘキ措置ノ内容ヲ提示ス(談話振別紙通稱ノ通)

(ロ) 右通報後國民政府側ハ重光大使ト打合セノ上成ルヘク

速ニ所要ノ内部的手續ヲ完了シ適當ノ時期ニ参戦ヲ宣言シ帝國政府ハ之ト同時ニ其ノ執ルヘキ措置ヲ表明シ

且ツ兩國ノ間ニ一般的軍事協力ヲ約スルコトトス

(ハ) 帝國政府ノ表明セル措置ニ付帝國政府ハ引續キ國民政

府ト協議シ急速ニ其ノ實現ヲ圖ル

以上

(欄外記入)

谷、青木、重光會談ノ結果

88 昭和17年11月27日 大本營政府連絡會議了解

「國民政府参戦ニ伴フ諸準備ニ關スル件」

● 國民政府参戦ニ伴フ諸準備ニ關スル件

一、重光大使歸任ノ上汪主席ニ對シ國民政府参戦ニ關スル帝

國ノ意向ヲ内報ス

二、國民政府参戦ハ明年一月中旬以後成ルヘク速ニ適當ノ機

會ヲ捉ヘテ之ヲ行ハシムルコトヲ目途トシテ諸般ノ準備

ヲ整フ

三、國民政府参戦ニ伴フ諸準備ハ日華雙方共ニ参戦實現ニ至

ル迄絶對極秘裡ニ進ム

備考 一、國民政府参戦前汪主席ノ來朝ヲ適時從憑ス

二、國民政府参戦後適當ナル時機ニ總理國民政府ヲ

89
昭和17年12月21日 御前會議決定

「大東亞戰爭完遂ノ爲ノ對支處理根本方針」

付記一 昭和十七年十二月二十一日、御前會議說明資料

「御前會議議題「大東亞戰爭完遂ノ爲ノ對支處理根本方針」ニ關スル大東亞大臣說明」

二 昭和十七年十二月二十一日、御前會議說明資料

「御前會議議題「大東亞戰爭完遂ノ爲ノ對支處理根本方針」ニ關スル外務大臣說明」

三 昭和十七年十二月十八日、大本營政府連絡會議決定

「大東亞戰爭完遂ノ爲ノ對支處理根本方針ニ基ク具體的の方策」

大東亞戰爭完遂ノ爲ノ對支處理根本方針

第一、方針

一、帝國ハ國民政府參戰ヲ以テ日支間局面打開ノ一大轉機トシ日支提携ノ根本精神ニ則リ專ラ國民政府ノ政治力

ヲ強化スルト共ニ重慶抗日ノ根據名目ノ覆滅ヲ圖リ眞ニ更新支那ト一體戰爭完遂ニ邁進ス

二、世界戦局ノ推移ト睨合セ米英側反攻ノ最高潮ニ達スルニ先チ前項方針ニ基ク對支諸施策ノ結實ヲ圖ル

第二、要領

一、國民政府ノ政治力強化

(イ)帝國ハ國民政府ニ對シ勉メテ干涉ヲ避ケ極力其ノ自發的活動ヲ促進ス

(ロ)極力占據地域内ニ於ケル地方的特殊性ヲ調整シ國民

政府ノ地方政府ニ對スル指導ヲ強化セシム

(ハ)支那ニ於ケル租界、治外法權其ノ他特異ノ諸事態ハ

支那ノ主權及領土尊重ノ趣旨ニ基キ速ニ之カ撤廢乃至調整ヲ圖ル

九龍租借地ノ處理ニ關シテハ香港ト併セ別途之ヲ定

ム

(ニ)國民政府ヲシテ不動ノ決意ト信念トヲ以テ各般ニ巨

リ自彊ノ途ヲ講セシメ廣ク民心ヲ獲得シテ戰爭完

遂ノ爲必要トスル生産ノ増強、戰爭目的ニ對スル官

民認識ノ普及並ニ治安維持ノ強化等ノ確實ナル具現

ヲ圖リ戰爭協力ニ徹底遺憾ナカラシム

(ホ)帝國ハ將來國民政府ノ充實強化竝ニ其ノ對日協力ノ具現等ニ照應シ適時日華基本條約及附屬諸取極ニ所
要ノ修正ヲ加フルコトヲ考慮ス

二、經濟施策

(イ)當面ノ對支經濟施策ハ戰爭完遂上必要トスル物資獲得ノ増大ヲ主眼トシ占據地域内ニ於ケル緊要物資ノ重點的開發取得竝ニ敵方物資ノ積極的獲得ヲ圖ル

(ロ)經濟施策ノ實行ニ當リテハ勉メテ日本側ノ獨占ヲ戒ムルト共ニ支那側官民ノ責任ト創意トヲ活用シ其ノ積極的對日協力ノ實ヲ具現セシム

三、對重慶方策

(イ)帝國ハ重慶ニ對シ之ヲ對手トスル一切ノ和平工作ヲ行ハス

狀勢變化シ和平工作ヲ行ハムトスル場合ハ別ニ之ヲ

決定ス

(ロ)國民政府ヲシテ右帝國ノ態度ニ順應セシム

四、戰略方策

帝國ノ對支戰略方策ハ既定方針ニ據ル

(付記一)

御前會議議題「大東亞戰爭完遂ノ爲ノ對支處理根本方針」ニ關スル大東亞大臣說明

謹ミテ本案内第一方針竝ニ第二、要領ノ一、二、三及三ノ(ロ)ニ付キマシテ御説明申上ケマス

一、本案第一方針ニ關シ

總理大臣ノ述ヘラレマシタル提案理由ニ基キ今日大東亞

戰爭完遂ノ爲帝國ノ採ルヘキ對支處理方針トシテ最モ肝

要ナルコトハ(一)國民政府參戰ヲ以テ日支間局面打開ノ一

大轉機トシ日支提携ノ根本精神ニ則リ專ラ國民政府ノ政

治力ヲ強化スルト共ニ重慶抗日ノ根據名目ノ覆滅ヲ圖リ

眞ニ更新支那ト一體戰爭完遂ニ邁進スルコト及(二)世界戰

局ノ推移ト睨合セ米英側反紅ノ最高潮ニ達スルニ先チ右

ニ基ク對支諸施策ノ結實ヲ圖ルコトニ存スルト存セラレ

マス

仍テ右趣旨ヲ本案ノ方針ト致シマシタ次第テ御座リマス

右方針ニ依ル對支諸施策ノ要領ハ本案第三ニ掲ケテ居

リマス又右方針ニハ時機的ノ關係ニ於ケル帝國トシテノ

努力目標ヲ示シタモノテ御座リマス

二、日華戰爭協力ニ關シ

帝國ハ更新支那ト一體戰爭完遂ニ邁進スル旨ノコトハ右ノ通本案方針ニ明示スル所テ御座リマスルカ之カ爲ニハ國民政府參戰ヲ機トシ同政府トノ間ニ「米英ニ對スル共同ノ戰爭ヲ完遂スル爲日華兩國ハ不動ノ決意ト信念トヲ以テ軍事上政治上經濟上完全ナル協力ヲ爲ス」モノナル旨ノ基本的取極ヲ締結スルコトカ必要テアルト考ヘマスルト共ニ國民政府ヲシテ各般ニ巨リ自強^{編カ}ノ途ヲ講セシメ廣ク民心ヲ獲得シ特ニ戰爭完遂ニ必要ナル生産ノ増強、戰爭目的ニ對スル官民認識ノ普及並ニ治安維持ノ強化等ノ確實ナル具現ヲ圖リ戰爭協力ニ徹底遺憾ナカラシムルコトカ必要テアルト存スル次第テ御座リマス

三、本案第三要領一、國民政府ノ政治力強化ニ關シ

本案第三要領一、(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)ニ掲ケテ居リマスル所ハ國民政府政治力強化トシテ特ニ主要ナルモノニ付其ノ要領ヲ示ス趣旨テ御座リマス

(イ)項説明 國民政府ハ誕生以來日尙淺ク未タ成熟ノ域ニ達スルニ至ツテ居リマセヌノテ之カ健全ナル育成ノ爲ニ

ハ尙帝國ノ支援ト好意的誘掖ヲ必要トスルコトハ當然テアリマスルケレトモ眞ノ支援誘掖ノ範圍ヲ逸脱シテ干涉ノ弊ニ陥ルカ如キコトカアリマシテハ獨立政府トシテノ權威ト自尊心トヲ傷ケ其ノ創意ト責任感トヲ殺スコトトナリ其ノ結果ハ同政府ノ政治力ノ強化ヲ妨クルコトトナルハ勿論政府ノ存立ソノモノノ意義ヲ滅却スルノ結果トナルノ虞カアリマスノテ帝國ハ國民政府ニ對シ勉メテ干涉ヲ避ケ極力其ノ自發的活動ヲ促進スルコトカ國民政府ノ政治力強化上極メテ緊要事ト認メ之ヲ本案第三要領一、(イ)項ニ掲ケマシタル次第テ御座リマス

(ロ)項説明 本案第三要領一、(ロ)項ニ掲ケマシタル地方の特殊性ノ調整及國民政府ノ地方政府ニ對スル指導強化ニ關シマシテハ之カ實行ニ當リ支那側中央地方相互間ニ無用ノ摩擦、感情的相剋ナカラシムルノミナラス進テ融和の雰圍氣ヲ醸成セシメ中央地方共ニ更新支那ノ構成分子トシテ協心^{戦カ}戯力戰爭完遂ニ邁進セシムルト共ニ帝國トシテハ差當リ日華基本條約及附屬諸取極ニ反セサル範圍ニ於テ(1)省政府以下ノ各地方政府人事ニ關シテハ支那側ノ自由處置ニ任シ日本側ハ之ニ干涉セサルコト(2)省政府以

下ノ施政ニ關スル日本側ノ指導乃至要求ハ作戰警備ニ限定スルヲ本則トシ爾他ノ行政部面ニアリテハ廣ク支那側ニ任せ支那側ノ責任ト創意トヲ活用シ其ノ自發的活動ニ依ル政治力強化及積極的對日協力ヲ促進スルコト(3)日本側ハ支那側上級政府ノ下級政府ニ對スル政令ノ貫徹ヲ助長スルモノトシ末梢ニ於ケル干涉ニ依リ支那側施政ノ中絶分斷スルカ如キコトナカラシムルコト(4)華北政務委員會ト中央政府トノ權限關係ニ付テハ日華基本條約附屬秘密交換公文(甲)ニ基キ所要ノ調整整理ヲ圖ラシムルト共ニ勉メテ兩者間ノ空氣ヲ融和セシメ且相互ノ經濟的關聯性ヲ一層密ナラシムルコト(5)蒙疆ニ關シテハ華北トノ間ニ相互ノ經濟的關聯性ヲ特ニ密ナラシムルコト(6)武漢及廈門ニ關シテハ廣東ニ準シ爲シ得ル限り國民政府ノ政治力ヲ滲透セシムルコト(7)海南島ニ關シテハ現狀ニ從ヒ日華基本條約秘密交換公文(甲)ヲ斟酌シ所要ノ調整ヲ行フコトカ必要テアルト考ヘテ居リマス

(ハ)項説明 本案第三、要領一、ノ(ハ)項中ノ租界ニ關シマシテハ帝國ノ專管租界即チ天津、杭州、蘇州、漢口、沙市、重慶、廈門、福州ノ日本租界ヲ支那側ニ還付スル爲又上

海及廈門ノ共同租界ヲ支那側ニ移管スル爲國民政府參戰ヲ機トシ同政府トノ間ニ所要ノ取極ヲ締結スルコトトシ而シテ右專管租界還付ニ關スル取極ノ實施ニ關シテハ日華兩國政府夫々同數ノ委員ヲ任命シ所要ノ事項ヲ議定セシムルコトトシ又上海及廈門ノ共同租界移管ニ關スル取極ニ於テハ「日本國政府ハ別ニ協議決定セラルル所ニ從ヒ中華民國國民政府ニ於テ成ルベク速ニ上海共同租界及廈門共同租界ヲ回收スルコトニ同意ス」ル旨ヲ定メ右兩取極ハ孰レモ之ヲ公表スルコトカ政治的效果ヲ舉クル上ヨリシテ適當テアルト存シテ居リマス

本案第三、要領一、ノ(ハ)項中治外法權ノ撤廢ニ關シマシテハ治外法權撤廢ニ關スル具體案ヲ審議作成セシメ併セテ支那側ノ内地開放ニ關シ研究セシムル目的ヲ以テ日華專門委員會ヲ設置スル爲國民政府參戰ヲ機トシ國民政府トノ間ニ所要ノ取極ヲ締結シテ之ヲ公表スルコトトシ而シテ帝國トシテハ治外法權撤廢ノ實行ハ前記專門委員會ニ於ケル具體案ノ作成ニ伴ヒ漸次之ヲ實施ニ移シテ全面的撤廢ニ及フコトトシ先ツ國民政府ニ對スル財政援助ノ目的ヲ以テ課稅ニ關スル我方特權ニ付速ニ調整ヲ加フル爲專

門委員會ヲシテ先ツ課稅問題ノ研究ニ當ラシムルヲ適當ト考ヘテ居ル次第テ御座リマス

本案第三要領、ノ(ハ)項ニ所謂「其ノ他特異ノ事態」中ニハ北京公使館區域及日華基本條約附屬議定書第一條ニ所謂「特殊事態」即チ例ヘハ各種徵稅機關ニシテ特異ノ狀態ニアルモノ及軍管理工場等ヲ含ムモノテ御座リマスルカ右ノ中北京公使館區域ニ付テハ之ヲ支那側ニ移管スル爲國民政府參戰ヲ期トシ同政府トノ間ニ取極ヲ締結シテ之ヲ公表スルコトトシ又所謂「特殊事態」ニ付テモ支那ノ主權及領土尊重ノ趣旨ニ基キ速ニ之カ撤廢乃至調整ヲ圖ルコトカ國民政府ノ政治力強化上必要テアルト考ヘテ居リマス

尙九龍租借地ノ處理ニ關シマシテハ香港ト併セ別途之ヲ定ムルコトカ適當ト考ヘラレマスノテ其ノ旨ヲ明カニ致シマシタ

(ニ)項説明 本案第三要領、ノ(ニ)項ハ國民政府ノ自疆方策及戰爭協力方策ニ關スルモノテ御座リマス國民政府ヲシテ各般ニ互リ自ノ途ヲ講セシムルノ必要カアルコトハ申ス迄モ御座リマセヌ例ヘハ人的、精神的及機構的ニモ戰

時態勢ノ強化ヲ圖ラシムルコトカ必要テアリ又自ラ其ノ財政ヲ強化スル爲有ラユル方策ヲ講セシメ特ニ同政府治下ノ治安ヲ確立シ經濟力ノ伸張ヲ圖ラシムルコトカ必要テアルト考ヘマス而シテ帝國ハ右國民政府自疆方策ニ對シ援助ヲ與フルモノトシ特ニ前述ノ如ク治外法權等ニ泰ク課稅ニ關スル我方特權ニ付調整ヲ加フルト共ニ國民政府ノ關稅、轉口稅及統稅等ノ稅率其ノ他ノ合理的改正竝ニ儲備券ノ價值維持等ニ付所要ノ援助ヲ與フルコトカ必要テアルト考ヘテ居リマス

國民政府ノ戰爭協力ニ付キマシテハ曩ニ申述ヘマシタ通りテ御座リマス

(ハ)項説明 本案第三要領、ノ(ハ)ニ於テ將來國民政府ノ充實強化竝ニ其ノ對日協力ノ具現等ニ照應シ適時日華基本條約及附屬諸取極ニ所要ノ修正ヲ加フルコトヲ考慮スル旨ヲ掲ケマシタル所以ニ付概略ヲ申上ケマスレハ總理大臣ノ本案提案理由説明中ニアリマシタル如ク大東亞戰爭發生前ニ於キマシテハ帝國ハ支那ニ於ケル米英ノ跳梁ヲ現存セシメツツ事變處理ノ方途ヲ講セサルヲ得サル事情ニ置カレテ居リマシタ關係モアリ之ニ對抗スル必要ト米

英ト苟結スル支那抗日勢力ノ再燃ニ對スル備ヘヲ爲ス必要等ニ基キ帝國ノ對支要求條件ハ必シモ現下ノ新事態ニ適合セサル點カアリマスルコトハ否ミ難キ所ト存セサルルノテ御座リマス然カノミナラス大東亞戰爭發生後ノ今日ニ於キマシテハ帝國最高ノ緊要事ハ米英ニ對シ勝ツニ在リテ支那トノ關係ニ於キマシテ出來得ル限り速ニ眞ニ日支一體トナリ戰爭完遂ニ邁進スルノ態勢ヲ確立スルコトカ緊要テアルト認メラルルノテアリマスルカ之カ爲ニハ支那側ニ對シ今後ノ日支關係ニ付光明ヲ與ヘ重慶抗日ノ根據名目ヲ覆滅スルコトカ必要テアルト存セラレマヌスル事情ニ鑑ミマシテ必スシモ從來ノ經緯ニ拘泥スルコトナク將來適當ナル時機ニ於テ日華基本條約及附屬諸取極ニ所要ノ修正ヲ加フルコトヲ考慮スルコトカ適當テアルト存セラルル次第テ御座リマス尤モ如何ナル時機ニ於テ如何ナル修正ヲ加フルカニ付キマシテハ慎重ナル考慮ヲ要スル儀ト存シマス

尙本案第三要領一ニ掲ケマシタル以外在支敵産處理ニ關シマシテモ出來得ル限り支那側ニ對シ好意的措置ヲ講シ民心ノ獲得國民政府ノ政治力強化ニ資スルコトカ適當テ

アルト存シテ居リマス

四 本案第三要領ニ經濟施策ニ關シ

(イ) 項説明 帝國ノ物的戰力ノ急速ナル增強カ國家當面ノ

緊要事テアリマスル事ハ贅言ヲ俟タサル所テ御座リマ

ス而シテ帝國ノ物的戰力增強上支那方面ニ對スル期待

ハ益々緊切ナルモカアルノテアリマスルニ依リ本案

第三要領三ノ(イ)項ニ於キマシテ當面ノ對支經濟施策ノ

重點ヲ明カニ致シマシタ次第テ御座リマス即チ當面ノ

對支經濟施策ハ戰爭完遂上必要トスル物資獲得ノ増大

ヲ主眼トシ占據地域内ニ於ケル緊要物資ノ重點的開發

取得竝ニ敵方物資ノ積極的獲得ヲ圖ルコトニ在ル旨ヲ

明示致シマシタ之カ實行ノ爲ニハ政府ハ統帥部ト策應

シ有ラユル努力ヲ傾注スル覺悟テ御座リマス尙支那ニ

於ケル物資ノ獲得及統制ニ付キマシテハ物資取得ヲ増

大シ併セテ民生ニ資スル爲物資統制ヲ合理化スルト共

ニ物資買上價格ノ敵正化(通カ)ヲ圖ル必要カアルト考ヘテ居

リマス

(ロ) 項説明 對支經濟施策ノ實行ニ當リテハ日本側ノ獨占

ヲ戒ムルト共ニ支那側官民ノ責任ト創意トヲ活用シ其

ノ積極的對日協力ヲ具現セシムルコトカ肝要ト認めラ
レマスルノテ右ノ趣旨ヲ本案第三要領ニ、(ロ)ニ掲ケマ
シタ次第テ御座リマス支那側官民ノ積極的ナル經濟活
動及對日協力ヲ促進致シマスル爲ニハ差當リ日支合辨
ノ支那法人ヲシテ名實共ニ支那側ノ監督下ニ置キ其ノ
資本、人的構成、免稅特權其ノ他ニ付根本的調整ヲ加
フル外一般物資ノ生産及配給ニ當リテモ日本側ノ獨占
ヲ避ケ支那側ヲシテ參加均霑セシムル措置ヲ講スルコ
トカ必要テアルト考ヘテ居リマス

五、國民政府ノ對重慶方策ニ關シ

帝國ノ對重慶方策ニ付キマシテハ本案第三要領ニ、(イ)項
ニ掲ケテ居リマスルカ國民政府ノ對重慶態度ハ右帝國ノ
態度ニ順應セシムルコトカ適當ト考ヘラレマスノテ其ノ
旨ヲ(ロ)ニ掲ケマシタ次第テ御座リマス國民政府ヲシテ現
情勢下ニ於テハ重慶ニ對スル一切ノ和平工作ヲ清算セシ
メ一意自疆^(附)ノ方策ヲ樹立シツツ眞ニ日支一體戰爭協力ニ
邁進セシムルコトカ參戰ニ伴フ同政府ノ新ナル使命ニモ
鑑ミ適居^(イ)テアルト存セラルル次第テ御座リマス

六、爾他ノ具体的方策ニ關シ

本案ニ基ク上述以外ノ具体的方策ハ所要ニ應シ別ニ定メ
テ實行ニ移シテ行クヘキモノト存シマス
本案ノ實行ニ當リマシテハ一方國內人心ノ指導ニ留意致
シマスルト共ニ他方對外殊ニ對支宣傳戰ヲ活潑ニ展開シ
極力政治的效果ヲ大ナラシムル如ク施策スルノ要緊切ナ
ルモノアリト考ヘテ居ルル次第テ御座リマス

要スルニ以上本案ノ目的トスル所ハ大東亞戰爭完遂ノ爲
日支提携ノ根本精神ニ則リ國民政府ノ政治力ヲ強化スル
ト共ニ重慶抗日ノ根據名目ノ覆滅ヲ圖リ眞ニ更新支那ト
一體戰爭完遂ニ邁進スルコトヲ根本方針トシ之カ爲必要
ナル施策ハ必シモ從來ノ經緯ニ拘泥スルコトナク果敢ニ
實行センコトヲ期スルモノテアリマシテ深ク今日ノ戰爭
遂行ノ要請ニ基クモノト存スルル次第テアリマス
以上ヲ以テ本案第三ノ三、(イ)項及四、竝ニ對第三國關係以
外ノ部分ノ説明ヲ終リマス

(付記一)

御前會議議題「大東亞戰爭完遂ノ爲ノ對支處理根本方

針」ニ關スル外務大臣説明

謹ミテ本方針ニ基ク諸方策實施ニ關聯致シマスル第三國關係ニ就キマシテ御説明申上マス

帝國外交ノ立場ヨリ見マシテ今回ノ諸施策ハ萬邦ヲシテ各其所ヲ得シメントスル帝國對外國策ノ根本精神ニ合致スル所テ御座イマシテ之ニ依ル帝國ノ公明ナル態度ノ闡明ハ大東亞地域内ノ諸民族ヲ初メ印度其ノ他米英ノ壓迫ニ惱メル諸民族ニ對シ相當ノ心理的影響ヲ及ホスモノト思考致ス次第テ御座イマス尤モ敵國側ニ於キマシテハ國民政府ノ參戰竝ニ帝國ノ諸措置ニ就テ種々ナル惡宣傳ヲ爲スヘシト豫想セラルルノテ御座イマスルカ之ニ對シ帝國ト致シマシテハ國民政府ニ協力シテ其ノ參戰ノ名分ヲ世界ニ闡明シ且帝國ノ公明ナル態度ヲ廣ク内外ニ徹底セシムルニ努メマシテ其ノ對外的效果ヲ收メルコトニ努力致シ度イ所存テ御座イマス

他方支那ノ參戰ハ第三國トノ間ニ種々ナル關係ヲ生スルノテ御座イマス即チ敵國ニ對シテハ其ノ現支諸權利ヲ消滅セシメ支那ノ自主的地位ヲ恢復スルコトナリマスルシ獨伊等ノ友邦トハ共同ノ敵ニ對スル戰爭完遂ニ寄與スル次第テ

アリマス又中立國ニ對シテハ支那ノ異常ナル決意ヲ示ス機會ヲ得マシテ之等ノ關係ト帝國ノ公正ナル措置ト相俟ツテ國民政府ノ國際的地位ヲ固ムル上ニ資スル所少ナカラスト存スルノテ御座イマス

其ノ間帝國ニ於キマシテハ獨逸、伊太利、佛蘭西其ノ他中立諸國ニ對シマシテ帝國ノ公明ナル態度ニ順應スル様誘導スルコト緊要ナリト思考致シマスルカ具体的ナル問題例ハ佛蘭西、伊太利等ノ在支租界ヲ國民政府ニ返還方ヲ斡旋スルカ如キ問題ニ就キマシテハ相當ノ困難ヲ豫想致サレルノテ御座イマス帝國ト致シマシテハ之等諸國トノ友好關係ヲ充分ニ考慮致シマシテ帝國ノ對外諸施策ノ全般ト照應シテ機宜ノ措置ヲ講シ以テ目的ノ達成ニ努力致シ度キ所存テ御座イマス

以上ヲ以テ私ノ説明ヲ終リマス

(付記二)

大東亞戰爭完遂ノ爲ノ對支處理根本方針ニ基ク具体的
方策

昭和十七年十二月十八日

大本營政府連絡會議決定

第一、戰爭協力確保ノ爲ノ日華間基本取極

國民政府參戰ヲ機トシ國民政府ノ戰爭協力ヲ確保シ眞ニ更新支那ト一體戰爭完遂ニ邁進スル爲該政府トノ間ニ基本の取極ヲ締結ス

第二、國民政府ノ政治力強化

國民政府ノ政治力ヲ強化スル爲差當リ左ノ措置ヲ講ス
一、國民政府ノ財政強化

イ、國民政府ヲシテ自ラ其ノ財政ヲ強化スル爲有ラユル方策ヲ講セシムルモノトシ特ニ該政府治下ノ治安ヲ確立シ經濟力ノ伸張ヲ圖ラシム

ロ、帝國ハ右國民政府財政自疆方策ニ對シ援助ヲ與フルモノトシ特ニ治外法權等ニ基ク課稅ニ關スル我方特權ニ付調整ヲ加フルト共ニ國民政府ノ關稅、轉口稅及統稅等ノ稅率其ノ他ノ合理的の改正並ニ儲備券ノ價值維持等ニ付所要ノ援助ヲ與フ

三、國民政府ノ地方政府ニ對スル關係調整

極力地方の特殊性ヲ調整シ國民政府ノ地方政府ニ對スル指導ヲ強化セシム此ノ際特ニ中央地方相互間ニ無用

ノ摩擦、感情の相剋ナカラシムルノミナラス進テ融和の雰圍氣ヲ醸成セシメ中央地方共ニ更新支那ノ構成分子トシテ協心戮力戰爭完遂ニ邁進セシム
之カ爲帝國ハ差當リ日華基本條約及附屬諸取極ニ反セサル範圍ニ於テ左ノ通措置ス

イ、帝國ハ省政府以下ノ各地方政府人事ニ關シテハ支那側ノ自由處置ニ任シ之ニ干涉セサルコト

ロ、省政府以下ノ施政ニ關スル日本側ノ指導乃至要求ハ作戰警備ニ關スルモノニ限定スルヲ本則トシ爾他ノ行政部面ニアリテハ廣ク支那側ニ任せ支那側ノ責任ト創意トヲ活用シ其ノ自發的活動ニ依ル政治力強化及積極的の對日協力ヲ促進スルコト

ハ、帝國ハ支那側上級政府ノ下級政府ニ對スル政令ノ貫徹ヲ助長スルモノトシ末梢ニ於ケル干涉ニ依リ支那側施政ノ中絶分斷スルカ如キコトナカラシムルコト

二、華北政務委員會ト中央政府トノ權限關係ニ付テハ日華基本條約祕密附屬交換公文(甲)ニ基キ所要ノ調整整理ヲ圖ラシムルト共ニ勉メテ兩者間ノ空氣ヲ融

和セシメ且相互ノ經濟的關聯性ヲ一層密ナラシムルコト

ホ、蒙疆ニ關シテハ華北トノ間ニ相互ノ經濟的關聯性ヲ特ニ密ナラシムルコト

ヘ、武漢及厦門ニ關シテハ廣東ニ準シ爲シ得ル限り國民政府ノ政治力ヲ滲透セシムルコト

ト、海南島ニ關シテハ現狀ニ從ヒ日華基本條約祕密交換公文(甲)ヲ參酌シ所要ノ調整ヲ行フコト

三、租界還付及北京公使館區域移管

國民政府參戰ヲ機トシ帝國ノ專管租界還付竝ニ上海共同租界、厦門共同租界及北京公使館區域移管ノ爲國民政府トノ間ニ所要ノ取極ヲ締結スルト共ニ關係第三國ニ對シ同調方適時斡旋ス

四、治外法權撤廢

國民政府參戰ヲ機トシ治外法權撤廢ニ關スル具體案ヲ審議作成セシムル目的ヲ以テ日華專門委員會ヲ設置スル爲國民政府トノ間ニ所要ノ取極ヲ締結ス

五、在支敵産處理

在支敵産處理ハ既定方針ニ依ルモノトシ國民政府トノ

間ニ所要ノ取極ヲ爲ス

第三、經濟施策

差當リ支那ニ於ケル物資ノ獲得及統制竝ニ支那側ノ對日經濟協力促進ニ關シ左ノ措置ヲ講ス

一、帝國ノ戰爭完遂上必要トスル物資ノ取得ヲ増大シ軍ノ自活ヲ確保シ併セテ民生ノ維持ニ資スル爲占據地域内ニ於ケル緊要國防物資ノ重點的且效率的取得竝ニ敵方物資ノ積極的獲得ヲ圖ル

之カ爲特ニ物資統制ヲ合理化スルト共ニ物資買上價格ノ適正化ヲ圖ル

尙前線ニ在リテハ對敵經濟壓迫ヲ考慮シ戰爭必需物資ノ對敵流出ヲ阻止ス但シ之ガ爲占據地域内ノ物資ノ交流ヲ阻害スルコトナシ

本施策實行ニ當リテモ支那側ノ責任ト創意トヲ活用シ國民政府ノ政治力強化ニ資ス

二、支那側官民ノ積極的ナル經濟活動及對日協力ヲ促進シ併セテ國民政府政治力強化ニ資スル爲

(イ)日支合辦ノ支那法人ヲシテ名實共ニ支那側ノ監督下に置キ其ノ資本、人的構成、免稅特權其ノ他ニ付根

本的調整ヲ加フ

(ロ)一般物資ノ生産及配給ニ當リテモ日本側ノ獨占ヲ避
ケ支那側ヲシテ參加均霑セシム

第四、爾他ノ具體的方策

爾他ノ具體的方策ハ所要ニ應シ別ニ之ヲ定ム



90

昭和17年12月21日

東条(英機)総理大臣
汪兆銘主席
—— 會談

南京国民政府の參戰問題等に関する東条首相

と汪兆銘との第一回會談

東條總理汪主席會談要録

昭和十七年十二月二十一日午後三時至同五時

十分分於首相官邸(褚民誼、周佛海、周隆庸、

谷大臣、青木大臣、星野書記官長、清水書記

官同席)

一、汪主席ノ挨拶

汪 昨日ハ態々飛行場マテ御出迎ヲ頂キ又本日ハ御多忙中

特ニ會談ノ時間ヲ御割リ下サレ感謝ニ堪エズ

昨年六月訪日以來既ニ二年有半ヲ經過セルガ此ノ間大東

亞戰爭勃發シ日本ハ太平洋及南洋ニ於テ次々ニ米英ノ根
據地ヲ覆滅シ偉大ナル戰果ヲ擧ゲラレタリ此ノ戰勝ニ對
シ謹ンデ慶祝ノ意ヲ表ス

尙總理大臣閣下ニハ大戰爭下政務極メテ多端ナルニ拘ラ
ズ昨年面會セル當時ニ比シ一層元氣ニ見受ケラレ大ニ意
ヲ強クセリ

國民政府モ還都以來既ニ三年ニ垂ントシ大東亞戰爭勃發
以來正ニ一年ヲ經過セルニ付是非友邦ヲ訪レ要路ト會談
致シタシト考ヘ居リシ矢先偶々重光大使歸任セラレ總理
大臣ニ於カセラレテハ豫テ三特使其他ヲ通シテ自分ノ申
上ゲタルコトニ付極メテ好意的ニ考慮セラレ居ル趣ヲ承
リ總理大臣ヲ訪問シ親シク御意見ヲ承ルト共ニ國民政府
ノ決心ヲ申述ベ日華提携ノ緊密化ニ資セントシテ今回ノ
訪日ヲ思ヒ立チタル次第ナリ

二、汪主席ノ談話

(イ)大東亞戰爭ニ對スル協力ノ決意並參戰ノ希望

汪 大東亞戰爭勃發以來國民政府同人ハ如何ニシテ其ノ責
任ヲ果スベキカヲ考慮スルト共ニ國力ノ不足ト政府ノ力
ノ足ラザルヲ痛感シ日夜焦慮シツツアリ十二月八日同甘

共苦ノ聲明發表後吾等ハ如何ニシテ共苦スベキヤヲ考ヘタルガ皇軍ノ勇戦ト貴國國民ノ艱難ニ耐ヘツツアル事實ニ顧ミ漸愧^(痛)ニ堪ヘザル所アリ仍テ本年元旦ヨリ新國民運動ヲ展開シ大東亞戰爭ニ協力スル精神の基礎ヲ作ルニ努メタルガ右ハ所謂精神總動員ニ相當スルモノナリ軍隊ノ訓練ハ特ニ重要ナルヲ以テ將校訓練團ヲ設ケ將校隊ト幹部總隊トニ分チ精神訓練ヲ施シ大東亞戰爭ニ對スル認識ヲ深メシムルニ努メタルガ今年中ニハ一通リ終了スル豫定ナリ右訓練團ニ於テハ軍事訓練ハ軍人ヲシテ之ニ當ラシメツツアルモ精神講話ハ自分親シク之ヲ擔任シツツアリ既往八ヶ月間ニ第一期ヨリ第三期ヲ終リ目下第四期ヲ召集中ナリ此ノ外學生及勤勞青年ニ對シテモ訓練ヲ施シ百年來中國ニ侵濶^(イ)セル英米ノ思想ヲ掃蕩シ最短期間内ニ大東亞戰爭ノ意義ヲ認識セシムルニ努メツツアリ今日迄ノ成績ヲ見ルニ少クモ軍隊及學生ノ方面ニ於テハ大東亞戰爭ニ對スル協力ノ氣持ハ相當ニ進歩セリト認メララル團軍ノ建設ヲ短期間ニ完成スルコトハ固ヨリ容易ニアラザルヲ以テ重慶側軍隊ヲ歸順セシムルニ努力シ人ヲ重慶側ニ往來セシムル等種々工夫ヲ凝シツツアルモ重慶側ノ

態度ハ遺憾ナガラ反省ノ色ナク蔣介石及其ノ直系ノ者ハ英米ト共同戦線ヲ張り單獨不媾和條約ヲ締結シ直系以外ノ者モ尙未ダ和平ニ對スル信念ヲ有セズ依然傍觀の態度ヲ採リ居レリ閻錫山、李宗行、白崇禧等ハ即チ此ノ部類ニ屬ス斯クシテ重慶側ハ明白ニ本然ノ叛逆者トシテノ立場ヲ取ルニ至レリ之ニ反シテ吾々ハ東亞ノ同志タル立場ヲ今尙表明セズ固ヨリ國民政府ガ参戦シテ果シテ如何程日本ニ協力シ得ラルルヤ覺束ナキモ和平地區内ノ民衆ヲシテ其立場ヲ明ニセシムルコトハ極メテ意義アルコトト信ジ此ノ際参戦ヲ希望スル次第ナリ

(四) 参戦ノ際ノ危惧

唯政府部内ニ於テ参戦問題ヲ研究セル際ニツノ點ニ付心配出テ來レリ第一ハ國民政府ガ参戦ヲ要望スルニ對シ日本側ヨリ右ハ講和會議ニ於テ國民政府ガ發言權ヲ得ントノ下心ニ出ヅルニ非ズヤト邪推セラルル惧アルコトナリ此ノ點ニ付テハ元來中日兩國ハ外交上一致ノ方針ヲ執ルモノナルヲ以テ假令媾和會議ニ出席スルトモ其ノ際ノ發言ハ日本側ヲ助ケコソスレ決シテ牽制スルガ如キコトナク心配ノ要ナシト信ズ第二ハ國民政府ガ参戦スルトキハ

日本ニ對シ過分ノ要求ヲ提出スルニ非ズヤト危ブマルルト共ニ其ノ反對ニ日本ヨリ一層束縛セラルル羽目ニ陥ルニ非ズヤト杞憂ヲ抱ク者アル點ナリ

殊ニ後者ハ政府内部ニ於テモ最モ心配シツツアル點ニシテ實ハ自分ガ訪日ニ出發スル三十分前ニモ此ノ點ヲ憂慮シテ自分ニ意見ヲ述べタル人スラアリ斯カル心配ノ無用ナルコトハ固ヨリ明カナリ即チ國民政府ハ日本軍ノ占領地ヲ其ノ管轄區域トナシ居ルモノナルヲ以テ若シ國民政府ノ存在必要ナシトセバ直チニ之ヲ取り潰スコトヲ得ベシ現在之ヲ潰サザル所以ノモノハ日本ガ國民政府ヲシテ中日合作ヲ實行セシメント欲スレバナリ此ノ點ヨリ見ルモ其ノ心配ノ杞憂ナルコトハ判ル譯ナリ國民政府ガ參戰ノ機會ニ種々ノ要求ヲ提出スルガ如キコトハ固ヨリ考ヘ居ラザル所ナリ日本ハ東亞ノ新秩序ヲ建設スルニ當リ中國ヲ其ノ仲間ニ入レタル以上中國ガ有力トナル程結構ナル筈ナリ要スルニ國民政府トシテハ一方ニ於テ中國ノ主權ノ尊重ヲ希望スルト共ニ他方ニ於テ虚心坦懷日本ノ協力ヲ接受スルノ立場ヲ取ラント欲スルモノナリ

國民政府ノ強化ハ參戰ト否トニ拘ラズ別個ニ存在スル間

題ニシテ國民政府ガ參戰ヲ希望スルハ寧ロ其ノ義務ヲ盡サントノ氣持ヨリ出デタルモノニ係リ決シテ權利トシテ言フニ非ズ且ツ日本側ヨリ勸メラレタル結果ニ非ズ全然自發的ノモノニシテ自ラ進ンデ其ノ責任ヲ果サントノ考慮ニ出デタルモノナリ實ハ國民政府ノ同甘共苦ノ聲明發表以來自分モ此ノ考ヲ有シ曩ニ周佛海訪日ノ際總理大臣閣下ニモ一應申出デタル次第ナルガ友邦責任當局ニ於テハ中國ガ參戰スレバ中國ハ却ツテ種々ノ困難ニ逢著スルニ非ズヤト寧ロ好意的ニ考慮セラレツツアルヤモ計ラレズ今回ハ親シク日本政府當局ノ御意見ヲ承リ決定致シタシ

(編注)

(ハ)國民政府參戰後ノ努力ニ付テ中國ガ參戰セル場合

果シテ如何ナルコトヲ爲シ得ルヤト云ヘバ

一、國民ノ訓練ニ役立つベシ

即チ今回ノ戰爭ハ長期ニ亘ルト云ハルルガ國民政府ニ於テハ國民ヲ訓練シテ生死ヲ共ニスル精神ヲ養ヒ以テ戰爭協力ニ貢獻スルコトヲ得ベシ

二、軍隊ヲ再訓練シテ日本軍ノ後方ニ於ケル負擔ヲ輕減スル

コトヲ得ベシ

軍隊ヲシテ務メテ和平地區内ノ治安ヲ維持セシムル外一個師ニテモ二個師ニテモ友邦ノ軍隊ト共同作戰ニ立タシムルコトヲ得ベシ

(編注)

三、經濟方面ニ於テハ一層協力ノ實ヲ擧ゲ得ベシ

即チ經濟的協力ヲ爲スニ當リ重慶側ノ逆宣傳ヲ封ズル利益アルノミナラズ民衆ヲシテ勇躍之ニ赴カシムルコトヲ得ベク前途ノ希望サヘアレバ苦痛ハ如何程アリトモ忍ブコトヲ得ベシ重慶側ハ英米ノ勝利ヲ豫期シ居ルモ吾々ニハ東亞ノ解放ト云フ光明アレバナリ要スルニ大東亞戰爭ニ對シ重慶側ガハツキリセル立場ヲ取リツツアル以上吾々モハツキリセル立場ヲ取リタシト言フニアリ

以上率直ニ申上ゲ閣下ノ御指教ヲ仰ギタシ尙右記ノ要領ハ書物ニ認メ置キタルヲ以テ御參考迄差上ゲタシ(トテ筆寫ノ紙綴ヲ首相ニ手交ス)

三、首相ノ挨拶

首相 本日ハ謂ハバ一家族ノ集リナルヲ以テ御互ニ遠慮ナク話合フコトト致度シ主席ニハ國務多端ノ折柄昨年モ來

訪セラレ今回再ビ當地ヲ訪問セラレタル次第ナルガ平素御辛勞ノ程ハ同情ニ餘アリ過般ハ滿洲國モ訪問セラレ日華滿ノ提携ニ一大貢獻ヲ爲サルル等大東亞戰爭遂行上種々御配慮ヲ賜リツツアルハ欣佩ニ堪エズ今回益々御壯健ナル姿ニ接シ大東亞戰爭途上慶祝ノ至ナリ尙唯今帝國ノ戰勝ニ對スル祝詞ヲ賜リ感謝ニ堪エズ過般派遣セル三特使ニ對シテハ官民ヲ擧ゲテ歡迎セラレタル趣ニテ深甚ノ謝意ヲ表スル次第ナリ

四、首相ノ談話

(イ)國民政府ノ參戰ニ付テ

首相 唯今御申出ノ國民政府ノ參戰ニ對スル帝國政府ノ意見ヲ申上ゲベシ本件ニ付テハオ話ノ通り各方面ヨリ慎重ニ檢討スルヲ要ス國民政府ニ於テハ其ノ立場ヲ明カニシ國民ノ思想ヲ統一シ以テ大東亞戰爭ニ協力セントシテ種々苦心セラレツツアルコトハ能ク諒承セリ過般周佛海氏ヨリモ種々説明アリ唯今主席閣下ヨリ其ノ詳細ナル經過ヲ承リタルガ帝國政府トシテハ研究ノ結果國民政府ノ希望ニ應ジ共同シテ對米英ノ戰線ニ立ツコトニ異存ナシト云フニ決定セリ

コレハ餘談ナルガ國民政府ノ參戰ニ當リ二ツノ心配アリト言ハレタルガ斯カル心配ヲセラルル必要ハ毛頭ナシ媾和會議ノコトナド決シテ國民政府ノ意圖ヲ誤解シ居ラス此ノ點ニ關スル帝國政府ノ態度ハ宜シク政府首腦ノ言ヲ信用セラレタシ現在ハ媾和會議ノコト等ヨリモ帝國及貴國ハ戰勝ト云フ一點ニ總力ヲ集中スベキ秋ナリ帝國ガ第一線ニ於テ武力ヲ以テ米英ノ勢力ヲ擊破スルト共ニ日本ト中國ト滿洲トガ各々其ノ主權ノ下ニ人心ヲ收攬統一シ相協力シテ勝利ヲ獲得スルコト第一ノ要諦ナリ然ラバ日本ハ戰勝ノ信念ヲ有スルヤト言ヘバ確固タル信念アリト斷言スルヲ憚ラズ今其ノ理由ヲ述ベン抑モ帝國ガ昨年十二月八日米英ノ壓迫ヲ排除セントシテ戰ヲ宣シタルトキ我方が果シテ緬甸、蘭印、馬來、「ニューギニア」、比律賓等ノ戰略據點ヲ短期間ニ把握シ得ルヤ否ヤ一大問題ナリシガ此ノ重大問題ハ既ニ明白ニ解決セラレ戰爭ノ根據地ハ完全ニ我手中ニ歸シ勝利ノ基礎ハ確立セラレタリ而シテ此ノ態勢ハ米英ガ如何ニ躍起トナリテモ崩壞スルコトナシ彼等ハ僅カニ「ソロモン」スラ懸命ノ反攻ヲ續ケ奪回ヲ圖リテ成功セズ況ンヤ我方が大東亞ノ據點ヲ盡ク

其ノ手ニ收メタル今日英米ハ愚カ假令歐洲擧ツテ來リ攻ムルモ我が必勝ノ態勢ヲ崩スコトハ絶對不可能ナリ殊ニ大東亞戰爭以來航空ノ威力ハ戰爭ニ一大變化ヲ與ヘ航空部隊ノ活動下ニ於テハ戰艦モ航空母艦モ其ノ威力ヲ發揮シ得ザルニ至リタルガ航空ノ威力ハ航空基地ヲ有スルモノ最モ(文字不明)勢ナルコト北「アフリカ」ニ於ケル戰鬪ニ徴スルモ明ナリ

今ヤ大東亞ノ要點ハスベテ日本ノ手ニアリ今後緬甸、「チモール」、「アリューシヤン」等ニ於テ或ハ時ニ反攻シ來ルヤ知レザレドモ我方ノ此ノ態勢ヲ崩壞セシムルガ如キハ到底不可能ナリ局部ノ戰鬪ノ如キハ大局ノ勝利ニ何等關係ナキ所ナリ

次ニ吾々ハ此ノ態勢ヲ飽ク迄維持スル力アリヤ否ヤノ問題ナルガ要ハ人ト物トノ力如何ニアリ人ノ方面ハ大東亞ノ人口十億ト稱セラレ之ヲ統合集中スルニ於テハ世界ニ敵ナキコト言フ迄モナシ物ニ至ツテハ特ニ有利ナリ米英ハ物資豐富ナリト稱スルモノアルモ日華滿ヲ中心トスル大東亞ノ物資ハ更ニ一層豐富ナリ殊ニ戰爭ニ必要ナル石油、鐵、「ゴム」、「アルミニウム」、錫、「チーク」材、

「キニユーネ」ノ如キ皆我方ノ地域内ニアリ敵側ガ從來誇リシ資源ナルモノハ蘭印、「ビルマ」等ニ依存シ居リシニ過ギズ然ルニ此等ハ今ヤ盡ク我方ノ手ニ歸シ居レリ我方ニ於テハ此ノ豊富ナル人ト物トヲ如何ニ利用シ如何ニ戰爭化スルカヲ研究スルコト必要ナリ十億ノ人間ガ活動スルニ至ラバ世界無敵ナリ之ニ反シ敵側ニハ原料無シ此ノ點ニ於テモ戰爭ニ對スル必勝ノ確信アリ今回ノ戰爭ノ結末トシテ媾和會議ノ開催ニ依リ世界ノ平和ヲ恢復スルニ至ルヤ或ハ新事態ノ發生ニ依リ自然ニ解決スルニ至ルヤ豫測シ難キモ其ノ何レノ場合來ルヲ問ハズ吾々ハ搖ギナキ姿勢ヲ確立シ置クヲ以テ足レリトス即チ大東亞共榮圈ヲシツカリ確立シ置ケバ如何ナル事態トナルモ問題ニ非ズ

國民政府参戦ノ際ノ第二ノ心配ナリト云ハレタル點ニ付テハ第一帝國政府ハ國民政府ガ過分ノ要求ヲ提出スベシ等危惧シ居ラズ第二ニ之ヲ機會ニ國民政府ヲ束縛セントスルノ意志ナシ寧ロ反ツテ主席ガ自由ニ其ノ力ヲ發揮シ得ラルル様援助セント決心シ居ルモノナリ

以上長々シク申シ述ベタルガ結論ハ要スルニ帝國政府ハ

國民政府ノ希望ニ應ジ其ノ參戦ニ贊同スルモノナリト云フニアリ但シ其ノ時機ニ付テハ日華双方夫々準備ノ都合モアルベク帝國政府トシテハ一月中旬以後適當ノ時期ヲ決定セラレテ差支ナキニ付具體的ニハ在支帝國大使ト打合せラレ度シ

(ロ) 戰爭協力ニ關シ國民政府ニ對スル要望

國民政府ニ於テ參戦セラルル場合ニハ日華兩國ハ不動ノ決意ト信念トヲ以テ共同作戰ニ當ラザルベカラザル次第ナルガ國民政府トシテモ戰爭遂行ノ爲メ生産ノ増強ヲ圖リ戰爭意識ヲ徹底セシメ治安ヲ維持スル等各項ニ付確實ナル具現ヲ圖ルニ努力セラレンコトヲ希望ス

(ハ) 國民政府ノ政治力強化ノ爲メ帝國政府ノ執ラントスル措置ニ付テ

國民政府ノ政治力ヲ強化スル爲メ帝國政府ハ充分ナル熱意ヲ有スルモノニシテ之ガ爲メ帝國政府ノ中國ニ於テ有スル租界、治外法權其ノ他特異ノ事態ハ中國ノ主權及領土權尊重ノ原則ニ基キ撤廢又ハ調整ヲナシ敵産處理ニ付テモ好意的ノ便宜ヲ取り從來ノ諸懸案ニ付テモ速カニ之ガ解決ヲ圖ル意嚮ナリ就テハ國民政府ニ於テモ充分其ノ

自疆ヲ計リ民心ヲ收攬シ官民協力シテ其ノ使命ヲ達成スルニ遺憾ナキヲ期セラレタシ

(二)重慶ニ對スル態度

帝國ハ重慶ヲ相手トスル和平手段ハ一切之ヲ行ハザル方針ナリ其ノ理由ハ重慶側ガ本日主席閣下ガ述ベラレシ通りノ狀態ナルコト帝國政府ニ於テモ同感ナレバナリ付テハ國民政府ニ於テモ右帝國ノ方針ニ同調セラレンコトヲ希望ス

(三)結語

以上申上ゲタル點ニ關シ詳細ハ重光大使ト連絡打合せセラレタシ要スルニ帝國政府ハ國民政府ノ參戰ヲ以テ日華兩國間ノ局面ヲ打開スル一大轉機ト爲シ根本施策ノ結實ヲ圖リ日華一体トナリテ大東亞戰爭ニ邁進セムコトヲ期スルモノナリ尙右方針ハ所有方法ヲ盡シテ現地ノ軍、官、民ニ徹底セシメ其ノ實行ニ遺憾ナキヲ期スル考ナリ主席ニ於テモ充分努力セラレンコトヲ希望ス

汪 唯今ハ極メテ率直眞摯ナル御話ヲ承リ感激ニ堪エズ國民政府ハ一層努力シテ其ノ義務ヲ盡ス覺悟ナリ

青木大臣ノ説明

青木 一言附ケ加ヘ申上ゲタシ

主席ガ政治、經濟ノ兩方面ニ種々苦心セラレツツアルコトハ自分ノ能ク諒察シ居ル所ナリ政治方面ニ於テハ政府部内ノ結束ヲ圖リ民心ヲ收メ政治力強化ノ障害ヲ排除スルニ努メ行政機構改革ノ如キモ主席ニ於テ充分考慮ノ上實行セラレタシ日本側ハ之ニ對シ何等干涉スルノ意志ナシ經濟方面ニ於テハ國民經濟生活ノ苦痛ハ同情ニ堪エザル所ナルガ戰爭下ニ於テハ何レノ國ト雖モ經濟上ノ苦痛ハ免ザル所ニシテ英米獨蘇ハ固ヨリ其ノ他ノ中立國ト雖モ皆一樣ニ國民生活上一大影響ヲ受ケ居ル現狀ナリ而シテ此ノ困難ヲ克服スルモノガ結局最後ノ勝利ヲ得ル譯ナリ國民政府ニ於テモ種々苦心ノ點アルベキモ先ヅ生産ノ増加ニ努ムルコト最モ緊要ナリ次デ物資ノ配給ニ意ヲ用ヒ國民ヲシテ苦痛ニ耐エシムル精神ヲ涵養スルコト必要ナリ中國ノ經濟上ノ困難ニ對シテハ日本モ出來得ル限り援助セントスルモノニシテ唯今總理ノ話ノ内ニ速ニ諸懸案ノ解決ヲ圖ルトアルハ物資問題及國策會社調整問題等ノ合理的解決ヲ圖ルトノ意味ニシテ此等ノ事項ニ關シテハ現地機關ニ訓令ヲ發シ之ヲ實行セシムベク何レ大使館、

總軍等ト國民政府トノ間ニ打合セヲ爲シ急速解決ヲ圖ルコトトナルベシ自分ハ能ク國民政府ノ苦シキ立場ヲ知悉シ居ルヲ以テ之ガ解決ニ付テモ充分考慮スル考ナリ

首相 唯今青木大臣ノ言ハレタルコトハ其ノ通りナリ尙行政機構ノ問題出デタルガ行政ハ中國ノ行政ニシテ日本トハ關係ナキモノナルニ付之ガ改革ノ如キモ主席ニ於テ自由ニ實行セラレテ差支ナシ日本ハ中國ノ行政及人事ニ對シ何等干涉スル氣持ナシ右ハ總理兼陸相トシテ責任アル自分ノ言ナリ他ノ方面ヨリ種々注文ヲ出ス者アルヤ知レザレドモ相手ニスル必要ナシ

六、餘談

首相 コレハ餘談ナルガ一國ノ政治ヲ行フニハ國民ノ氣持ヲ一點ニ集中スルコト要諦ナリ自分モ常ニ此ノ點ニ努力シツツアル次第ナルガ我國ニハ皇室ト云フ中心アルヲ以テ之ニ歸一セシムルコト比較的容易ナルガ現在百分ノ九十八既ニ成功シ殘ル百分ノ十ノ者ガ尙種々ノ文句ヲ竝ベ立テ居ル實狀ナリ斯ルコトハ他人ニハ打明ケラレザルコトナルガ本日ハ言ハバ家族同志ノ集リトモ言フベキモノナルニ付話ヲスル次第ナリ主席ニ於カレテモ大所高所ニ

着眼シ常ニ民心ヲ主席ニ集中スル樣努力セラレ之ヲ率キテドシドシ其ノ政策ヲ行フ樣期待シテ已マザルモノナリ汪 既ニ時間トナレルニ付暇乞致シタシ本日ハ御多忙ノ折

柄長時間ニ亘リ懇談ノ機會ヲ與ヘラレ感謝ニ堪ヘズ

首相 本日お話セル要點ハ青木大臣ニ整理シテ貰ヒ書キモノトシテ閣下ニ御渡シ致スベシ(トテ「メモ」ヲ青木大臣ニ手交ス)

(別紙一)

汪主席ヨリノ東條總理大臣ニ手交セル談話要領

昨年十二月八日友邦日本大東亞戰爭ヲ發動シ我國國民政府同甘共苦ノ聲明ヲ發表シテ以來兆銘ハ如何ニシテ大東亞戰爭ニ協力シ中國ノ責任ヲ盡スベキカニ付詳思熟慮スル所アリタルガ中國連年ノ疲弊ニ加フルニ全面和平未ダ實現セザル爲メ協力ノ誠意アルモ微力ニシテ貢獻スルコト能ハザルヲ痛感シ今年元旦新國民運動ヲ發起シ新シキ精神ヲ以テ新ラシキ時代ノ使命ヲ荷ハシムル趣旨ノ下ニ精神總動員ヲ展開セリ中國ハ百年以來具ニ英米帝國主義ノ壓迫ヲ受ケ一部ノ人ハ其ノ政策ニ麻醉スル所トナリ二十餘年來ハ更ニ共產

主義ノ猖獗スルアリ此ノ二種ノ害毒ハ政治、經濟、文化ノ一切ニ浸潤シ居レリ今日ノ急務ハ心理上徹底的ニ之ヲ改造スルヨリ大ナルハ無シ其ノ着手ノ方法トシテハ我國國父孫先生ノ大亞洲主義ニ歸リ以テ友邦日本ノ東亞新秩序建設ノ「スローガン」ニ呼應シ東洋ノ道義的觀念ニ基キ中日共存共榮ガ吾人前途ノ光明アル目標ナルコトヲ確信シ勇猛精進刻苦忍耐ノ精神ヲ以テ之ニ赴カシムルニ在リ即チ消極的方面ニ於テハ英米ノ帝國主義及共產主義ノ流毒ヲ肅清シ積極的方面ニ於テハ東亞民族精誠團結ノ基礎ヲ樹立スルニ在リ今年元旦以來種々ノ宣傳訓練方法ヲ用ヒテ社會ノ人心ヲ積極的ニ推進シ殊ニ在學中ノ青少年及勤勞青少年方面ニ對シテハ新國民運動綱領ヲ頒布シ青少年團ノ基礎的信條ヲ明瞭ニシ中央陸軍軍官學校ニ於テハ更ニ學生ヲシテ中國ノ解放ハ大東亞戰爭勝利中ニ於テ之ヲ求ムベキモノニシテ寸毫モ躊躇スルコトナク中華復興、東亞保衛ノ責任ヲ双肩ニ荷フベキ旨ヲ明ニセシムルニ意ヲ注ギ更ニ右訓練ヲシテ一般軍隊中ニ迅速ニ普及セシムル爲メ首都ニ中央陸軍將校訓練團ヲ設置シテ全國ノ軍官ヲ召集シ期ヲ分チテ順次訓練ヲ受ケシメ將校隊ト幹部總隊トニ分チ將校隊ハ中將以下大佐迄訓

練期間ヲ一ヶ月トシ幹部總隊ハ中佐以下少尉マデ訓練期間ヲ二ヶ月トシ訓練期間ニ於テハ必要ナル軍事學科ヲ授クル外殊ニ精神訓練ニ注意シ大東亞戰爭協力ノ趣旨ヲ徹底セシムルニ努メツツアリ而シテ右精神訓練ハ兆銘親シク自ラ之ニ當リ每週必ず往テ講述シ且ツ隨時其ノ心理ヲ考察シ其ノ疑問ヲ解釋シツツアルガ斯クノ如キ長期ノ訓練ヲ經テ一般社會特ニ一般學生及軍人ハ大東亞戰爭協力ノ主旨ニ對シ相當ノ認識ト信念ヲ深メ之ヲ大東亞戰爭勃發ノ當初ニ較ブレバ確カニ相當ノ進歩アリト確信スルモノナリ兆銘亦曾テ深ク念フニ建軍ハ至ツテ複雜多端ニシテ短期間ノ能ク完成スル所ニ非ズ故ニ同時ニ幹部同志ト彈思慮重慶側ヲシテ悟ラシメンコトヲ期セリ若シ彼等ニシテ反省シ毅然トシテ其ノ態度ヲ改ムルニ於テハ兆銘等必ず誠意ヲ以テ之ト提携合作シ全面和平ヲ實現シ中國ノ大東亞戰爭協力ノ力亦増加スベキヲ期待セリ奈何セン事志ト違ヒ蔣介石等ハ啻ニ毫モ悟ルトコロナキノミナラズ益々深ミニ陥リ英米等ノ諸國ト單獨不講和ノ協定ヲ締結シテヨリ後ハ一層轉換ノ餘地無キニ至レリ兆銘等絶望ノ餘是等東亞ノ叛逆ニ對シ

二 南京國民政府參戰問題と「對支新政策」の展開

テハ勸告スルモ效果ナク且ツ英米ノ重慶援助ハ「ビルマル
ート」ノ切斷ニ依リ絶ユルコトナク種々ノ救濟方法ヲ講ジ
其ノ團結ノ手段亦日ト俱ニ深キヲ知ル兆銘等ハ國民政府ハ
此際寧ロ其ノ決心ト立場トヲ表明シ一切ノ人力物力ヲ動員
シテ大東亞戰爭ニ參加シテコソ始メテ能ク和平地區内ノ民
衆ヲシテ旗幟ヲ鮮明ニシ武伐ヲ整齊シ東亞ノ同志敵愾同仇
ノ戰線ニ立タシメ同時ニ和平地區外ノ民衆ヲシテ漸次其ノ
東亞ノ叛逆タルコトヲ自覺セシメ内部的崩潰ヲ促進スルコ
トヲ得ベシ是レ國民政府ガ同甘共苦ヨリ一步ヲ進メテ參戰
ノ決意ヲ主張スル所以ナリ若シ參戰實現センカ國民政府ト
シテ軍事方面ニ力ヲ致スベキモノハ第一ニ現在ノ軍隊ニ對
シ出來得ル限りノ整理訓練ヲ施シ能ク和平地區内ノ治安ヲ
保障シ友邦駐屯軍ノ負擔ノ輕減ヲ期スルニアリ第二ニ現在
ノ軍隊ノ内其ノ比較的優秀ナルモノヲ擇ビテ改メテ簡拔配
備ヲ行ヒ之ヲ前線ニ派遣シテ能ク友邦將士ノ辛勞ヲ分タン
コトヲ期スベシ同時ニ國內ニ於テハ大東亞戰爭ニ對スル戰
意ハ之ガ爲メ益々昂揚セラレ貴我兩國ガ安危ヲ共ニシ生死
ヲ同フスルノ熱情ト決意トハ之ニ依リ益々普遍的且ツ鞏固
トナルベシ

經濟方面ニ於テモ軍事ト同様大東亞戰爭中ニ於テ不斷ニ增
強ヲ圖リ益々大東亞戰爭ニ裨益スル所アラシメントスルモ
ノニシテ增強ノ方法トシテハ第一ニ生産増加ナルガ農民ノ
耕作ニ依リ得ル所ハ生活ヲ維持スルヲ除クノ外再生産ノ能
力ヲ發揮セシメ又各種ノ工場ヲ恢復シ燃料ト原料トヲ供給
シ各種ノ企業ヲシテ各種ノ輕工業品ヲ製造セシメントスル
ニアリ是レ雷ニ和平地區内繁營ノ重要條件ナルノミナラズ
非和平地區内物資ヲ吸收スル上ニ於テモ亦重要ナル作用ヲ
爲スモノナリ第二ハ消費節約ナルガ務メテ人民ヲシテ滅死
奉公ノ念ヲ以テ其ノ需要ヲ儉約シ其ノ能率ヲ擴充セシムル
ニアリ第三ハ合理的統制方法ヲ以テ分配ヲ平均ニシ物價ヲ
安定セシメ國計民生何レモ底無キ恐慌ニ陥ルコトナカラシ
ムルニアリ以上三者ヲ能ク爲シ得レバ中國ノ經濟力ハ立所
ニ活潑トナリ必ズヤ其ノ得ル所ヲ以テ續々之ヲ大東亞戰爭
ノ用ニ供スルヲ得ベシ友邦日本ハ曩ニ中國ニ對シ戰費賠償
ノ要求ヲ爲サズ中國人民ハ深く感激シ居ル所ナルモ唯全面
和平尙未ダ實現セザル爲メ重慶側ハ遂ニ日本ハ戰ヲ以テ戰
ヲ養フモノナリトノ歪曲セル宣傳ヲ試ミ中傷離間ノ計ヲ爲
シツツアリ今若シ參戰ヲ實行スレバ中國人民ハ其ノ生産ニ

依り得ル所ノ又ハ節約ニ依リ餘ス所ノ物資ハ之ヲ大東亞戰爭ノ用ニ充ツベキモノナルコトヲ知ルニ至ルベク友邦ニ對シテハ戰費ノ分擔トナリ自己ニ對シテハ能ク大東亞戰爭完遂ノ一部分ノ責任ヲ盡スコトトナリ一層感激勇躍シテ内ハ以テ東亞同志ノ氣ヲ壯トシ外ハ以テ東亞叛逆ノ口ヲ塞ギ其ノ膽ヲ寒カラシムルニ至ルベク其ノ效果ノ大ナル軍事ト同ジク或ハ之ニ過グルモノアルベシ

以上ハ兆銘ノ參戰問題ニ對スル見解ト決心ナリ尙最後ニ一言附加スベキコトアリ中國國內ニ於テ參戰問題ニ論及スル際一部ノ者ハ中國ノ經濟及軍事ハ或ハ之ニ因リ一層其ノ自主性ト獨立性トヲ失フニ非ズヤト憂慮スルヲ免レズ兆銘思フニ參戰以後兩國ノ緊密ナル提携ハ更ニ一步ヲ進メ中國ノ中央行政機構亦調整ヲ加ヘ中央ノ各地方政府ニ對スル統馭力亦強化シ戰時體制ニ適合セシムベキヲ以テ友邦日本ノ中國主權ヲ尊重スルコトト中國ガ虚心坦懷ニ友邦日本ノ援助ヲ接受スルコトトハ必ズヤ双方其ノ宜シキヲ得ルニ至ルベキヲ信ズ吾人ハ大東亞戰爭ノ完遂ハ貴我兩國ノ共同出路タルコトヲ確認シ壯烈純潔ナル熱誠ニ基キ力ヲ盡シテ以テ赴キ死ヲ誓ツテ回ラズ以テ我國國父孫先生ノ垂示セル大亞洲

主義ガ大ニ光明ヲ放ツ日ノアランコトヲ期スルノミナリ

(別紙一)

昭和一七、一二、二〇

東條總理大臣ノ汪行政院長ニ對スル談話要領

東條總理大臣ノ汪行政院長ニ對スル談話要領概ネ左ノ如シ

一、國民政府參戰ニ就テ

(イ)帝國ハ國民政府ノ希望ニ應ジ同政府ノ米英ニ對スル宣

戰ニ同意ス

(ロ)宣戰ノ時機ハ諸般ノ準備ノ都合モアリ我方トシテハ概

ネ明年一月中旬以降適當ナル時機ヲ捉ヘラルルコトヲ

希望スル次第ニシテ具體的の期日ニ付テハ追テ在華帝國

大使ヲシテ貴方ト連絡セシムルコトト致度シ

(ハ)參戰ニ伴フ諸準備ハ日華双方共ニ絶對極秘裡ニ行フコ

トト致度シ

二、戰爭協力ニ就テ

國民政府參戰ニ依リ米英ニ對スル戰爭ハ完全ニ日華共同

ノ戰爭トナル次第ナルガ日華兩國ハ愈々不動ノ決意ト信

念トヲ以テ共同戰爭完遂ノ爲完全ニ協力スルコトト致度

二、南京国民政府参戦問題と「對支新政策」の展開

國民政府ニ於テハ特ニ戰爭遂行ノ爲必要トスル生産ノ増強、戰爭目的ニ對スル官民認識ノ普及竝ニ治安維持ノ強化等ノ確實ナル具現ヲ圖リ戰爭協力ニ徹底遺憾ナカラシメラレンコトヲ切ニ希望ス

三、國民政府政治力強化ニ就テ

帝國ハ國民政府ノ政治力強化ニ付極力援助ヲ與フルノ熱意ヲ有ス就テハ帝國トシテハ中國ニ於ケル租界、治外法權其ノ他特異ノ諸事態ハ中國ノ主權及領土尊重ノ趣旨ニ基キ速ニ之カ撤廢乃至調整ヲ圖ルノミナラス敵産處理ニ關シテモ出來得ル限り中國側ニ對シ好意的措置ヲ講シ又從來ノ諸懸案等モ爲シ得ル限り速ニ解決ヲ圖ルノ用意アリ

國民政府ニ於テモ各般ニ亘リ自疆ノ途ヲ講シ廣ク民心ヲ獲得シ官民一體戰爭協力ニ邁進セラレンコトヲ希望ス

四、對重慶方策ニ就テ

帝國ハ重慶ニ對シ之ヲ對手トスル一切ノ和平工作ハ之ヲ行ハザル方針ナリ國民政府ニ於テモ右帝國ノ態度ト同調セラレンコトヲ希望ス

五、結語

以上ノ趣旨ノ細部ニ付テハ追テ在華帝國大使ヲシテ貴方ト充分連絡協議セシムベキモ要スルニ國民政府参戦ヲ以テ日華間局面打開ノ一大轉機トシ速ニ日華提携ノ根本精神ニ則ル施策ノ結實ヲ圖リ眞ニ日華一體トナリ共同戰爭完遂ニ邁進スルコトト致度シ

編注一 原本上で以下三行分不明。

編注二 原本上で以下一行分不明。

91

昭和17年12月25日

東条総理大臣
汪兆銘主席 } 会談

南京国民政府の参戦問題等に関する東条首相

と汪兆銘との第二回会談

東條總理汪主席會談要録

昭和十七年十二月二十五日自午前十一時半
至午后零時二十分汪主席暇乞ノ爲首相官邸
訪問ノ際(周隆痒、清水書記官同席)

一、挨拶

汪 明日ハ愈々出發ニ付暇乞ニ參上セリ去ル二十二日ニハ

天皇陛下ニ謁見シ種々優渥ナル御言葉ヲ賜リ感激セリ

首相 過日オ話セル帝國政府ノ方針ニ關シ昨日現地軍關係者ヲ召集シ之カ徹底化ヲ圖レリ大東亞省關係者ニ對シテモ近く其ノ手續ヲ取ル豫定ナリ

汪 過日ノ首相ノ談話ノ要領ハ青木大臣ヨリ受取リタリ茲ニ謝意ヲ表ス

三國民政府ノ參戰ノ時期ニ付テ

汪 中國ノ參戰ノ時期ハ過日オ話ノ次第モアリ一月二十日頃ト致度キ心算ナリ尙其ノ際ハ參戰ノ意義ヲ充分闡明シ國民一般ニ徹底セシメタク要スルニ中國ハ東亞ノ一分子ニシテ大東亞戰爭以來日本ト同甘共苦ノ立場ヲ取り來レルガ米英ハ中國ノ一部分ヲ利用シ中國人ヲシテ相互ニ相殘殺セシメ頻リニ離間挑撥ノ陰謀ヲ逞フシ武漢、廣東等ヲ爆撃セリ吾々ハ此ノ際東亞ノ叛逆者ヲ討タントスルモノナリトノ意味ヲ宣明致シタシ

首相 結構ナリ尙御參考迄ニ申上ゲタキハ今回ノ戰爭ハ極メテ深刻ニシテ最後ノ勝利ヲ獲ル迄徹底的ニ戰ヒ抜ク決心ヲ持ツコト必要ナリト云フ點ナリ時期ハ一月中旬以降中國側ノ事情ニテ適當ニ決定セラレ差支ナキ次第ナルガ

我方トシテハ一月十五日頃ガ適當ナリ一月二十日ニ議會開カルルヲ以テ全國民ニ徹底セシムルニ好都合ナリ

汪 贊成ナリ一月十五日ト致スベシ

首相 結構ナリ

三國民政府ノ民心獲得難ニ付テ

汪 民心ノ獲得ニ付テハ政府モ大イニ努力シツツアルガ今尙全國ニ徹底シ居ラザルハ遺憾ナリコレニハ政府自身反省スベキ餘地アルコト勿論ナルモ其ノ他ニモ原因アリ例ヘバ(一)前線ニ於ケル軍隊ハ國民政府ニハ歸順スルガ日本軍ニハ降服セヌト云フ氣持アリテ容易ニ投降セズ又歸順セル後日本軍ノ監視ノ下ニ置カルル關係上國民政府ニ賴ラザル氣持トナルモノ多シ斯カル軍隊ノ歸順ニ付テハ日本軍側ニモ安心ヲ與へ同時ニ國民政府ニ於テモ斯カル軍隊ノ信賴ヲ繋グルニ足ル何等カノ調整方法ヲ講ズル必要アリト思考セラル(二)租界内ニハ相當多數ノ中國ノ人材集リ居ルモ國民政府ニ於テ未ダ之ヲ握ルヲ得ズ其ノ原因ハ彼等ハ租界ハ日本軍ノ占領地ナルヲ以テ日本側ノ言フコトヲ聽ケバ足り國民政府ト連絡スル必要ナシト思ヒ込ミ一方重慶側ガ之ニ乘ジ巧ミニ離間策ヲ講ジ君等ハ日本側

ニサハ連絡スレバヨシ國民政府ノ言フコトハ聞く必要ナシト言ヒ觸ラシ盛ニ國民政府ノ惡口ヲ言ハシメツツアルガ爲メナリ此ノ點ニ付テモ日本側ニモ安心ヲ與ヘ國民政府モ民衆ヨリ信用サルル様ニ調和スル必要アリ

軍隊ニ關シテハ若シ敵ト密謀セルモノアリタルガ如キ場合ニハ日本軍ニ於テ直接處分シテ差支ナキモ然ラザル限り不都合ナルコトアリタルトキハ先ヅ國民政府ニ通報シ政府ニ於テ適當ノ處置ヲ取ルコトト致シタシ政府ガ軍隊ニ對シ賞罰ヲ明ニセザレバ到底之ヲ統率シ得ザル譯ナリ首相 オ話ハ能ク諒解セリ民心獲得上種々ノ問題アルコトハ自分モ察シ居レリ今回帝國政府ハ政策ノ一大轉換ヲ試ミ現地機關ヲシテ之ヲ實行セシメントノ決心ナルヲ以テ大使、軍司令官等ニ於テ充分援助シ得ルモノト信ズ斯カル問題ハ遠慮ナク相談セラレタシ要スルニ治安ハ國民政府ニ於テ其ノ責任ヲ負ヒ作戰ハ日本軍ニ於テ其ノ責任ヲ負フコト理想ニシテ國民政府ニ於テモ充分其ノ責任ヲ取ル様希望スルモノナリ總軍司令官モ大使モ考ヘ方ガ變ツテ居ル筈ナルニ付篤ト相談セラレタシ

歸順セル軍隊ヲ國民政府ニ於テ收容スルコトハ當然ナリ

唯日本軍ニ於テハ歸順ノ假面ヲ冠レル謀略ニ非ズヤトテ心配スル譯ナリコレ亦汪主席ガ責任ヲ持タルレバ問題ナキ次第ナリ

要スルニ主席ヲ中心トシ國民政府ヲ強化シ治安ヲ維持シ日本軍ヲシテ安ンジテ作戰ニ專念セシメ一新局面ヲ展開シ行ケバ李宗仁モ白崇禧モ來リ參ズルニ至ルベシ斯クシテ全面和平ノ基礎モ出來ル譯ナリ

四 國民政府ニ對スル援助ニ付テ

汪 能ク判レリ必ズ努力スベシ朱子曰ク弱者ヲ扶クルハ醉人ヲ扶クガ如ク東ヨリ扶クレバ西ニ倒レ西ヨリ扶クレバ東ニ倒ルト

國民政府ハ弱者ナルヲ以テ先進國ヨリ充分ノ指導ヲ受クル必要アルモ一方責任ヲ持タセ自立スルニ至ラシムルコトモ必要ナリ

首相 自分ハ國民政府ヲ弱者トハ思ハズ唯生レテ二三年ノモノナルニ付少年ト謂ヒ得ベシ少年ナルヲ以テ將來生長ノ可能性アリ生長スル精神ニ滿チタル少年ナリ或ハ歩行ノ途中倒ルルコトアルヤ計リ難キモ何時迄モ歩行セシメザルハ不可ナリ成ルベク一人歩キスル様努力セザルベカ

ラズ弱者ニ非ズ將來大ニ生長スル少年ト思ヒ努力セラレ
タシ今度ハ日本側當局ノ頭モ大ニ變レリ大使ニ對シテモ
軍司令ニ對シテモ何等遠慮スルコトナク大膽ニ話サレ度
シ兄弟ノ間ニハ隔リノアルベキ筈ナシ此ノ點ハ獨伊佛等
トハ大ニ異ナリ一家族ノ間柄ナリ大東亞省ヲ設ケタル所
以モ亦茲ニアリ中國ト日本トノ關係ハ他人行儀ニ表門ヨ
リ出入スル必要ナシ固ヨリ對外的ニハ各々獨立國ナルヲ
以テ此ノ方面ハ外務省ニテ取扱フベキモ大體經濟、文化
各方面トモ血カ通ツテ居ル間柄ナリ大東亞省大臣ノ人選
ニ付テモ大ニ此ノ點ヲ考慮シ適當ナル人物ヲ物色スルニ
意ヲ用ヒタル次第ナリ

弄 揆 撈

汪 本日ハコレニテ失禮致シ度シ種々御配慮ニ預リ感謝ニ
堪エズ

首相 明日出發ノ際ハ議會開院式ノ都合ニテ飛行場迄御見
送り出來ズ失禮乍ラ御諒承ヲ得タシ
汪 何卒斯カル御心配セヌ様願ヒタシ

92 昭和17年12月29日

谷外務大臣、青木(一男)大東亞大臣より
在中國重光大使宛

日中間諸取極締結に関する交渉開始方訓令

昭和十七年十二月二十九日 (編註)

外務大臣 谷 正之

大東亞大臣 青木 一男

中華民國駐箚

特命全權大使 重光 葵殿

國民政府トノ諸取極締結ニ關スル交渉方訓令ノ件

今般貴使在京中本大臣等ヨリ委細面陳ノ通帝國ハ國民政府
參戰ヲ以テ日支間局面打開ノ一大轉機トシ日支提携ノ根本
精神ニ則リ專ラ國民政府ノ政治力ヲ強化スルト共ニ重慶抗
日ノ根據名目ノ覆滅ヲ圖リ眞ニ更新支那ト一體戰爭完遂ニ
邁進スルノ根本方針ヲ確立シ而シテ世界戦局ノ推移ト睨合
セ米英側反攻ノ最高潮ニ達スルニ先チ右方針ニ基ク對支諸
施策ノ結實ヲ圖ルノ確固タル決意ヲ有スル次第ニシテ右ニ
基ク諸施策一般ニ關シテハ所要ニ應シ大東亞大臣ヨリ別途
訓令アルヘキ處國民政府參戰ヲ機トシ同政府トノ間ニ戰爭

完遂ニ付テノ日華協力ニ關スル件、帝國ノ專管租界還付ニ關スル件、上海共同租界及厦門共同租界移管ニ關スル件、北京公使館區域移管ニ關スル件、治外法權撤廢ニ關スル件並ニ在支敵産處理ニ關スル件ニ關シ別紙甲號「大東亞戰爭完遂ノ爲ノ對支處理根本方針ニ基ク具體的方策ニ準據シ國民政府参戦ヲ機トシ同政府ト締結スヘキ諸取極ニ關スル措置要領」(以下「措置要領」ト略稱ス)ニ據リ諸取極メノ締結ヲ行フコトニ方針決定シタルニ付委細右「措置要領」ニ就キ御了知ノ上大至急右ニ依リ國民政府ト交渉ヲ開始セラレ度國民政府参戦時期トノ關係モアリ明年一月十四日迄ニハ以後何時ニテモ前記諸取極ノ調印ヲ爲シ得ル様一切ノ手續ヲ完了シ置クコト必要ナルニ付出來得ル限り速急ニ先方トノ間ニ諸取極案ニ付事實上妥結ヲ了シ遅クモ一月七日迄ニハ妥結取極案カ當方ニ接到スル様御取計相成度又諸取極案文ハ別紙乙號^(別紙乙)ノ通りニ妥結ヲ見ル様極力努力セラレ度尙左記事項併せて御留意アリ度

記

一、戰爭協力ニ關スル日華協同宣言ニ關スル件(「措置要領」

一)(ニ)關シ

(イ)帝國ハ國民政府参戦ヲ以テ日支間局面打開ノ一大轉機

トシ日支提携ノ根本精神ニ則リ専ラ國民政府ノ政治力ヲ強化スルト共ニ重慶抗日ノ根據名目ノ覆滅ヲ圖リ眞

ニ更新支那ト一體戰爭完遂ニ邁進スルノ根本方針ヲ確立セルコトハ前記ノ通ニシテ帝國ハ右方針ニ基ク各般

ノ具體的方策ヲ迅速果敢ニ實行セントスルモノナルカ日華兩國ノ戰爭協力ヲ確保シ共同戰爭完遂ノ牢固タル

決意ヲ盟約宣明スルコトハ兩國ノ意思ニ適合スルノミナラス政治的效果ノ上ヨリスルモ必要ノ措置ト思考セ

ラルル次第ナリ右ノ次第ニ鑑ミ本件宣言ハ今後日華戰爭協力ノ基本的

取極タルヘキモノニシテ我方トシテハ特ニ之ヲ重視スルモノナリ

(ロ)本件宣言ニ關聯スル日華間了解(「措置要領」一、ノ(二))ハ實質的ニハ謂ハハ本件宣言ト一體ヲ爲スモノニシテ

均シク我方ノ重視スル所ナリ(ハ)「措置要領」別紙第三、中ノ註記載ノ點ニ關シテハ國民

政府側ニ於テモ如才ナキコトト思考セラルルモ戰爭目

的ノ確定カ事ノ性質上極メテ重要ナルニ鑑ミ特ニ我方

トシテモ關心ヲ有スル次第ナリ尙右註記載文中「東亞ノ解放」ナル字句ハ我方トシテハ公ニ之ヲ使用スルコトハ出來得ル限り之ヲ避クルヲ可トスルノ考慮モアル次第ナルモ支那側カ之ヲ使用スルコトニハ我方トシテ別段差支ナク又支那側ヨリスレハ寧ロ政治的ニ適當ナリト推セラルルヲ以テ右字句ヲ用ヒタルモノナリ

二、帝國專管租界還付ニ關スル件（措置要領）二、ニ關シ

帝國ハ支那ニ於ケル租界、治外法權其ノ他特異ノ諸事態ハ支那ノ主權及領土尊重ノ趣旨ニ基キ之カ撤廢乃至調整ヲ圖ルコトニ決シタルカ帝國カ今回斷然右ノ如ク決意スルニ至リタルハ前記根本方針ニ基ク深キ考慮ノ結果ニシテ帝國カ今後執ルヘキ右根本方針ニ基ク諸般ノ具體的方針ノ實施ト相俟テ眞ニ右根本方針ノ具現ニ寄與セシメントスル積極的意圖ニ出テタルモノニ外ナラス若シ萬一支那側ニ於テ之ヲ以テ日本側ノ「退却」ト言フカ如キ誤解アル場合ニハ啓蒙ノ要アルコト勿論ナリ

三、上海共同租界及廈門共同租界移管ニ關スル件（措置要領）

三（一）ニ關シ

上海共同租界及廈門共同租界ノ移管實施ノ時機ニ付テハ

我方トシテハ「措置要領」三ノ（二）及（三）ノ通りトスル方針ナルモ右ノ中（二）ヲ支那側ニ明示スルコトハ此ノ際差控フルヲ要ス

四、佛伊租界還付方斡旋ニ關スル件（措置要領）四、ニ關シ
佛國ニ對スル租界返還方斡旋ノ切出シ時機ニ付テハ主トシテ對佛印施策トノ關係上特別ノ考慮ヲ要スル次第ナルカ右ハ素ヨリ支那側ニ對シテ打明クヘキ性質ノモノニアラス

五、北京公使館區域移管ニ關スル件（措置要領）五、ニ關シ
「措置要領」五、ハ公使館區域ニ「常置保護兵ヲ置クノ權利」ニハ觸レ居ラサルモノナリ但シ右ハ我方ヨリ進ンテ支那側ニ對シ説明スルニ及ハサルモノトス

六、治外法權撤廢ニ關スル件（措置要領）六、ニ關シ
「措置要領」中別紙第六ノ註記載ノ點ハ帝國トシテノ意向ナルカ右ハ適宜支那側ニ對シ説明シ差支ナシ
七、在支敵産處理ニ關スル件（措置要領）七、ニ關シ

「措置要領」中別紙第七ノ往復書翰ハ樞密院ニ御諮詢相成ルヘキ交換公文タルコトヲ豫想スルモノニアラス

別紙甲號

大東亞戰爭完遂ノ爲ノ對支處理根本方針ニ基ク具體的
方策ニ準據シ國民政府參戰ヲ機トシ同政府ト締結スヘ
キ諸取極ニ關スル措置要領^(以下省略)

一 戰爭協力ニ關スル日華共同宣言ニ關スル件

(一) 戰爭完遂ニ付テノ日華協力ニ關スル取極ノ内容形式等ハ
別紙第一要綱案ニ依ル

(二) 右取極ニ關聯スル日華間了解ノ内容形式等ハ別紙第二要
綱案ニ依ル

別紙第一

(一) 戰爭完遂ニ付テノ日華協力ニ關スル取極ノ形式ハ「協定」

「取極」等必シモ拘泥セサルモ成ルヘク「共同宣言」(事前
御裁可ノ上日華兩國全權委員調印)ノ方式ニ依ルコト

(二) 本件取極ノ内容ハ左ノ趣旨ニ依ルコト

「米英ニ對スル共同ノ戰爭ヲ完遂スル爲兩國ハ不動ノ決
意ト信念トヲ以テ軍事上政治上經濟上完全ナル協力ヲ爲
スモノナルコトヲ宣言ス」

(三) 本件取極ハ調印ト同時ニ公表スルコト

別紙第二

(一) 日華基本條約締結交渉ノ際ニ於ケル「議事錄拔萃」(兩
國交渉委員署名)ト同様ノ方式ノ「議事錄拔萃」ナル文
書ヲ作成シ右文書ニ於テ左ノ趣旨ノ日華間了解ヲ明確ニ
スルコト

「國民政府ハ各般ニ亘リ自疆^(滿)ノ途ヲ講シ廣ク民心ヲ獲得
シ特ニ戰爭完遂ノ爲必要トスル生産ノ增強、戰爭目的ニ
對スル官民認識ノ普及並ニ治安維持ノ強化等ノ確實ナル
具現ヲ圖リ以テ戰爭完遂ニ寄與スルモノナル旨

日本側ハ右ニ對シ積極的ニ協力援助ヲ與ヘ此ノ際租界還
付、治外法權撤廢、敵産處理等ニ付テモ好意的措置ヲ執
ルモノナル旨」

(二) 本件「議事錄拔萃」ハ公表セサルコト

註、國民政府宣戰布告中ニ豫メ日本側ト協議ノ上戰爭
目的ヲ明示セシムルコト

右國民政府戰爭目的ニ付テハ帝國ノ戰爭目的ニ同調シ併
セテ獨伊等樞軸國及「タイ」國ノ戰爭目的ヲモ勘案シ概

ネ左ノ趣旨ニ依ル如ク適宜國民政府側ニ要望スルコト

「國民政府ノ戰爭目的ハ日本ト協力シテ米英勢力ヲ一掃シ以テ新中國ヲ建設シ東亞ノ解放ヲ圖リ延イテ世界全般ノ公正ナル新秩序招來ニ寄與スルニ在ルコト」

二、帝國專管租界還付ニ關スル件

帝國專管租界ノ還付ニ關シ別紙第三要綱案ノ趣旨ニ依ル取極ヲ「戰爭協力ニ關スル日華共同宣言」ト同時ニ締結シ且公表ス

別紙第三

帝國專管租界還付ニ關スル取極ノ内容ハ左ノ趣旨ニ依ルコト

「日本國政府ハ現ニ日本國カ中華民國ニ於テ有スル專管租界ヲ中華民國國民政府ニ還付ス

中華民國國民政府ハ舊租界ニ於ケル日本國臣民ノ居住及福祉等ニ付テハ少クトモ從來ノ租界施政ノ程度ヲ維持スルモノトス

日本國政府及中華民國國民政府ハ夫々同數ノ委員ヲ任命

シ本取極ノ實施ニ關シ所要ノ事項ヲ議定セシム」

三、上海共同租界及廈門共同租界移管ニ關スル件

上海共同租界及廈門共同租界移管ニ關シ別紙第四要綱案ノ趣旨ニ依ル取極ヲ「戰爭協力ニ關スル日華共同宣言」ト同時ニ締結シ其ノ一部ヲ公表ス

尙本件實施ニ關シテハ左ニ依ル

(一) 本件ハ關係第三國ノ意向及上海佛租界ノ處理如何ニ拘ラス之ヲ實行スルモノトス

(二) 上海共同租界ノ移管ハ成ルヘク速ニ之ヲ實施シ遅クモ昭和十八年中ニ之ヲ完了スルモノトス

(三) 廈門共同租界ノ移管ハ速ニ之ヲ實施スルモノトス

別紙第四

(一) 上海共同租界及廈門共同租界移管ニ關スル正式取極ノ内容ハ左ノ趣旨ニ依ルモノトシ本取極ハ之ヲ公表スルコト

「日本國政府ハ別ニ協議決定セラルル所ニ從ヒ中華民國國民政府ニ於テ成ルヘク速ニ上海共同租界及廈門鼓浪嶼共同租界ヲ回收スルコトニ同意ス」

二 南京国民政府参戦問題と「對支新政策」の展開

(二)右正式取極ト同時ニ兩國交渉委員署名ノ「議事録拔萃」ヲ以テ左ノ趣旨ヲ内容トスル取極ヲ爲シ之ヲ祕密トスルコト

「上海共同租界移管實施ノ時期ハ同租界内ニ於ケル友好國權益ノ介在其ノ他諸般ノ事情アルニ付此等ノ處理ヲ了シタル上別ニ協議決定スヘク又廈門鼓浪嶼共同租界移管ハ速ニ之ヲ實施ス」

四 佛伊租界還付方斡旋ニ關スル件

(一)帝國ノ專管租界還付取極締結ニ關聯シ伊國ニ對シ其ノ租界返還方懲慚ス右租界返還ハ帝國ニ做ヒ原則トシテ無條件トス但シ無條件返還ニ應セサル場合ハ租界ノ實狀ニ應シ一定期間過渡的措置ヲ講スルコトヲ考慮ス

(二)佛國ニ對シテハ前項ニ準スルモ其ノ時機ハ別途之ヲ定ム

(三)國民政府ニ對シテハ佛伊租界返還方斡旋スヘキ旨説明スルニ止メ之カ爲ノ形式的文書ハ作成セス

五 北京公使館區域移管ニ關スル件

北京公使館區域ニ於ケル從來ノ特別行政ヲ中國側ニ移管ス

ル爲別紙第五要綱案ノ趣旨ニ依ル取極ヲ「戰爭協力ニ關スル日華共同宣言」ト同時ニ締結公表シ速ニ之ヲ實施ス

別紙第五

北京公使館區域移管ニ關スル内容ハ左ノ趣旨ニ依ルコト

「日本國政府ハ北京公使館區域ニ於ケル從來ノ特別行政ヲ中華民國國民政府ニ於テ速ニ回收スルコトニ同意ス」

六 治外法權撤廢ニ關スル件

帝國ハ日華基本條約ニ基キ逐次支那ニ於ケル治外法權ノ撤廢ヲ行フモノトス

之カ爲別紙第六要綱案ノ趣旨ニ依ル取極ヲ「戰爭協力ニ關スル日華共同宣言」ト同時ニ締結シ且公表ス

別紙第六

治外法權撤廢ニ關スル取極ノ内容ハ左ノ趣旨ニ依ルコト

「日本國政府ハ中華民國ニ於テ有スル其ノ治外法權ノ撤廢ヲ速ニ實行スル意向ヲ有スルヲ以テ日華兩國政府ハ速

二同數ノ委員ヨリ成ル専門委員會ヲ設置シ右ニ關スル具
體案ヲ審議作成セシム

中華民國國民政府ハ日本國ノ治外法權ノ部分的又ハ全般
的撤廢ニ件ヒ自國領域ヲ日本國臣民ノ居住營業ノ爲開放
スヘク且日本國臣民ニ對シテハ中華民國國民ニ比シ不利
益ナル待遇ヲ與ヘサルモノトス

右事項ニ關シ前記専門委員會ヲシテ併セテ研究セシム」
註、帝國トシテハ治外法權撤廢ノ實行ハ前記専門委員
會ニ於ケル具體案ノ作成ニ件ヒ漸次之ヲ實施ニ移シ
テ全面的撤廢ニ及フコトトシ先ツ國民政府ニ對スル
財政援助ノ目的ニテ課稅ニ關スル我方特權ニ付速ニ
調整ヲ加フル爲専門委員會ヲシテ先ツ課稅問題ノ研
究ニ當ラシムルモノトス

七、在支敵産處理ニ關スル件

在支敵産處理ニ關シ別紙第七要綱案ノ趣旨ニ依ル取極ヲ
「戰爭協力ニ關スル日華共同宣言」ト同時ニ行ヒ右ニ關シ
公表シ速ニ實施ス

備考 本件公表ノ内容ハ別ニ定ム

別紙第七

在華帝國大使及國民政府外交部長間往復書翰ヲ以テ在支敵
産處理ニ關シ左ノ趣旨ノ取極ヲ爲スコト

一、日本國政府ハ中華民國ニ於ケル日本側押收ノ敵國、敵
國人及敵國系法人ノ財産ハ戰爭完遂上ノ必要ニ依リ日
本國自ラ之ヲ處理スルモノノ外總テ合理的方法ニ依リ
速ニ之ヲ國民政府ニ移管スルノ用意アルニ付右了承ア
リタキ旨(在華帝國大使書翰内容要旨)

二、中華民國國民政府ハ右日本側ノ好意的措置ヲ欣然受諾
スルモノナル旨(國民政府外交部長書翰内容要旨)

編注 本文書は十二月二十九日に重光大使に手交された。

93

昭和18年1月3日
在中國重光大使より
谷外務大臣宛(電報)

日中間諸取極締結のため汪兆銘と交渉開始に
ついて

第一號(至急、館長符號扱)

南京 1月3日前発
本省 1月3日前着

客年十二月二十九日附外務大臣及大東亞大臣御訓令ノ交渉
案件ニ關シ二日午前汪主席ト會見交渉ヲ開始セルカ(當日
會談内容ハ御參考迄別電報告ス)取極文書ノ成作等ニ付引
續キ先方ノ希望ニ依リ外交部長トノ間ニ協議ヲ進ムルコト
トセリ右交渉經過ハ其ノ都度電報セサルニ付御含ヲ請フ
大東亞大臣ヘ可然ク御聯絡アリタシ



94

昭和18年1月3日 在中国重光大使より
谷外務大臣宛(電報)

日華共同宣言に關シ議事録抜粋形式を往復書

簡へ変更するよう意見具申

別電一 昭和十八年一月三日発在中国重光大使より谷外

務大臣宛第三号

右往簡案

二 昭和十八年一月三日発在中国重光大使より谷外

務大臣宛第四号

右來簡訳文案

南京 1月3日前発
本省 1月3日後着

第二號(緊急、館長符號扱)

① 戰爭完遂ニ付テノ協力ニ關スル日華共同宣言及附屬書取極
ノ締結方ニ關スル貴大臣及大東亞大臣共同訓令ニ付テハ本
使東京出發以來之カ執行振ニ關シ更ニ慎重考慮ヲ重ネテ今
次中國ノ參戰及之ニ伴フ帝國側諸措置ノ政治的效果ヲ最大
限ニ發揮セシムヘキ態様ニ於テ右宣言及取極ヲ期シタキ所
存ナル處前記訓令附屬乙號ニ掲ケラレタル諸文書ノ形式ニ
關シテハ共同宣言協定及往復文書トモ本使ニ於テ何等異存
ナク我方原案通安結方中國側ニ對シ銳意折衝ヲ試ムヘキモ
右議事録抜粋ノ形式ハ左ノ理由ニ依リ適當ナラスト認メラ
ルルニ付之ニ代フルニ別電第三號及第四號ノ往復書翰ヲ以
テシ右書翰中ニ於テ先般東京ニ於ケル東條總理ノ汪主席間
ノ會談ヲ引用シタル後議事録抜粋中ノ決議ト同一内容ヲ本
使及外交部長間ニ確認スルコトト致度シ
二 元來議事録抜粋ノ内容ハ思想的ニハ前記總理、主席間ノ
會談ト密接ナル關聯ヲ有シ前者ハ後者ニ端ヲ發シ且其ノ

最主要ナル點ヲ摘録セルモノト見ルヘキモノナルコト從テ右内容ヲ兩國政府間ニ確認セントスルニ當リ單ニ右内容ノミヲ議事録抜萃中ノ決議トシテ記載スルヨリ往復書翰ヲ以テ先ツ兩國政府最高首腦者間ノ意見一致トシテ前記會談ヲ引用シ其ノ「エツセンス」トシテ之ヲ確認スル方遙ニ大ナル政治的意義ヲ與ヘ得ルコト更ニ又形式ノ問題トシテ見ルモ往復書翰ハ議事録抜萃ニ優ルトモ劣ラサル拘束力ヲ有シ得ルコト

②、假令議事録抜萃ナリト雖共同宣言ノ署名ト同時ニ兩國全權肩ヲ竝ヘテ署名スル文書ヲ作成シ之ヲ祕密トスルニ於テハ今次共同宣言ニハ祕密協定アリトノ敵側及重慶側ノ逆宣傳アル場合其ノ反駁ノ餘地ナク甚タ面白カラス假令往復文書トスル場合ハ通例外國使臣ト外交部長間ノ文書ハ其ノ性質上發表セサルモノナル上前記首腦者會談ヲ引用セルカ如キ書翰ハ當然不公表ノモノナルヲ以テ本宣言ニハ祕密協定ナシト中外ニ對シ公明正大ニ稱シ得ヘキコト

議事録抜萃第一ノ二、及第二ノ如キハ全然一方のニ我方ノ好意的措置ヲ内容トスルモノナルニ依リ之ヲ彼我對等

ノ立場ニテ署名スル文書ニ盛ルヨリモ先ツ我方ニ於テ通報シ先方ヲシテ諒承且謝意ヲ表セシムル往復文書ニ記載スルヲ以テ事ノ性質上適當トスヘキコト

就テハ別電往復書翰案ニ就キ關係方面ト打合セラレ至急御詮議相成度結果何分ノ儀來ル五日迄ニ御回電アル様御取計アリ度

本電大東亞大臣へ然ルヘク御聯絡アリ度

(別電一)

南 京 1月3日前発

本 省 1月3日前着

第三號(緊急、極秘、館長符號扱)

以書翰啓上致候陳者日華兩國間ノ提携ヲ強化シ戰爭ニ對スル兩國間ノ協力關係ヲ一層増進スルコトニ付テハ客年十二月二十一日東京ニ於ケル日本國東條總理大臣ト中華民國汪行政院長トノ間ノ會談ニ於テ兩國政策ニ關スル完全ナル意見ノ一致ヲ見右政策ノ具現ヲ見ルコトトナレルハ本使ノ欣快トスル所ニ有之候

右會談ニ際シ汪院長ノ所言ハ覺書トシテ提出セラレ又東條

二 南京国民政府参戦問題と「對支新政策」の展開

總理大臣ノ陳述モ同月二十二日同シク文書トシテ汪主席ニ
手交セラレタル次第ナル處本日ノ會談ニ於テ閣下ト本使ト
ノ間ニ於テ戰爭遂遂ニ付テノ協力ニ關シテハ前記文書中
一、中華民國政府ハ、、、
二、日本國政府ハ、、、好意的措置ヲ執ルコト
ニ付兩國政府間ニ意見ノ一致ヲ見タル旨確認シタルコトヲ
本使ハ茲ニ閣下ニ對シ通報致候
更ニ上海共同租界及廈門共同租界移管ノ時期ニ關シテハ、
、、、速ニ之ヲ實施スルコト
ニ兩國政府間ニ諒解成立セル旨本日ノ會談ニ於テ閣下ト本
使トノ間ニ確認シタルコトヲ併セテ通報致候本使ハ閣下ニ
於テ前記通報ヲ諒承セラレンコトヲ希望致候本使ハ茲ニ閣
下ニ向ツテ敬意ヲ表シ候

昭和 年 月 日

(別電二)

第四號(緊急、館長符號扱)

南京 1月3日前発
本省 1月3日前着

以書翰啓上致候陳者本日附貴翰ヲ以テ閣下ハ左ノ通り御通
報相成候

(以下往翰冒頭「日華兩國間ノ」ヨリ「本使ハ閣下ニ於テ
前記通報ヲ諒承セラレンコトヲ希望」迄ヲ其ノ儘記載ス)
本官ハ前記通報ヲ諒承スルト共ニ右通報ニ掲ケラレタル日
本國政府ノ好意的措置ニ對シ茲ニ深甚ナル謝意ヲ表シ候
本官ハ茲ニ閣下ニ向ツテ敬意ヲ表シ候

中華民國 年 月 日

敬 具

95

昭和18年1月3日

在中国重光大使より
谷外務大臣宛(電報)

日中間諸取極締結に関する汪兆銘との交渉に

ついて

南京 1月3日前発
本省 1月3日後着

第五號(館長符號扱、至急)

① 二日午前汪主席トノ會談要領
一先ツ本使ヨリ左ノ通り述フ

(イ) 對重慶側等ノ宣傳ノ話ニ關聯シテ戰爭ノ全局ニ關シテハ東條總理ヨリモ的確ニ説明アリタル通りニシテ固ヨリ日本ハ必勝ノ確信ヲ有ス自分ノ見ル所ヲ以テスルモ英國ノ戰鬪力ハ既ニ著シク低下シ米國ノ生産力ヲ賴ミトスル戰鬪力ノ發揮モ今ヤ最大限度ヲ超ヘ蘇聯ニ至リテハ依然戰爭ヲ繼續シツツアルモ其ノ國內及戰線ニ於ケル狀況ハ戰鬪力ノ甚タシキ低下ヲ示シ居レリ右ハ彼等カ最大能力ヲ擧ケテ戰ヒツツアル太平洋及大西洋並ニ北阿ニ於テモ實證セラレツツアル處ニシテ斯クシテ樞軸國側ノ不敗ノ地位ハ確立セラレ敵國側ノ疲弊ハ漸進スヘキ形勢ニアリ此ノ情勢下ニ於テ日本ハ國民ノ堅キ決意ト必勝ノ信念トヲ以テ鬪ヒツツアル次第ナルカ近ク之ヲ實行セントシテ帝國ノ贊同ヲ得ラレタルコトハ極メテ重大ナル意義ヲ有スルモノナリ

(ロ) 日支兩國ノ政策ニ關シテハ客年十二月二十一日主席ト東條總理ト話合ヒ夫々覺書ヲ交換シタルカ右ハ兩國將來ノ政策ヲ律スル基本トナルヘキモノニシテ右兩國政府首腦ノ會見ハ歴史ノ一大事件ト云フヘク其ノ談話ノ内容ハ最も重要性ヲ有スルモノナリ其ノ結果主席ニ於

テモ國民政府ニ於テモ自ラ進ンテ重大ナル責任ヲ負フニ至リ

⁽²⁾ 東條總理ハ日本政府ノ方針ヲ具體的ニ言明シタル次第ニシテ本使等ハ右政府ノ方針ヲ實行スヘキ一大責任ヲ負ヒタルモノナリ我方ニ於テハ當地ニ於テノミナラス東京ニ於テモ出先機關ヲ召集シ極力其ノ政策ノ徹底化ヲ計ルニ努メ居レリ我々ハ日支關係ノ新局面ヲ打開スル爲其ノ有效ナル實現ヲ期待スルモノニシテ將來日支協力關係ノ増進ヲ見ルヤ否ヤハ懸ツテ其ノ成否ニ在リ中國側ニ於テモ汪主席ノ指導下ニ充分此ノ政策ノ結果ヲ計リ一大成果ヲ擧ケラレンコトヲ希望シテ已マス日本側ノミ如何ニ努力スルモ效無ク事ノ成否ハ寧ろ中國政府ノ努力ニ在リ國民政府ニ於テハ右政策具現ノ爲自發的ニ仕事ヲ進メラレタシ

⁽³⁾ 前記政策ノ手始めトシテ差當リ日本側ノ執ルヘキ措置ニ付述フヘシ第一、東京ニ於ケル主席ト總理トノ話合ハ兩國政策ノ基礎トナルモノナルヲ以テ其ノ主要内容ヲ本使ト外交部長トノ間ニ確認スルコトト致度シ第三、租界ニ關シテハ專管租界ハ之ヲ還附シ共同租界ハ外國關

二 南京国民政府参戦問題と「對支新政策」の展開

係アル爲多少遅ルヘキモ之亦還附スル原則ノ下ニ話合ヲ進メタシ第三、治外法權ヲ撤廢スル準備トシテ専門委員ヲ任命スルコトトシタク尤モ之ト共ニ内地開放ノ問題ノ附隨スルコトハ當然ナリ第四、敵産處理ニ付テモ日本政府ハ戰爭完遂上必要已ムヲ得サルモノ以外ハ合理的方法ニ依リ國民政府ニ移管スルコトト致スヘシ尙此ノ外經濟上ノ問題ニ付テモ實際的ニ着々進メタキ意嚮ナリ就テハ國民政府ニ於テモ充分之等ニ關スル準備ヲ進メラレタシ

(二)⁽⁴⁾ 參戰ニ付テハ東京ニ於テ總理トノ間ニ既ニ日時ノ點迄モ相談セラレタル次第ナルカ參戰ノ際ニハ日支兩國カ共同シテ戰爭ヲ完遂スル爲不勳ノ決意ト信念トヲ以テ軍事上、政治上及經濟上完全ニ協力シテ進ムヘキ旨共同宣言ヲ作り之ヲ世界ニ闡明スルコト適當ナルヘシト思考シ居レリ

尙以上ノ内租界等ノ問題ハ條約ニ關聯スルヲ以テ我方ニ於テハ樞密院會議ニモ附スルヲ要シ適當ナル形式ヲ考フル必要アリ早速之ニ關スル商議ヲ進メタシ

二、右ニ對シ汪主席ノ述ヘタル處左ノ通り

(イ) 本日ハ極メテ重要ナル話ヲ承リ眞ニ兩國國交上劃期的ノ事件ナルコトヲ痛感セリ國民政府ニ於テモ全力ヲ盡シ最善ノ努力ヲ拂フヘシ取極ノ具體的交渉ハ外交部長ヲシテ明日ヨリ聯絡協議セシムヘシ參戰ノ際ノ共同宣言モ結構ナリ但シ中國側トシテハ過日東條總理ニモ話シ置キタル通り其ノ他別ニ對内的ニ參戰ノ意義ヲ徹底セシムル爲ノモノヲモ貴方ト聯絡ノ上發表シタキニ付御承知アリタシ

(ロ)⁽⁵⁾ 參戰ニ付テハ機密ヲ要スル爲歸寧ノ後中央政治委員會ニ於ケル報告ノ際ニモ抽象的ニ之ニ觸レタルノミニテ其ノ時期等ヲ示シ居ラス前日位ニ會議ニ付スル豫定ナリ尙來ル十日華北政務委員會委員長外全國ノ省長特別市長ヲ召集シテ所要ノ指示ヲ爲シ次イテ適當ノ時期ニ軍事關係委員ヲ召集スル心算ナリ

(ハ) 政府ノ戰時機構トシテハ國防會議ヲ設置シ自分ノ外ニ軍事委員會常任委員(陳公博)行政院副院長(周佛海)華北政務委員會委員長、總參謀長、陸軍部長、海軍部長、內政、外交、財政、宣傳、實業ノ各部長ヲ以テ之ヲ組織シ政府ノ最高機關トシテ立法院ノ緊急處分權及監察

院ノ政務官懲戒權ノ如キモ之ニ移シ中央政治委員會ハ
其ノ儘存置セシムルモ月一回ノ例會ヲ開クニ止メ重要
ナル國務ハ國防會議ニ於テ處理セシムル方針ナリ尙行
政機構全般ニ付テモ改革ヲ考慮中ニテ三、四日中ニハ
具體案ヲ得ルニ至ルヘシ尙人員ノ淘汰ニ付テハ適當ナ
ル名義ヲ付シテ機關外ニ收容スル方法ヲ講シ人心ノ動
搖ヲ防ク考ヘナリ

三、本使ヨリ政府ノ機構等ニ付氣付キタルコトハ隨時申述フ
ヘキモ今後經濟方面ニ於テ中國側ノ活動範圍ハ相當廣ク
ナルヘキニ付各方面ヨリ

經驗アリ地位アル人ヲ多數包含スル樣努力スルコト必要
ニシテ右ハ政府ノ基礎ヲ強固ナラシムル上ニモ大切ナリ
ト述ヘタルニ主席ハ自分モ同様ニ感シ全國經濟委員會ヲ
擴充シテ在野ノ名流ヲ多數誘致スル樣準備中ナリト答ヘ
タリ

四、最後ニ本使ヨリ本日述ヘタル各種ノ取極ハ前ニ述ヘタル
如ク急速成立セシメ適當ニ發表シタク(尤モ交換公文等
ハ公表スル必要無キコト言フ迄モ無シ)之カ手續ヲ急キ
居ルニ付至急打合ヲ終ルコトト致度シト述ヘタル處更ニ

主席ハ之ヲ諒トシテ今回中國政府參戰ノ際敵國側特ニ重
慶側ハ恐ラク種々ノ逆宣傳ヲ試ムヘキニ付之ニ對處スル
上ニ於テモ祕密協定等ノ惡宣傳材料ヲ無クシ正々堂々
ル態度ニ出テ得ルコトハ兩國將來ノ爲極メテ望マシキコ
トナリト答ヘタルニ付本使ヨリ成ルヘク左樣取計フコト
ト致スヘシト答ヘ置キタリ

大東亞大臣ニ可然ク御聯絡アリ度シ

96 昭和18年1月3日

在中國重光大使より
谷外務大臣宛(電報)

日中間諸取極に関し褚民誼外交部長との交渉

振りについて

南京 1月3日後発

本省 1月4日前着

第七號(館長符號扱)

① 二日汪主席トノ打合せニ基キ三日外交部長ト大使官邸ニ會
同シ各項ノ案文ヲ示シツツ接衝ヲ爲シタル應酬要領左ノ通
ニ東京ニ於ケル主席總理間ノ話合ハ兩國政策ノ基礎タルヘ
キモノナルヲ以テ之ヲ確認シ其ノ要旨ヲ記録ニ留メ置ク

コト有意義ナルヘシト述ヘタルニ部長ハ至極同感ナリ右ハ機密ニ屬スヘキモノナルカ之ヲ記録ニ留メ此ノ點ヲ公文トシテ交換シ置クコト宜シカルヘシト答ヘタリ依テ形式ノ點ニ付テハ目下當方ニテモ種々考究シ居リ東京トモ打合せ中ナルカ參考迄ニ一應形式ヲ作成シテ御目ニ懸クヘシト告ケ置キタリ

二、参戦ハ前記ノ如キ根本政策ニ基キ(編注)

租界ハ還附ヲ實行スル意味ニテ委員會ヲシテ細目ヲ協議セシメントスルニ在リ還附後ニ於テモ日本人ハ當然居住營業ヲ認メラルヘキノミナラス其ノ福祉ニ付テモ支那側ニ於テ努力セラルルコトハ當然ノコトト考ヘラルルカ法理上ヨリ言フモ還附ト共ニ斯ル規定ヲ設クル必要アル次第ナリ

^③共同租界及公使館區域ハ外國ニ關係アルヲ以テ手續上專管租界ト異ル點アルヘキハ當然ナリ又治外法權撤廢ニ對シテ内地開放ハ當然ノコトナルカ之等ハ専門委員會ニ於テ審議セシメントスル案ナリト説明ヲ與ヘ置キタリ尚本使ヨリ日本政府カ今回租界ノ還附竝ニ治外法權ノ撤

廢ヲ現實ニ行フコトヲ決定セルハ曩ニ東條總理力ヲ主席ニ對シ示サレタル根本方針ニ基クモノニシテ日本側トシテハ非常ナル努力ト決心トノ結果ナルニ付支那側ニ於テハ充分此ノ精神ヲ事トシテ日本側ノ好意ヲ無ニセサル様考慮セラレタシ苟且ニモ之ニ臨ムニ利權回收ノ如キ輕薄ナル考ヘ乃至日本ノ好意的態度ニ附込ムカ如キ

^④輿論起ルトキハ右折角ノ日本側ノ好意ニ反スルコトナルノミナラス日支全局ニ直ニ惡影響ヲ及ホスニ至ルヘシ又租界ハ北支南支各地ニ存在シ之カ處理ニ付テハ中國側内部ニモ極メテ複雑ナル事情アリ萬一之ニ對スル準備不充分ナルトキハ其ノ結果ハ極メテ面白カラサルコトナルヘキニ付中央地方トモ極秘裡ニ周到ナル準備ヲ進メラルルコト可然ト繰返シ述ヘ支那側ノ注意ヲ喚起セル處部長ハ中國側ハ素ヨリ日本ノ好意ヲ充分諒解シ居リ之ヲ無ニセサル様總ユル努力ヲ拂フヘク此ノ點ハ充分主席ニモ進言シテ期待ニ副フ様取計フヘシト答ヘタリ

四、敵産ノ處理ニ付テハ要スルニ日本側ノ押收シ居ルモノハ戰爭遂行上必要已ムヲ得サルモノノ外ハ合理的の方法ニ依リ之ヲ中國側ニ移管スル趣旨ニシテ中國

側ニ於テモ此ノ措置ヲ多トセラルルモノト信ス尙本件ハ
謂ハハ經濟問題ノ一部分ナルカ經濟問題全般ニ付テモ東
條總理カ主席ニ披露セル精神ニ則リ着々處理セラルル筈
ニシテ其ノ結果中國側ノ活動範圍ハ著シク擴大セラルル
譯ナルニ付斯カル日本側ノ友好的態度ヲ諒トシテ之ニ對
スル各方面ノ準備ヲ此ノ上トモ進メラレ準備不充分ノ爲
惡結果ヲ齎ササル様飽迄努力セラレタシト繰返シ念ヲ押
シタル處部長ハ重ねテ感謝ノ意ヲ表スルト共ニ日本側ノ
期待ニ背カサル様充分努力スヘク

⁽⁶⁾ 主席ニモ報告ノ上實業部其ノ他ヲ激勵シテ満足ナル結果
ヲ擧クル様手配スヘシト答ヘ尙取極案ニ付テハ篤ト審議
ノ上速ニ何分ノ儀回答スヘシト述ヘタリ

五、以上ニテ取極ニ關スル説明ヲ終リ最後ニ本使ヨリ是等日
本ノ政策ノ實行ト言ヒ又中國ノ參戰問題ト言ヒ共ニ兩國
各自ノ政策ノ發展セル結果ナルコトハ御承知ノ通ニシテ
要スルニ中國側ハ日本ト協力セントスル中國自身ノ政策
カ發展シテ參戰ノ希望トナリ其ノ希望カ今回達セラルル
コトトナリ

⁽⁷⁾ 一方日本側ハ其ノ對支確定方針ヲ具體化セル結果今日ノ

如キ政策ヲ執ルニ至リシ次第ナリ此ノ點ヲ特ニ明カニシ
重慶側等カ日本カ斯カル對價ヲ拂ヒテ支那側ノ參戰ヲ誘
ヒタリト言フカ如キ惡宣傳ヲ粉碎セサルヘカラスト思惟
スル次第ナリト述ヘタルニ部長ハ全然其ノ通りニシテ參
戰全ク中國側ノ自發的ノ希望ニシテ日支兩國ノ政策カ自
發的ニ進ミ居レル結果今日ノ如キ事態トナリシ譯ニテ此
ノ點ハ特ニ將來日支ノ協力關係ヲ増進スル上ニ重要ナル
意義ヲ有スルモノト思料シ居ルモノナリト答ヘタリ
大東亞大臣ニ可然ク御聯絡アリタシ

編 注 原本上で以下一頁が欠落している。また、「三」は見
当らない。



97 昭和18年1月3日

在中国重光大使より
谷外務大臣宛(電報)

日中間諸取極の修正に関する南京国民政府側
の要望について

南京 1月3日後発
本省 1月4日前着

第八號(館長符號披、大至急)

一、本日支那側ニ示シ交渉中ノ案文ノ中政策確認ニ關スル分
中ニ、日本國政府ハ右ニ對シ積極的ニ云々ノ文句中ニ「中
華民國ノ政治、經濟諸般ノ力量ヲ増強セシムルヲ得セシ
メ」(從來ノ諸懸案ニ對シテモ好意的措置ヲ執リ速ニ之
カ解決ヲ圖ルヘキコト)ノ二ツノ意味ヲ追加シタシトノ
要求支那側ヨリ出テタリ

二、及ニ、ニ對照セシムル意味ニテ例ヘハ「日本國政府ハ右
ニ對シ積極的ニ協力シ且援助ヲ與ヘ以テ中華民國ノ政治
經濟諸般ノ強化ヲ圖ルヲ得セシムク此ノ際租界ノ還付、
治外法權ノ撤廢、敵産ノ處理竝ニ從來ノ諸懸案ノ解決等
ニ付テモ好意的措置ヲ執ルヘキコト」ノ如ク修正スル案
ナリ當方トシテハ右案文ハ東京(一語不明)各方面(二語
不明)タル上ノ立案ナレハ其ノ修正ハ容易ナラスト思ハ
ルルモ折角ノ御希望ナレハ東京ニ御請訓スヘシトテ返答
ヲ留保シ置ケリ

三、更ニ附録トシテ東條總理及汪首席ノ談話要領書ヲ添附
シテハ如何トノ意見ヲ申出テタリ

三、其ノ他ノ案ニ對シテハ成ルヘク修正セサル様目下說得中

ニシテ政府幹部ノ内不在ノ者アル爲確定的ナラサルモ多
分出來得ル見込ナリ

就テハ前記一及二ノ點ニ關シ何分ノ儀御回電アリ度
大東亞大臣ニ可然前電通り御聯絡アリタシ

98 昭和18年1月4日

谷外務大臣より
在中国重光大使宛(電報)

日華共同宣言の重要性につき改めて南京国民
政府側に説示方訓令

本省 1月4日後8時30分発

第四號(外機密、館長符號披、緊急)

貴電第五號及第七號ニ關シ

(一) 貴電第五號ニ(イ)ノ汪主席ノ所言ニ徴スルニ先方ハ日華共
同宣言ヲ多少輕視シ居ルヤニ見受ケラルル處本件宣言ハ
今後日華戰爭協力ノ基本的取極タルヘキモノニシテ我方
トシテ特ニ重視シ居リ事前御裁可ノ嚴格ナル手續ヲ採ル
モノナルコト御承知ノ通りニシテ御如才モナキ儀トハ存
スルモ右ノ次第支那側ニ可然御説示アリ本宣言ノ重要性
ニ付充分認識セシメラレタシ

(二)尙貴電第七號ニ、ニ委員會トアル處當方ニ於テハ委員會ノ如キ國際機關ヲ此ノ際設クルコトハ右委員會細目協定權ト條約締結權トノ關係ノ如キ憲法論ハ暫ク措クトスルモ各般ノ考慮ヨリ適當ナラスト思考シ居ルニ付右御含ミ置キ相成度シ又同電四、敵産處理ニ付「要スルニ日本側ノ押收シ居ルモノハ戰爭遂行上必要已ムヲ得サルモノノ外ハ」トアル處「必要已ムヲ得サルモノハ」ハ可成「戰爭完遂上ノ必要ニ依リ日本國自ラ處理スルモノノ外」ノ趣旨ニテ御説明アリタシ



99 昭和18年1月4日 谷外務大臣より
在中国重光大使宛(電報)

日華共同宣言に關し往復書簡形式への変更を
容認について

別 電 昭和十八年一月四日發谷外務大臣より在中国

重光大使宛第六号

右書簡への修正指示

本省 1月4日後8時30分發

第五號(外機密、館長符號扱、緊急)

貴電第二號第三號第四號第六號及第八號ニ關シ
議事録抜萃ノ形式ニ付御稟申ノ趣旨ニ依リ關係省側トモ折衝ノ結果之ヲ往復書翰ノ形式ニ變更スルコト及右書翰ノ署名者ニ付御稟申ノ通り取行フコトニ決定ヲ見タリ付テハ右ニ依リ可然御取計アリタシ
尙書翰内容ハ別電第六號ノ通り修正セラレタシ

(別 電)

本省 1月4日後8時30分發

第六號(館長符號扱、外機密、緊急)

第一、貴電第三號往翰案中左ノ通修正ス

(一)第一項ニ關シ

(イ)「戰爭ニ對スル兩國間ノ協力關係ヲ一層増進スルコト」

ヲ「戰爭完遂ニ關スル兩國間ノ協力關係ヲ緊密ナラシ

ムルコト」トス

(ロ)「完全ナル意見ノ一致ヲ見」ト「右政策ノ具現」トノ

間ニ「戰爭完遂ニ付テノ協力ニ關スル日華共同宣言等。

ニ依リ」ヲ插入ス

(二)第二項ニ關シ

(イ)前段「本日ノ會談ニ於テ」ノ代リニ「本日戰爭完遂ニ付テノ協力ニ關スル日華共同宣言作成ニ當リ」トス

(ロ)ニ「日本國政府ハ右ニ對シ積極的ニ協力シ且援助ヲ與フヘク此ノ際租界ノ還付治外法權ノ撤廢、敵産ノ處理並ニ從來ノ諸懸案ノ解決等ニ付テモ好意的措置ヲ執ルヘキコト」ト改ム

(三)第三項ニ關シ

(イ)「更ニ」ノ次ヲ左ノ如ク改ム

「本日租界還付及治外法權撤廢等ニ關スル日本國中華民國間協定作成ニ當リ閣下ト本使トノ間ニ於テ上海共同租界及廈門鼓浪嶼共同租界移管ノ時期ニ關シテハ(新章)上海共同租界、速ニ之ヲ實施スルコト

(新章)ニ付兩國政府間ニ諒解成立セル旨確認シタルコトヲ併セテ通報致候」

(ロ)「本使ハ閣下ニ於テ、希望致候」ヲ新章トス

(ハ)「本使ハ茲ニ、敬意、」ヲ新章トス

第二、貴電第四號來翰案ハ往翰ニ合セ修正ス(貴電第四號ニハ第二項以下ニ本使トアル處右ハ本官ノ誤ト存ス)

100 昭和18年1月4日 谷外務大臣より
在中国重光大使宛(電報)

日華共同宣言にかかる往復書簡の修正理由等
について

本省 1月4日後8時30分発

第七號(館長符號扱、緊急、外機密)

貴電第八號ニ關シ

(一)貴電ニ、ニ付テハ往電第六號(ロ)ニ依リ御承知ノ通先方案中ノ前段ヲ削除シ後段ヲ其ノ儘採用シタリ前段削除ノ理由ハ趣旨ニ於テ異存アル次第二非サルモ中華民國政府自疆ノ建前ト矛盾スル感ヲ與ヘサルノ見地ヨリ之ヲ插入セサルヲ適當トスルニ在リ

(右貴大使御含迄)

(二)貴電ニ、ニ付テハ東條總理及汪主席ノ談話要領覺書ハ夫々原文(譯文ヲ附セス)ノ儘添付スルコトトシ先方申出ヲ受諾セラレ差支ナシ

101 昭和18年1月6日 在中国重光大使より
谷外務大臣宛(電報)

日華共同宣言にかゝる往復書簡の確定について

南京 1月6日後発
本省 1月6日夜着

第一五號(緊急、館長符號扱)

貴電第六號ニ關シ

一、五日日漢文照合中貴電ニ接シタルヲ以テ直ニ御訓令通り
往復文書ノ修正方先方ニ申入置キタル處六日中國側ヨリ
右修正ニ異議無キ旨回答越シタリ尙東條總理及汪主席ノ
覺書ハ支那側ノ希望通り何レモ原文ノ儘添付スルコトト
セリ

二、依テ六日右修正済ノ往復書翰案ヲ含ム取極案四種ニ就キ
再應嚴密ナル日漢文ノ照合ヲ行ヒ「テキスト」ヲ確定セ
リ右確定「テキスト」ハ豫定通り七日上海發空路歸京ノ
高橋事務官ニ託送ス同事務官七日中ニ着京セサル場合ハ
其ノ旨大至急電報アリタク當方ヨリ漢文「テキスト」ヲ
電報スルコトトスヘシ

三、調印本書ハ天候ノ都合モアルニ付成ヘク早目ニ高橋事務

官ヲシテ持參セシメラレタシ尙共同宣言及協定ノ調印本
書ノミ本省ニテ印刷セラルルコトトシ往復書翰二種ハ當
地ニテ作成スヘシ

102 昭和18年1月6日 在中国重光大使より
青木大東亞大臣宛(電報)

南京国民政府の対米英宣戦布告文案

南京 1月6日後発
本省 1月6日夜着

K第五號(大至急、館長符號扱)

一 昨年十二月八日大東亞戰爭勃發スルヤ、國民政府ハ日華
基本關係條約ノ精神ニ依リ友邦日本ト同甘共苦ヲ決意セル
旨聲明シ、爾來新國民運動ニ着手シ治安ノ保障民生ノ改善
ヲ計リ以テ國力ヲ増強シ大東亞戰爭ノ完遂ニ協力セムコト
ヲ期セリ、然ルニ英米等ノ國ハ依然其ノ百年以來ノ東亞分
裂政策ヲ踏襲シ且益々之ヲ強化シ遂ニ重慶側ノ分子ヲ誘拐
シテ所謂英米戰線ニ參加セシメ「ビルマ」印度ニ出兵シテ
東亞人ヲ以テ東亞人ヲ慘殺セシムルニ至レリ、最近其ノ暴
力ハ既ニ友邦日本ノ陸海空軍ニ擊破セラレ東亞侵略ノ據點

又既に喪失セルモ彼等ハ益々其ノ陰謀ヲ逞ウシ且國民政府治下ノ和平發展ヲ嫉視シ重慶側分子ヲ使噓シテ絶ヘス侵入擾亂セシメ以テ各種建設ノ方針ヲ阻害シ、更ニ直接自國ノ飛行機ヲ用ヒ重慶側ヲ驅リテ根據地トシテ我武漢廣東等ニ對シテ屢々爆撃ヲ行ヒ兵民ヲ慘害シツツアリ、重慶側分子カ甘シテ英米ノ驅使ヲ受ケ自ラ東亞ノ叛逆者トナレルハ素ヨリ恥スヘキ所ナルモ英米カ東亞ニ對シテ深ク野心ヲ包藏シ總ユル挑發離間ノ手段ヲ盡シ以テ其ノ最後ノ併呑ノ慾望ヲ遂ケント計リツツアルハ東亞民族ノ等シク慟泣敵愾措ク能ハサル所ナリ

茲ニ中華民國國民政府ハ今日ヨリ英米ニ對シ戰爭狀態ニ入レルヲ宣告ス、當ニ全力ヲ盡シテ友邦日本ト協力シ殘茅ヲ一掃シ以テ中國ノ復興東亞ノ解放ヲ計ルヘシ、滿洲國及「タイ」國ハ夙ニ友好ヲ厚ウシ東亞ノ共榮ニ對シテハ特ニ其ノ志ヲ同シウス今後ハ當ニ益々提携ヲ計リ以テ新東亞建設ノ共同目標ニ到達センコトヲ期スヘシ、獨逸伊太利ノ諸友邦ハ數年以來歐洲ニ於テ英米ノ勢力ト周旋シ屢々勝利ノ光榮ヲ得タリ

我國ハ今茲ニ大東亞戰爭ニ參加シタルヲ以テ將ニ相共ニ呼

應シテ世界全體ノ公正ナル新秩序ニ對シ貢獻スル所アラントス凡ソ我國民ハ今ヤ國父ノ大亞洲主義ヲ實現スル唯一ノ機會到來セルコトヲ覺リ中華民國建設ノ完成ト東亞及世界全般ノ正義和平ノ獲得トハ總テ此ノ一舉ニ懸ルヲ認識シ一德一心終始戮力以テ此ノ偉大ナル事態ノ偉大ナル使命ヲ貫徹センコトヲ期スヘシ

103 昭和18年1月7日

（谷外務大臣より
在中國重光大使宛（電報））

南京国民政府参戦及び日中間諸取極の調印日

繰上げにつき訓令

付記 昭和十八年一月七日、大本營政府連絡會議決定

「新情勢ニ關スル國民政府ノ参戦及同政府トノ

諸取極ニ關スル措置振」

本省 1月7日後8時発

第一四號（緊急、館長符號扱）

大東亞大臣發貴大使宛電報第一六號ニ關シ

我方ニ於テハ支那側参戦及諸取極調印（同時發表）期日ヲ能

フ限リ急速ニスルコト得策ト思考シ七日連絡會議ニ於テ右

參戰及調印ノ期日ヲ本月九日(土曜日)トスルコトニ申合セ
タリ(樞密院等ノ國內手續ハ八日中ニ完了ス)就テハ國民政
府ニ對シ右ニ順應シ九日ニ參戰及調印シ得ル様御説得ノ上
結果簡單ニ大至急御回電アリ度シ
尙本件期日變更ノ點ハ外部ニ洩レサル様十分支那側ニ念ヲ
押シ置カレ度シ

編注 「我方ニ」の前の削除箇所に次の記述がある。

「當方ノ有スル確實ナル情報ニ依レバ米國ハ目下重慶
トノ間ニ其在支治外法權撤廢、上海及厦門兩共同租界
竝ニ公使館區域ノ移管條約締結交渉中ニシテ近ク署名
ト同時ニ發表スル魂膽ナルモノノ如キ處米國側發表ガ
我方ニ先ヅルコトアリトセバ今次我方折角ノ諸措置
ヲシテ其ノ政治的效果ヲ減殺セシムルコト大ナルモノ
アルベク右ハ國民政府トシテモ極メテ取ラザル所ト思
考スルニ付」

(付記)

新情勢ニ關スル國民政府ノ參戰及同政府トノ諸取極ニ

關スル措置振

昭和一八、一、七

連絡會議決定

米國ノ對支新施策ニ關スル情報ニ關聯シ帝國ノ採ルベキ措
置ヲ左ノ如ク改ム

中國ノ參戰期日ヲ一月九日ニ繰上ゲ

104

昭和18年1月8日

谷外務大臣より
在独國大島大使、在伊國加瀬(俊一)臨
時代理大使宛(電報)

南京国民政府參戰に伴う日本側諸措置に関し

独伊兩國政府へ同調方要請について

別電 昭和十八年一月八日發谷外務大臣より在独國

大島大使宛第一二号

右要請内容

本省 1月8日前1時30分發

合第七號(緊急、館長符號扱)

往電合第一號ニ關シ

今回帝國政府ニ於テハ支那側參戰ヲ以テ日支間局面打開ノ
一大轉機トシ專ラ國民政府ノ政治力ヲ強化スルト共ニ重慶

抗日ノ根據名目ノ覆滅ヲ圖リ眞ニ更新支那ト一體戰爭完遂ニ邁進セントスルノ根本方針ヲ決定シ右方針ニ則リ我方トシテハ政治、經濟各般ニ巨リ努メテ干渉又ハ獨占ヲ避ケ支那側官民ノ責任ト創意トヲ活用シテ極力其ノ自發的協力活動ノ實ヲ具現セシムルニ努ムル一方國民政府トシテハ不動ノ決意ヲ以テ各般ニ巨リ自疆^(疆)ノ途ヲ講シ廣ク民心ヲ獲得シテ特ニ生産ノ増強、治安維持ノ強化等ノ確實ナル具現ヲ圖リ戰爭協力ニ遺憾ナキヲ期セントス

而シテ右ノ根本方針ニ基キ差當リ國民政府政治力強化ノ一方策トシテ帝國ニ於テハ支那側參戰ノ機會ニ租界還付、治外法權撤廢(法權撤廢ハ專門委員會ヲ設ケ先ツ速ニ課稅特權ヲ撤廢ス)等ヲ斷行スル(之カ爲ノ日支間協定ハ支那ノ對米英宣戰ト同日ニ署名調印ノ豫定)ニ決シタルニ依リ貴大使(伊宛ニハ「貴官」トス)ハ前記帝國ノ方針御含ミノ上成ルヘク九日前ニ直接(在獨大使ヘ)「リ」外相、(在伊大使ヘ)「チ」外相ニ對シ要旨別電(在獨大使ヘ)第一二號、(在伊大使ヘ)第四號^(省略)ノ通リ申入レラレ結果回電アリ度シ

本電宛先 在獨、在伊大使
別電ト共ニ在佛大使ヘ轉電セリ

(別電)

本省 1月8日前1時30分發

第一二號(緊急、館長符號扱)

帝國政府ニ於テハ國民政府參戰ノ機會ニ其ノ政治力ヲ強化シテ戰爭協力ノ實ヲ擧ケシメンカ爲諸般ノ措置ヲ講スル意向ナルカ特ニ一切ノ日本專管租界ノ還付、上海、厦門共同租界及北京公使館區域ノ行政權回收ニ對スル同意、治外法權ノ撤廢ヲ實行スルコトニ決定セリ然ル處國民政府ノ參戰ハ同政府カ日、獨、伊ノ與國トシテ共同戰線ヲ結成シ對米英戰爭完遂ニ寄與スルモノニシテ同政府ノ政治力強化ハ樞軸國全體ノ利益ト合致スル次第ナレハ獨逸トシテモ帝國政府ノ意ノ在ル所ヲ察シ帝國ノ措置ヲ充分了解シ國民政府政治力強化ノ方針ニ同調センコトヲ期待スルモノナリ尙帝國政府ニ於テハ伊太利、佛國ノ兩國ニ於テ帝國ノ措置ニ做ヒ租界返還等ノ措置ニ出テンコトヲ希望スルモノニシテ之カ爲必要ニ應シ獨逸側ノ好意的措置ヲ求ムルコトアルヘキニ付其際ハ適當斡旋ヲ得度シ

105 昭和18年1月8日

谷外務大臣より
在独国大島大使、在伊国加瀬臨時代理
大使宛(電報)

南京国民政府参戦後においても同国を三國同

盟には加入せしめない旨内報

本省 1月8日後0時発

合第八號(緊急、館長符號扱)

往電第二二號(伊ハ「第四號」ニ關シ

對獨(伊ハ「對伊」申入中「與國トシテ共同戦線ヲ結成シ」

トアル處右ハ國民政府ヲ日獨伊三國同盟ニ加入セシメ三國

ト對等ノ地位ニ於テ戦争ニ參加セシムルコトヲ考慮シ居ル

次第二ハアラザルニ付右爲念貴官限りノ御含迄

尙滿洲國ハ種々ナル考慮ヨリ現情勢ニ於テハ參戰セシメザ

ル方針ニツキ併セテ御含置アリ度シ

獨ヨリ在佛大使へ轉電アリ度シ

本電宛先 獨、伊



106 昭和18年1月8日

在中国重光大使より
谷外務大臣宛(電報)

日中間諸取極の調印日繰上げに関する汪兆銘

との会谈について

南京 1月8日前発

本省 1月8日前着

第二二號(緊急、館長符號扱)

貴電第一四號ニ關シ

七日夜半汪主席ニ會見シ(外交部長同席)參戰問題及各種取

極調印問題等ニ付英米及重慶等敵側ノ策動アル模様ニテ之

ニ對應スル爲其ノ期日ヲ九日ニ繰上ケタク枉ケテ中國側ノ

承諾ヲ得度キ趣旨ヲ申入レタル處主席ハ貴意ニ副フ爲總ユ

ル努力ヲ爲スヘシトノ趣旨ヲ述ヘ種々協議シタル上大體左

ノ通り手筈ヲ取極メタリ

一、參戰及取極參戰調印ヲ九日トス

二、中國側ノ宣戰布告(公文ハ曩ニ電報ノ通り)及國防會議ノ

設置(既電ノ通り)ヲ同時ニ發表ス

三、其ノ他ノ行政機構改革ハ間ニ合ハサルヲ以テ後ニ實施發

表ス

四、⁽²⁾中國ノ國內手續トシテ華北政務委員會委員長及各省主席、

特別市長ノ會合ハ今夜中ニ手筈ヲ備ヘ八日ニ成立スル様

努力スルコト(華北政務委員會委員長ノ來寧方ニ付テハ

本使ヨリ總ユル便宜ヲ與ヘルコト)就テハ政府御希望ノ
通り九日(土曜)ニ宣戰及調印ノコトニ取計フヘキニ付右
爲念

大東亞大臣へ轉電^(報)アリ度



107 昭和18年1月9日

「戰爭完遂ニ付テノ協力ニ關スル日華共同宣言」

付記一 昭和十八年一月九日付在中國重光大使より楮

民誼外交部長宛書簡

協力確認に關する交換公文往簡

二 昭和十八年一月九日付楮民誼外交部長より在

中国重光大使宛書簡

協力確認に關する交換公文來簡訳文

三 昭和十八年一月九日發表

南京国民政府参戦に關する政府聲明

大日本帝國政府及

中華民國國民政府ハ

兩國緊密ニ協力シテ米英兩國ニ對スル共同ノ戰爭ヲ完遂シ

大東亞ニ於テ道義ニ基ク新秩序ヲ建設シ惹テ世界全般ノ公
正ナル新秩序ノ招來ニ貢獻センコトヲ期シ左ノ通宣言ス

大日本帝國及中華民國ハ米國及英國ニ對スル共同ノ戰爭

ヲ完遂スル爲不勳ノ決意ト信念トヲ以テ軍事上、政治上

及經濟上完全ナル協力ヲ爲ス

昭和十八年一月九日即チ中華民國三十二年一月九日南京ニ
於テ

大日本帝國特命全權大使 重光 葵(印)

中華民國國民政府行政院院長 汪兆銘(印)

(付記一)

以書翰啓上致候陳者日華兩國間ノ提携ヲ強化シ戰爭完遂ニ
關スル兩國間ノ協力關係ヲ緊密ナラシムルコトニ付テハ客
年十二月二十一日東京ニ於ケル日本國東條總理大臣ト中華
民國汪行政院院長トノ間ノ會談ニ於テ兩國政策ニ關スル完
全ナル意見ノ一致ヲ見戰爭完遂ニ付テノ協力ニ關スル日華
共同宣言等ニ依リ右政策ノ具現ヲ見ルコトナレハ本使
ノ欣幸トスル所ニ有之候

右會談ニ際シ汪院長ノ所言ハ覺書トシテ提出セラレ又東條

總理大臣ノ陳述モ同月二十二日同ジク文書トシテ汪院長ニ
手交セラレタル次第ナル處本日戰爭完遂ニ付テノ協力ニ關
スル日華共同宣言作成ニ當リ閣下ト本使トノ間ニ於テ戰爭
完遂ニ付テノ協力ニ關シテハ前記文書中ニモ記載セラレタ
ル如ク

一、中華民國政府ハ各般ニ互リ自強ノ途ヲ講ジ廣ク民心ヲ獲
得シ特ニ戰爭完遂上必要ナル生産ノ增強、戰爭目的ニ對
スル官民ノ認識ノ普及竝ニ治安維持ノ強化等ノ確實ナル
具現ヲ圖リ以テ戰爭完遂ニ寄與スベキコト

二、日本政府ハ右ニ對シ積極的ニ協力シ且援助ヲ與フベク
此ノ際租界ノ還付、治外法權ノ撤廢、敵産ノ處理竝ニ從
來ノ諸懸案ノ解決等ニ付テモ好意的措置ヲ執ルベキコト
ニ付兩國政府間ニ意見ノ一致ヲ見タル旨確認シタルコトヲ
本使ハ茲ニ閣下ニ對シ通報致候

更ニ本日租界還付及治外法權撤廢等ニ關スル日本國中華民
國間協定作成ニ當リ閣下ト本使トノ間ニ於テ上海共同租界
及廈門鼓浪嶼共同租界移管ノ時期ニ關シテハ

上海共同租界移管ノ時期ハ同租界内ニ於ケル友好國權益
ノ介在其ノ他諸般ノ事情アルニ付此等ノ處理ヲ了シタル

上別ニ協議決定スベク又廈門鼓浪嶼共同租界ノ移管ハ速
ニ之ヲ實施スルコト

ニ付兩國政府間ニ了解成立セル旨確認シタルコトヲ併セテ
通報致候

本使ハ閣下ニ於テ前記通報ヲ了承セラレンコトヲ希望致候
本使ハ茲ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和十八年一月九日

大日本帝國特命全權大使 重光 葵(印)

中華民國國民政府外交部部長

褚民誼 閣下

(付記二)

(來翰譯文)

以書翰啓上致候陳者本日附貴翰ヲ以テ閣下ハ左ノ通御通報
相成候

日華兩國間ノ提携ヲ強化シ戰爭完遂ニ關スル兩國間ノ協
力關係ヲ緊密ナラシムルコトニ付テハ客年十二月二十一
日東京ニ於ケル日本國東條總理大臣ト中華民國汪行政院
院長トノ間ノ會談ニ於テ兩國政策ニ關スル完全ナル意見

ノ一致ヲ見戰爭完遂ニ付テノ協力ニ關スル日華共同宣言等ニ依リ右政策ノ具現ヲ見ルコトトナレルハ本使ノ欣幸トスル所ニ有之候

右會談ニ際シ汪院長ノ所言ハ覺書トシテ提出セラレ又東條總理大臣ノ陳述モ同月二十二日同ジク文書トシテ汪院長ニ手交セラレタル次第ナル處本日戰爭完遂ニ付テノ協力ニ關スル日華共同宣言作成ニ當リ閣下ト本使トノ間ニ於テ戰爭完遂ニ付テノ協力ニ關シテハ前記文書中ニモ記載セラレタル如ク

一、中華民國政府ハ各般ニ巨リ自強ノ途ヲ講ジ廣ク民心ヲ獲得シ特ニ戰爭完遂上必要ナル生産ノ増強、戰爭目的ニ對スル官民ノ認識ノ普及並ニ治安維持ノ強化等ノ確實ナル具現ヲ圖リ以テ戰爭完遂ニ寄與スベキコト

二、日本國政府ハ右ニ對シ積極的ニ協力シ且援助ヲ與フベク此ノ際租界ノ還付、治外法權ノ撤廢、敵産ノ處理並ニ從來ノ諸懸案ノ解決等ニ付テモ好意的措置ヲ執ルベキコト

三、付兩國政府間ニ意見ノ一致ヲ見タル旨確認シタルコトヲ本使ハ茲ニ閣下ニ對シ通報致候

更ニ本日租界還付及治外法權撤廢等ニ關スル日本國中華民國間協定作成ニ當リ閣下ト本使トノ間ニ於テ上海共同租界及廈門鼓浪嶼共同租界移管ノ時期ニ關シテハ

上海共同租界移管ノ時期ハ同租界内ニ於ケル友好國權益ノ介在其ノ他諸般ノ事情アルニ付此等ノ處理ヲ了シタル上別ニ協議決定スベク又廈門鼓浪嶼共同租界ノ移管ハ速ニ之ヲ實施スルコトニ付兩國政府間ニ了解成立セル旨確認シタルコトヲ併セテ通報致候

本使ハ閣下ニ於テ前記通報ヲ了承セラレンコトヲ希望致候

本官ハ前記通報ヲ了承スルト共ニ右通報ニ掲ゲラレタル日本國政府ノ好意的措置ニ對シ茲ニ深甚ナル謝意ヲ表示候

本官ハ茲ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表示^(候)シ表 敬具

中華民國三十二年一月九日

中華民國國民政府外交部部長 褚民誼

大日本帝國特命全權大使

重光 葵 閣下

(付記二)

中華民國ノ參戰ニ際シテノ帝國政府聲明(二月九日)

中華民國國民政府ハ本九日米英兩國ニ對シテ戰ヲ宣セリ事
茲ニ至レル所以ハ國民政府ノ宣戰布告ニ昭々トシテ明カニ
シテ齊シク米英積年ノ非望ニ禍セラレタル帝國ノ能ク共感
シ得ル所ナリ

日華兩國政府ハ直ニ嚴肅ナル共同宣言ヲ發出シ米英ニ對ス
ル共同ノ戰爭ヲ完遂スル爲兩國ハ不動ノ決意ト信念トヲ以
テ軍事上政治上經濟上完全ナル協力ヲ爲スモノナル旨ヲ宣
明セリ

抑々帝國ノ冀求スル所ハ速ニ東亞攪亂ノ禍根ヲ芟除シ道義
ニ基ク大東亞新秩序ヲ建設シ以テ世界永遠ノ平和ニ貢獻セ
ントスルニアリ而シテ國民政府ハ更新以來夙ニ帝國ト志ヲ
同シウシ今ヤ蹶然起ツテ帝國ト相携ヘテ米英擊破ノ共同戰
線ニ立ツニ至ル

此ノ秋ニ方リ帝國ハ日華提携ノ根本精神ニ則ル兩國關係ノ
劃期的發展ヲ期待スルト共ニ中國ノ自主獨立ト國民政府ノ
政治力發揮トヲ根基トスル新中國ノ速ナル建設ヲ冀念シ中
華民國ニ於ケル一切ノ帝國專管租界ノ還付上海共同租界厦

門共同租界及北京公使館區域回收ノ承認、治外法權ノ撤廢
等ヲ斷行スルノ外各般ニ亘リ有ラユル好意的措置ニ出テ以
テ極力新中國ノ建設ヲ支援スルニ決シタリ更ニ今後日華新
關係ノ發展ニ照應シ既存ノ諸約定ニ付テモ同様ノ趣旨ニ從
ヒ新ナル考量ヲ加フヘシ

惟フニ日華兩國ノ提携ハ自然ノ大道ニシテ米英ハ兩國共同
ノ宿敵ナリ帝國ハ舉國一致新中國ト共ニ信シテ此ノ大道ヲ
歩ミ進ンテ此ノ宿敵ヲ擊破シ眞ニ日華一體對米英戰爭完遂
竝ニ大東亞新秩序ノ建設ニ邁進センコトヲ期シ茲ニ帝國政
府ノ所信ヲ中外ニ聲明ス

108 昭和18年1月9日

「租界還付及治外法權撤廢等ニ關スル日本國
中華民國間協定」

大日本帝國政府及
中華民國國民政府ハ
本日調印ノ戰爭完遂ニ付テノ協力ニ關スル日華共同宣言ノ
本旨ニ從ヒ

中華民國ノ主權尊重ノ趣旨ニ基キ左ノ通協定セリ

第一章 專管租界

第一條

日本國政府ハ現ニ日本國ガ中華民國ニ於テ有スル專管租界行政權ヲ中華民國政府ニ還付スベシ

第二條

兩國政府ハ夫々同數ノ委員ヲ任命シ前條ノ實施ニ關スル細目ヲ協議決定セシムベシ

第三條

中華民國政府ハ前二條ニ依ル租界還付實施後當該地域ニ於ケル施政ニ當リ日本國臣民ノ居住、營業及福祉等ニ關シ尠クモ從前ノ程度ヲ維持スベシ

第二章 共同租界及公使館區域

第四條

日本國政府ハ別ニ協議決定セラルル所ニ從ヒ中華民國政府ガ成ルベク速ニ上海共同租界行政權及廈門鼓浪嶼共同租界行政權ヲ回收スルコトヲ承認スベシ

第五條

日本國政府ハ中華民國政府ガ北京公使館區域行政權ヲ速ニ

回收スルコトヲ承認スベシ

第三章 治外法權

第六條

日本國政府ハ現ニ日本國ガ中華民國ニ於テ有スル治外法權ヲ速ニ撤廢スルコトニ決シタルニ依リ兩國政府ハ右ニ關スル具體案ヲ審議作成セシムルノ目的ヲ以テ其ノ夫々任命スル同數ノ委員ヨリ成ル專門委員會ヲ設置スベシ

第七條

中華民國政府ハ日本國ノ治外法權ノ撤廢ニ伴ヒ自國領域ヲ日本國臣民ノ居住營業ノ爲開放スベク且日本國臣民ニ對シテハ中華民國國民ニ比シ不利益ナル待遇ヲ與ヘザルモノトス
前條ノ專門委員會ハ前項ニ關スル具體案ヲ併せて考究スベシ

第八條

本協定ハ署名ノ日ヨリ實施セラルベシ
右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本協定ニ署名調印セリ

昭和十八年一月九日即チ中華民國三十二年一月九日南京ニ

於テ日本文及漢文ヲ以テ本書各二通ヲ作成ス

大日本帝國特命全權大使 重光 葵(印)

中華民國國民政府行政院院長 汪兆銘(印)

~~~~~

109 昭和18年1月9日 在中国重光大使より  
谷外務大臣宛(電報)

### 日華共同宣言等の調印式における重光大使挨拶

南京 1月9日午後

本省 1月9日後着

K第一六號(至急)

茲ニ中華國民政府ノ米英兩國ニ對スル宣戰布告ノ日ニ當リ  
汪委員長ト本使トノ間ニ「戰爭完遂ニ就テノ協力ニ關スル  
日華共同宣言」竝「租界還付及治外法權撤廢等ニ關スル日  
本國中華民國間協定」ノ署名調印ヲ了シタルハ本使ノ衷心  
欣幸トスルトコロナリ

右共同宣言ハ中華民國久シク待望セル參戰ノ實現ヲ機トシ  
日華兩國カ戰爭完遂ノ爲完全ナル

協力ヲ爲スヘキコトヲ確約シタルモノニシテ右ハ現ニ帝國  
カ赫々タル戰果ヲ擧ケツツアル戰爭ニ對シ最後ノ勝利ノ確

信ヲ世界ニ示シ大東亞建設ノ搖キナキ基礎ヲ築キタルモノ  
ト言フヘク閣下ト共ニ同慶ニ堪ヘサルトコロナリ又協定ハ  
帝國カ中華民國ノ主權尊重ノ趣旨ニ基キ其ノ中華民國ニ於  
テ有スル租界、治外法權等ヲ移管又ハ撤廢スヘキコトヲ約  
諾セルモノナルカ

③之レ實ニ帝國ノ對華根本政策ノ一結實ニシテ之ニ依リ中華  
民國ノ地位カ飛躍的ニ高上シ堂々タル國家トシテ益々世界  
ニ發展センコトヲ期待スルモノナリ冀クハ日華兩國ハ全力  
ヲ擧ケテ戰爭完遂ニ協力シ益々兩國提携關係ヲ増進シテ大  
東亞建設ノ爲ニ有終ノ美ヲ收メンコトヲ。一言所懷ヲ述ヘ  
テ挨拶トナス(以上調印式ニ於ケル重光大使挨拶)

~~~~~

110 昭和18年1月9日 在中国重光大使より
谷外務大臣宛(電報)

日華共同宣言等の調印後における汪兆銘挨拶

南京 1月9日午後

本省 1月9日後着

K第一七號(至急)

汪院長ノ挨拶要旨(調印終了後大禮堂ニ於テ發表)

大東亞戰爭開始ニ當リ中華民國政府ハ直ニ聲明ヲ發表シテ友邦日本ト同甘共苦スルニ決シ爾來一年有餘此ノ趣旨ニ基キ努力シテ渝ル所ナカリシ處今日更ニ一步ヲ進メテ大東亞戰爭ニ參加シ友邦日本ニ協力シテ共同ノ敵タル英米ノ侵略主義ヲ打倒シ得ルニ至レリ是ニ中華民國政府ニ於テ東亞ノ一分子タルノ責任ヲ盡シ得ルモノニシテ素ヨリ欣喜發奮スル處而シテ日本カ進ンテ提携シ我國府ノ理想タル大亞細亞主義ヲシテ實現シ得ルニ至ラシメタルハ衷心感謝ニ堪エサル所ナリ

友邦日本ハ大東亞戰爭開始以來國力ヲ發揮シテ大東亞ノ爲無限ノ光榮ヲ與ヘタルカ中華民國政府ニ對シテハ善隣友好ノ趣旨ニ基キテ極力援助ニ努メ今日更ニ中華民國政府強化ノ意味ヲ以テ

日華基本關係條約ニ基キ租界ノ返還ト治外法權ノ撤廢トヲ實行シ以テ中華民國ノ主權ヲ回復セシメタリ如斯深厚ナル友誼ハ中華民國政府及國民ノ永久ニ忘レ得サル所ニシテ中華民國政府及國民ハ一層奮勵シ同甘共苦同生共死友邦日本ニ協力シテ以テ大東亞戰爭ノ完遂ヲ期セントス

重光大使閣下著任以來大東亞ノ大局竝ニ日華兩國國交ノ爲

最善ノ努力ヲ盡サレ本日茲ニ予カ大使閣下ト東亞ニ於テ歴史的且劃期的意義ヲ有スル日華共同宣言竝ニ協定ニ署名調印スルヲ得タルハ洵ニ無上ノ欣榮トスル所ニシテ謹ンテ衷心兩國關係ノ増進ト大東亞戰爭ノ勝利ヲ祝福スルモノナリ



111

昭和18年1月9日

在中國重光大使より
青木大東亞大臣宛(電報)

南京国民政府内での対米英参戦案及び日中間

諸取極案の可決の様様につき汪兆銘より内報

南京 1月9日後発

本省 1月10日前着

K第一八號(至急)

本日調印式ノ際汪主席ハ本使ニ對シ國民政府ニ於テハ今朝九時緊急中央政治委員會ヲ開催特ニ行政院及軍事委員會關係各長官竝ニ地方代表ノ出席ヲモ求メタルカ華北政務委員會王揖唐委員長廣東省主席等モ幸ニ間ニ合ヒ政府カ參戰ヲ決意スルニ至レル理由及經緯竝ニ東京ニ於ケル日本政府側トノ折衝特ニ日華共同宣言案及租界治外法權等ニ關スル協定案ノ成立ニ關聯スル日本側ノ態度ヲ詳細説明セル處全員

一致ヲ以テ參戰案及日華間諸取極案ヲ可決シ日本側ノ好意
的態度ニ付テハ全員ニ大ナル感動ヲ與ヘ何レモ感謝ノ意ヲ
表シタリ

右特ニ内報スト述ヘタリ

尙汪主席ハ全般ノ施政等ニ關シ國民政府ハ大ナル責任ヲ負
フコトトナレル次第ナルニ付テハ一層努力シテ日本側ノ好
意ニ酬ユル覺悟ナリト語レリ

北大、上大へ轉電セリ

112 昭和18年1月11日

在中國重光大使より
青木大東亜大臣宛(電報)

対米英參戰初日の南京国民政府内外の反応に

関する情報

別電 昭和十八年一月十日發在中國重光大使より青

木大東亜大臣宛第四八号

南京国民政府參戰に關する汪兆銘演說

南京 1月11日前發

本省 1月11日後着

第四七號

「情」

九日國府參戰第一日ノ南京ニ於ケル主要行事及其ノ狀況左
ノ通

一、午前九時行政院ニ臨時中央政治委員會ヲ招集シ汪主席始
メ當然委員溫宗堯以下招聘委員王揖唐以下政務委員長外
指定委員陳璧君以下二十四名出席行政院關係長官軍事關
係長官各省市長特別市長等二十一名列席ノ下ニ宣戰布告、
共同宣言及協定案件ヲ討議滿場一致之ヲ可決十時終了セ
リ

二、林宣傳部長ハ直ニ立法院會議室ニ於テ對英米宣戰布告ヲ
發表シ以テ日華共同宣言租界還附及治外法權撤廢ニ關ス
ル協定ノ調印行ハレタルカ一方國民精神總動員首都民衆
大會午後三時開催セラレ汪主席以下國府要人出席汪主席
ハ約二〇分間ニ互リ別電第四八號ノ通ノ參戰最初ノ歷史
の一大獅子吼ヲ行ヒ全堂ヲ熱狂セシメ次テ民衆大會ノ宣
誓口號標語ノ提唱、參戰下東亞保衛歌等ヲ合唱シ未曾有
ノ感激盛況ヲ呈セリ

三、宣戰布告發表セラルルヤ街頭ニハ擁參戰打倒英米等ノ橫
幕掲載セラレ三漢字紙ハ號外ヲ發行シ市面ハ異常ニ興奮

セリ右ニ伴ヒ流言蜚語等起リ殊ニ金融方面ニ於テ市場操作ニ之ヲ利用セントスル者アルヲ慮リ首都警備司令部ハ豫メ之ニ備フル爲各自生業ニ安シ国力ノ増進ヲ圖ルヘク萬一不逞ノ徒アリ安寧秩序ヲ攪亂シ謠言ヲ放チテ民衆ヲ惑ハシ又ハ「スパイ」行爲ヲ爲ス者ハ嚴罰ニ處スル旨九日附布告ヲ發シ嚴戒ニ努メ居ル外周財政部長ヨリモ貯金引出ノ制限乃至資金凍結ヲ行フカ如キコトナク政府ハ金融ノ安定財政經濟施策ノ確立ニハ既ニ周到ナル準備ヲ有スルヲ以テ謠言ニ惑ハサルコト勿レトノ趣旨ノ談話ヲ九日夜發表セリ

本電及往電第四八號在支各總領事及公使及滿大ヘ轉電セリ

(別電)

南京 1月10日後発
本省 1月10日後着

第四八號

國府ハ宣戰ヲ布告シ日本ト共ニ英米ノ侵略主義ヲ打倒スルコトニ決セリ百年來中國ニ幾多ノ内戰外戰アリタルモ今次ノ戰爭コソ自主獨立ノ爲ノ戰爭ナリ英米ノ侵略ニ依ル半植

民地的地位モ此ノ一戰ニ依リ克ク脱シ得ヘシ東亞民族ハ英米ノ包圍侵略、脅迫、離間麻醉、引誘等各種ノ手段ニ依リ阿弗利加、濠洲、西阿ト同一ノ運命ニ立至レルカ日本カ獨力之ヲ支ヘルニアラサレハ東亞ハ夙ニ東亞人ノ東亞ニアラサリシナリ日本ハ大東亞戰爭開始以來連戰連勝其ノ完遂ニ邁進シツツアリ又其ノ目的カ大東亞共榮圈ノ實現ニアル旨屢々聲明シ之カ實踐ノ爲中國ニ對シ種々ノ援助ヲ惜マサリシカ今日中國參戰ノ日ニ當リ日華基本條約ニ基キテ租界ノ返還治外法權撤廢ヲ斷行セリ

中國ノ半植民地的地位ハ南京條約及北京條約ニ基ク租界設置竝ニ治外法權規定ヲ以テ最大内容トセリ中國ハ數十年來全力ヲ以テ之ヲ解除ヲ圖リ來レルモ終始英米ノ壓迫ニ依リ果シ得ス國父ハ其ノ實現ヲ切望シ同志ノ奮闘繼續ヲ委囑セル次第ナルカ今日其ノ實現ヲ見タルハ國父在天ノ靈ヲ慰メ四億五千萬同胞多年ノ渴望ヲ達成セルモノト言フヘシ
今後中國ハ獨立自主ノ立場ヲ以テ東亞諸隣邦及世界友邦ト同心協力東亞ノ共榮ト世界和平ニ貢獻シ得ルモノニシテ吾人ハ過去ヲ回想シ將來ヲ望ミ轉々感奮スルヲ禁シ得ス
中國ノ參戰ハ大東亞戰爭開始以來自發的ニ決意セルトコロ

ニシテ東亞ノ一分子タルモノノ義務及權利ナリト言フヘシ
然レトモ東亞ノ反逆者タル重慶及英米侵略主義者ハ其ノ實
現ヲ怖レ種々謠言ヲ爲シテ之ヲ妨害セントシタルモ今日中
國ハ自發的ニ參戰ノ決意ヲ事實ヲ以テ證明シ東亞保衛戰線
ニ參加スルニ至レリ日本ハ開戰ノ際中國ニ對シ其ノ意義ヲ
宣明シ一億一心ノ精神ヲ以テ共存共榮ノ完成ニ協力センコ
トヲ希望セル以外何等參戰ヲ求ムルカ如キ意思表示ハナカ
リキ而シテ中國今回ノ共同的敵愾心ヲ知ルヤ猶豫スルトコ
ロナク多年ノ希望タル不平等條約ヲ排除シ中國同胞ヲシテ
中華復興ト東亞保衛ノ同一事ナルコトヲ知ラシメタリ斯ル
精神の結合ハ英米及重慶ノ種々ナル謠言ヲ粉碎スルト共ニ
東亞ニ於ケル同志ノ前途ニ無限ノ光明ヲ顯示スルモノト言
フヘシ

同胞各位ハ我等ハ今日ヨリ東亞保衛戰爭ニ參入セリ各位ハ
各東亞保衛ノ闘士トナリ百年來英米カ加へ來レル桎梏ヲ排
除シ東亞民族ノ共存共榮ヲ達成セサルヘカラス國父在天ノ
靈ハ我ニ在リ友邦日本將士及國民ノ最前線ニ於ケル勇戰奮
闘ニ恥サルノ覺悟ト共生共死ノ精神ヲ以テ目的の完遂ニ猛進
セサルヘカラス

113

昭和18年1月11日

在張家口岩崎(民男)公使より
青木大東亞大臣宛(電報)

南京国民政府參戰後における蒙古聯合自治政

府への指導振りについて

張家口 1月11日後発

本省 1月12日前着

第一九號(至急)

本官發南大宛電報

第 號

貴電合第一五號ノ件了承ス

一 昨九日當館高等官並各公館長ヲ集メ南京及東京ニ於テ指
示セラレタル事項ノ精神ヲ徹底セシメ今後ノ新事態ニ即應
スル處置ニ遺憾ナカラシムルト共ニ軍ト密接ニ連絡シ德主
席以下蒙古政府ヲ指導シアリ特ニ蒙古ノ特殊性ヲ表面的ニ
高調スルコトニヨリ國民政府トノ間ニ無用ノ摩擦、感情的
相剋ヲ生セシムルコトナク更新支那ノ構成分子トシテ戰爭
完遂協心戮力セシムルコトニハ最大ノ注意ヲ拂ヒ此ノ點九
日軍司令官ヨリモ本使立會ノ下ニ德主席並政府總務廳長ニ
篤ト申渡サレ兩名モ納得セリ

尙民心把握ニ就テハ蒙疆日本人興亞協力會ヲ動員シ將來大
イニ努力セシムルト共ニ戰爭必需物資ノ積極的増産取得ニ
就テハ今後一層ノ努力ヲ爲スヘキニ付御安心ヲ請フ
大臣ニ轉電セリ



114

昭和18年1月13日

在中国重光大使より
青木大東亜大臣宛(電報)

租界還付及び治外法權撤廢協定に基づく委員

会設置に關し意見具申

南京 1月13日後發
本省 1月13日夜着

K 第二二號

一 今回ノ租界還附及治外法權撤廢ノ協定ニ對シ支那側ニ於
テハ猶疑念ノ目ヲ以テ見ルモノモアル模様ナルカ對外的
宣傳價值等諸般ノ事情ニ鑑ミテ速ニ委員ヲ任命シ之カ實
施ヲ計ルコト然ルヘク當方ノ思付左ノ通り

(一) 專管租界ニ付テハ本省一名南京大使館一名及各現地ノ
責任者(總領事領事)ヲ委員トシテ任命ノ上南京ニ於テ
支那側委員トノ折衝ニ當ラシメ尙必要ニ應シ現地ニ出

張セシムル仕組トシ租界返還ノ順序ハ比較的容易ナル
蘇州、杭州ヨリ着手シテ著々進捗セシムルコトト致度
シ

(二) 共同租界ニ付テハ周佛海ハ本使ニ對シ思付トシテ上海
ノ如キハ共同委員會ノ如キモノヲ設ケ事項別ニ容易ナ
ルモノヨリ漸進的ニ返還シテ載クコト例ヘハ課稅權問
題等ヨリ解決スルコト實際的ニアラスヤト考ヘ居ル旨
内話スル所アリ或ハ一案カトモ思考セラル

(三) 治外法權撤廢ニ付テハ本省一、二名南京大使館一名ヲ
委員トシテ任命シ必要アル場合専門家ヲ臨時委員若ク
ハ代理委員トシテ隨時之ニ參加セシムルカ如クシ委員
會ニ於ケル大使館委員ハ專ラ支那側トノ折衝ニ當ラシ
ムルコトト致度ク尙本省委員ハ治外法權問題ニ經驗ア
ル者ヲ特ニ專任セラルル様致度ク鹽崎前公使及目下軍
顧問トシテ上海ニ駐在シ居ル守屋前公使等ノ如キハ御
考慮ニ容レテ可然キ人物ナリト思考セラル以上ハ既ニ
御考慮ニ至リ居ルコトトハ存スルモ爲念申進ス



115 昭和18年1月13日 在中国重光大使より
青木大東亜大臣宛(電報)

租界還付及び治外法権撤廃協定に基づく委員
会設置につき汪兆銘と会談について

南京 1月13日後発
本省 1月13日夜着

K第二四號

十二日汪主席ト會談ノ際主席ハ今回國民政府ニ於テハ租界
竝ニ治外法権問題研究ノ爲租界ニ關シテハ楮民誼ヲ主任ト
シテ治外法権ニ關シテハ李聖五ヲ主任トシテ夫々委員會ヲ
作ルコトトセルカ右ハ政府部内ノ研究機關トシテ上海方面
ヨリモ有力ナル専門家學者等ヲ網羅シ度キ考ニテ目下人選
中ナリ日支間ノ取極ニ規定セル委員及専門委員ハ何レ日本
側ノ任命振ヲ承リタル上任命スルコトト致度シト述ヘタル
ニ付本使ヨリ大體往電K第二二號(一)及(二)ノ如キ腹案ヲ披露
シ目下中央ト相談中ニ付決定次第打合スヘシト答ヘ置キタ
リ
北大、上大へ轉電セリ

116 昭和18年1月14日 在滿州国梅津大使より
青木大東亜大臣宛(電報)

南京國民政府參戰及び「對支新政策」に關す
る滿系要人の意見について

南京 1月14日後発
本省 1月14日夜着

第一四號

國民政府ノ對米英宣戰布告竝ニ帝國ノ治法撤廢及租界返還
ニ關シ當館ニ於テ諜知セル滿系要人ノ意見概ネ次キノ如シ
一、國民政府ノ宣戰布告ニ依リテ日本ノ戦力カ格段ニ増強セ
ラルヘシトハ期待シ得ス從テ戰爭遂行上之カ直接ニ寄與
スル所ハ少カルヘシ
二、治法撤廢竝ニ租界返還ハ戦後ニ於ケル支那ノ主權確立ノ
最大條件ヲ獲得セルモノニシテ汪政權ノ外交的大成功ナ
リ之ニ依リ國民ノ汪政權ニ對スル信頼ヲ増加シ汪政權ノ
政治力ヲ著シク強化シ得ヘシ
三、南京、重慶ノ關係ハ今次措置ニ依リテ決定的ニ決裂セリ
從テ日本ト重慶トノ和平ノ機ハ世界戰爭終了迄絶無ナリ
四、他面日本ハ對重慶軍事行動ヲ強化スヘク之カ爲ニハ在滿

兵力ノ南方轉用ノ餘儀ナキニ至ルヘク從テ日本ハ蘇聯ニ對スル和平政策ヲ維持スヘキヲ以テ滿洲國カ戰禍ヲ蒙ムルカ如キ情勢ハ著ク緩和セラレタリト看做シ居ルモノアリ

吾尙一部滿側要人中ニ支那ノ主權獨立ニ伴ヒ滿洲國ノ對日關係ニモ修正ヲ加フル時期到來スヘシト洩スモノモアリ
テ動向注意ヲ要ス

外務大臣へ轉報アリタシ

南京北京へ轉電セリ



117 昭和18年1月19日

青木大東亞大臣より
在中国重光大使宛(電報)

南京国民政府参戦後における敵国財産の処理

方針につき同政府側の意向確認方訓令

本省 1月19日後4時発

第六三號

貴電K第二六號及上總發南大宛電報第五號ニ關シ

國民政府参戦セル結果在支敵國人處理ハ事ノ性質上支那側所管ナリト認めラルル處本件ノ取扱ハ機微ナル點アリテ簡

單ニ支那側ノミノ施策ニ一任シ難キモノアリ且既ニ我方ニ於テハ諸般ノ準備ヲ整ヘタル關係上實質的ニハ我方ニ於テ豫定計畫通り實施スルコトスルモ支那側カ希望スルニ於テハ集團生活所ノ運營カ軌道ニ乘リタル時機ヲ見計ヒ(一年後ノ見込)之ヲ移管スルモ可ナルヘシトノ所存ニシテ之カ形式トシテハ左ノ二方法考ヘ得ルニ付國民政府ニ於テハ何レヲ希望スルヤ御確メノ上貴見ト共ニ回電アリ度
(一)差當リ支那側ノ委任ヲ受ケ日本側カ實施スル形ヲトルモ將來支那側ニ移管シ我方之ニ協力ス

(二)頭初^(當)ヨリ表面上ハ支那側ノ所管トシ我方之ニ協力スル形

ヲトルモ差當リ支那側ハ南京ニ敵國人處理ニ關スル一機關ヲ設クル等ノ程度ニ止メ我方ハ本件實施ノ爲ニ充當シアル人員及經費ヲ以テ之ヲ援助シ適當ナル時期ニ支那側人員及經費ヲ以テ肩替リス(陸海外務ト打合濟)

上大北大ニ轉電セリ(公台第五八號)

上大ヨリ上總へ轉報アリ度



118 昭和18年1月19日 在中国重光大使より
青木大東亜大臣宛(電報)

南京国民政府参戦による対重慶和平工作への

影響に関する周仏海談話について

南京 1月19日後発
本省 1月19日夜着

第二二號(極秘)

周佛海ハ十八日清水ニ對シ國民政府參戰後日本側ノ一部ニ於テハ之ヲ以テ全面和平ノ實現絶望トナレリトナスモノアリ甚タシキニ至リテハ右ハ國民政府カ政權維持ノ爲態ト全面和平ノ門ヲ閉シタルモノナリトカ或ハ重慶ト狎合ノ上今回ノ戰爭ニ樞軸側反樞軸側孰レカ勝ツモ支那カ浮フ様仕組ミタル芝居ナルヘシ等外國權益回收ノ問題ニ引掛ケ取沙汰シ居ル處スル臆測ノ一笑ニ付スヘキハ勿論ナルカ唯全面和平ノ困難ハ曩ニ重慶側カ英米側ニ参加セルトキニ初マリ國民政府ノ參戰カ特ニ之ヲ絶望ニ陥レタリトナスハ當ラズ自分等ハ蔣介石相手ノ話合ヲナスト言フカ如キハ日本政府當局ノ方針モアリ且實際上今日不可能ナルカ個々ノ切崩シハ今後益々效果ヲ擧クヘキヲ信スト述ヘ居タリ

119 昭和18年1月23日 在張家口岩崎公使より
青木大東亜大臣宛(電報)

蒙疆地区における南京国民政府参戦及び「對

支新政策」への反響について

張家口 1月23日後発
本省 1月23日夜着

第四五號

往電第三二號ニ關シ其ノ後ノ諸情報ヲ綜合スルニ國府參戰ハ蒙疆地區ヘモ比較的好影響ヲ與ヘタルモノノ如ク、華系有識者層ハ一般ニ國府參戰ヲ以テ責任ノ分擔ナリトシテ贊意ヲ表スルト共ニ租界ノ返還、治外法權撤廢ニ關シ我國ノ襟度及誠意ニ對シ感謝ト敬意ヲ表セルモ一部ニハ之ヲ以テ日本戦力ノ低下南方要員ノ不足等ニ關聯セシメ惡意的ナル觀測ヲ吐露スル向モアリ、蒙系青年層ニアリテハ德主席ノ教書(往電第三三號)ノ意ヲ體シ日本及國府ト同甘共苦シ大東亞戰爭完遂ニ邁進セントスルノ機運強キモ蒙疆ニ於ケル治外法權撤廢ヲ疑問視スル向アリ且ツ上層階級中ニハ治外法權撤廢ノミニテ

ハ飽足ラストナシ暗ニ完全ナル自治ヲ仄カスモアリ

三、日系官吏ノ最上層部ニハ治法撤廢ハ時期尙早ヲ唱ヘアル

モノアルモ大部分ノモノハ治法撤廢ノ聲明ニ雀躍シ從來

領警竝ニ日本商社ヨリ受ケタル鬱憤ヲ晴ラサントスル非

國民的言動ヲナスモノ多ク反之日本商社ハ治廢後ニ於ケ

ル壓迫竝ニ商權ノ委靡沈滞ヲ憂ヒ一部領警國民學校教員

及民團關係者中ニハ自己一身上ノ不安ヨリ動搖ヲ來シ祕

カニ北支方面ニ就職口ヲ探シ居レル向モ見受ケラル

四、半島人(約二千五百)中ニハ南京政府ノ僞裝親日ヲ云々シ

同政府ノ宣戰布告ノ如キ大シタ效果モナカルヘク治外法

權撤廢ニヨリ憂目ヲ見ルハ半島人ナリト不滿ノ言辭ヲ弄

スルモノ多シ

五、以上各民族各階層ノ立場ヨリ各様ノ見解アルモ左シテ顯

著ナルモノ認メラレス米英現地民衆運動ハ依然各地ニ展

開中ナリ

南大、北大、上大へ轉電セリ



120

昭和18年1月27日

在北京北沢(直字)総領事より
青木大東亜大臣宛(電報)

北京における治外法權撤廢の一般邦人及び業

者に与えた影響につき報告

北京 1月27日後発

本省 1月28日前着

第三五號

法權撤廢聲明ノ當地一般邦人及業者ニ與ヘタル影響概要左
ノ通

一、今次聲明ハ一般在留邦人ニトリ極メテ突然ニシテ其ノ與
フル衝撃鮮カラサルヘキヲ慮リ九日發表ト同時ニ邦人有
識者約六〇名ヲ當館ニ招致シ内密ニ帝國カ今回ノ措置ニ
出タル經緯竝ニ其ノ眞意ヲ説キ聞カセタル上一般邦人ノ
啓發指導ニ協力方要望シ置キタルカ一般邦人ハ大體政府
今回ノ措置ヲ諒解シ概シテ平靜ナリ唯治外法權問題ハ在
留邦人ノ生活活動ニ至大ノ關係アルニ鑑ミ課稅權ノ移讓
ハ已ムヲ得ストスルモ警察權乃至裁判權等法權ノ方面的
撤廢ニ付テハ在留邦人ノ地位ニ重大ナル影響アリ就中邦
人子弟ノ教育等ハ當然日本側ニ留保セラルヘキモノナリ

トシテ重大ナル關心ヲ示シ居ルヲ以テ當方トシテハ政府ニ於テモ在留邦人ノ利益保護ニ付テハ充分考慮シ居ルヲ以テ政府ヲ信賴スヘシトノ趣旨ヲ以テ納得シツツアル實情ナリ

二、邦人業界ニ於テハ從來日本側指導ニ基キ實施シ來レル經濟諸施策ハ今後支那側ニ依リ所謂支那式ノモノニ置き代ヘラルヘシトシテ華北經濟ノ前途ノ見透ニ關シ悲觀スル向モアル處

②之ニ對シテハ今後對支新政策ノ經緯ヲ説明スルト共ニ支那ニ於ケル邦人ノ恒久的發展ヲ圖ル爲ニハ結局日支提携ノ基礎ノ上ニ進ムコトヲ要シ從來ノ如キ日本業者ノ獨占的進出ハ何時カハ是正セラルヘキ運命ニアリタルモノナリトノ趣旨ヲ以テ指導シ居ル次第ナルカ一方今後ニ於テハ支那側ト同一地位ニ於テ存分ノ活動ヲ爲シ得ルヲ以テ寧ろ眞ノ意味ニ於ケル邦人業者ノ進展ハ今後ニアリト見積極的ニ支那側業者ニ働キ掛クル要アリト爲シ之カ對策ニ關シ積極的研究ヲ進メツツアル者モアル狀況ナリ

三、又日支業界共今回ノ政策轉換ノ結果幣制ノ如キモ統一セラルルニ非サヤト臆測スル者多キ處之ニ對シテハ幣制統

一ノ如キハ全然考慮セラレ居ラストノ趣旨ヲ以テ指導シ居レリ

北大へ轉報シ南大、上海、張大、天津、青島、濟南、石門、太原へ轉電セリ

121 昭和18年1月27日 在中國重光大使より
青木大東亞大臣宛(電報)

「對支新政策」の反響をふまえ对中国經濟政策の見直し方意見具申

南京 1月27日後発
本省 1月27日夜着

第一六三號
往電第七〇號ニ關シ

一當國政府及知識階級方面ニ於テハ我カ對支方針ニ對シテ益々理解ヲ増シ支那側モ之ニ對應努力セサルヘカラストテ一般ニ明朗ナル空氣醸成セラレツツアルハ事實ニシテ上海方面支那人有力者モ國府ニ協力セントスル傾向ニアルハ最近同地ニ於ケル國民外交促進會ノ發會及全國經濟委員會ニ上海有力者ノ參加等ニ徴スルモ明カナリ

然レ共尙日本側ノ態度ニ付テハ今後實際上如何ナル改善ノ實ヲ示サルヘキカ特ニ經濟上ノ施策ニ對シテハ切實ナル希望ト危惧トヲ以テ注視シ居ル狀況ナリ

二、租界返還及治外法權撤廢ノ取極ニ對スル最初ノ好反響ハ其ノ後重慶ト英米側トノ廣範且徹底的(徹)ノ不平等條約廢止取極ノ發表ト之ニ伴フ蔣介石始メ重慶側及英米側ノ宣傳及説明ニ依リテ漸次減殺セラレントスル傾キアリ唯日本ノ措置ハ英米ノ空手形ト異リ現實的措置ナリト爲シ居ル立場ニアルコト我方ノ強味ナルカ若シ日本ノ處置カ今後取極實施及經濟施策ハ勿論其ノ他各般ノ事項(我方ノ既ニ發表セル基本條約ノ改訂等)ニ向ヒ着々進行スルニアラサレハ折角ノ效果モ水泡ニ歸スル虞アリ

三、今回華府ニ於ケル英米蘇支ノ四國倍議(會)ニハ蔣介石自ら出席シ居ル模様ニテモアリ聯合國側本年度ノ總反攻ニ關聯シテ重慶側ハ宣傳ニ之レ努ムヘク支那一般民衆ニ對スル反響ハ相當大ナリト認メサルヲ得ス之ニ對シテハ前述ノ如ク我方ノ確乎タル方針ヲ遲滯ナク實現ニ進メ行キ啓發運動ト相俟テ民衆ヲ率キルト共ニ我カ政策ヲ裏附ケル爲經濟上ノ改善ニ至急着手スルコト最モ緊要ト思ハル之迄

ノ如キ不統一ニシテ一般社會情勢ヲ考慮ニ入レサル經濟施策ニテハ重慶側ノ統制アル施策ニ對シ(重慶側ニ於テ最近經濟施策ノ遂行ニ一層意ヲ用ヒ居ルコトハ御承知ノ通り)到底對抗シ得サルコト明カニシテ特ニ食糧問題ハ今ニモ火ノ點クカ如キ問題ナリ一般民衆ハ「ラヂオ」關係等ノ政治論ニハ最早ヤ耳ヲ傾ケス毎日食糧問題ヲ話題トシ居リ何レモ日本側カ何トカシテ呉レルモノトシテ之ニ頼リヨ掛ケ居ル有様ニテ我方ニテモ速ニ具體的緩和策ヲ講スルノ要アリ今日ノ上海ノ如キ配給(毎日一人米一出スル虞アリト思ハル

122

昭和18年1月30日

在中国重光大使より

青木大東亞大臣宛(電報)

「對支新政策」の着実なる展開方意見具申

付記 昭和十八年一月付在中國重光大使より青木大

東亞相、谷外相宛書簡

「對支新政策」の成果及び日華基本條約を同盟

條約とする必要性について

南京 1月30日後発
本省 1月30日夜着

K第五五號

① 今回「カサブランカ」會談ハ英米側宣傳ニモ拘ラス結局

英米兩國代表者間ニ北阿及歐洲方面ニ於ケル海上ノ問題ノ中心トシテ論議シタルニ過キサルモノノ如ク蘇聯邦及重慶側ハ遂ニ參加ヲ見スシテ終レルカ諸般ノ情報ヲ綜合スルニ重慶側ト英米トノ關係ハ必スシモ表面宣傳ノ如キモノニアラス特ニ今回國民政府參戰ニ伴ヒ斷行セル日本側ノ措置ハ重慶側ニ相當深刻ナル印象ヲ與ヘ一部ニハ日支ノ關係ヲ更メテ考慮セサルヘカラストスル反省ノ空氣モ漸次醞釀セラレツツアリト推セラルル節アリ我方トシテハ此ノ機會ニ既定ノ方針ニ基キ速ニ租界返還竝ニ

② 治外法權撤廢ニ關スル委員ヲ任命シ着々之カ實現ヲ圖ルト共ニ佛國側ヲシテ機ヲ逸セス我方ニ同調セシムル態度ニ出シメ過日上海ニ於テ「コスム」大使ヨリ披露アリタルカ如ク(上海發外務大臣宛往電第一號)先ツ支那一般ニ對シテ租界及治外法權ニ關スル宣言ヲ發セシメ事實上國民政府トノ間ニ所要ノ交渉ヲ進メシムル等速ニ適當ノ手段ヲ講シ益々

新局面ノ展開ニ邁進スルニ於テハ全般のニ豫想外ノ好結果ヲ擧ケ得ラルモノト思料セラル右御參考迄

(付記)

(欄外記入) 其ノ後益々御明慮邦家ノ爲慶賀ニ不堪新方針ノ轉廻ハ老兄等ノ御盡力ト錦旗ヲ捧持スル總理ノ大決心ト推進トニヨリ漸次效果ヲ結ヒツツアリ出先キノ吾人ニトツテハ只々感激粉骨碎心ノ有様ニ候尙大小ノ問題ニ付テ中央及出先共一層ノ配意ヲ要スル點ハ多々アルモ一般ニ良好ノ成績ト認メラレルニ付御安心願上度候

左ニ一、二御參考迄申上ゲ

一、參戰ニ伴フ租界等ノ日本側ノ措置ハ豫期以上ノ反響ニテ此點ハ日本側トシテハ想像以上ノ大成功ト斷シテ可ナリ右ハ支那上下ニ對スル反響(日本内地ノ事ハ知ラス)及世界ノ輿論ヲ見テノ結論ナリ今後此ノ大政策ヲ直進シテ一步モ退カサルニ於テハ我カ對支政策ハ必ラス成功スヘシ此點ハ確定的ノ見透シナリ

(國民政府側モ猶々心機一新ノ觀アリ)

二、從ツテ取極實施等ニ付テハ機ヲ逸セス委員ノ任命等實行

願度シ此點ハ青木大臣ニモ御願スル積リ

三、獨伊ハ勿論佛モ追隨スヘシ當地ノ連絡狀況ハ電報ノ通り「スターマー」ハ萬事吞ミ込ミ居ルニ付御承知被下度佛國ハ現地ニ於テ幾分ノ壓力ヲ感スルヤモ知レス兔モ角直交渉力第一ナリ、獨逸ニ頼ミ過キルモ考ヘ物ナリ何レニシテモ東亞ノ事ハ日本テ押シ切ル覺悟ヲ要ス

四、勳章捧呈ノ事ハ御受ケセラレテ可然ト思フ其ノ上ハ捧呈使節ヲ出ス様取扱ヒ度シ兔ニ角往復ハ宜敷キ事ナリ

五、次キハ最重要且機密ノ事ナリ即チ基本條約改訂ノ事ナリ支那ハ參戰シ茲ニ戰友トナリ東亞ニ於テ今一列ニ竝ンデ戰爭ニ邁進スル譯ナレバ此際ハ寧ロ基本條約ヲ廢止シ簡單ナル同盟條約ニ置キ換ヘルコトニ配意願度シ同盟條約ハ大体日滿支三國及今回ノ日支共同宣言ノ趣旨ニ依ルコトトスベシ戰時中ハ軍事ハ協同シテヤル事トスレバ基本條約ノ利益ハ大体包含セララルベシ以上ノ事ハ屬僚ノ立案ニテハ駄目ニ付大臣自身御考ヘ被下度小生モ提案ス

六、右大体考案ノ上ニテ總理ノ南京訪問ヲ實現シ大体南京ニテ又汪主席ト主義上ノ話ヲサレル事トス(二月末又ハ三月)其ノ上ニテ小生ト主席トノ間ニテ取極メトス

六、勳章捧呈使節ヲ派シタル上ハ總理自ラ當地ヘ出馬セラレ

ルモ時機宜シカルベク支那側ニ對シ又日本側ニ對シ時機ハ總理ノ都合ニテ差支ヘナシ斯ノ如クシテ基本條約ヲ同盟條約トシテ茲ニ日支双方トモ満足ナ狀況ヲ造リ出シ戰爭遂行ニ一段ノ用心ヲ爲シ度以上ノ點總理及青木老ト老兄トノ間ニ御打合せ被下度

小生ハ之ヨリ上海ニ參リ或ハ北支ニモ行キ一段落ノ上又機ヲ見テ東京ニ連絡スベシ

青木大臣 閣下
谷 大臣

以上
重光 生

(欄外記入)

支那問題ニ關スル重光大使來翰寫 一八、一

123 昭和18年2月5日

在張家口岩崎公使より
青木大東亞大臣宛(電報)

「對支新政策」に基づく對蒙施策要綱現地案
について

張家口 2月5日後発
本省 2月6日前着

第八七號(大至急)

貴電合第一五五號ニ關シ

一、對支新方針ニ基ク對蒙施策要綱案大要左ノ如シ

(イ)蒙古政府ト國民政府トノ關係ノ調整

蒙古政府ヲシテ日華基本條約及附屬諸案ニ反セサル如ク指導シ國民政府トノ間ニ摩擦相剋ナカラシメ進シテ融和的雰圍氣ノ醸成ヲ計ラシメ之カ爲特ニ日本側ニ於テ仲介斡旋シ兩者ノ感情ヲ直接衝突スルコトナカラシムル如ク努メ

(ロ)國旗ニ付テハ蒙古ニ於テハ青天白日旗ハ使用セサルモ蒙古旗ハ青天白日旗ト對立的ノ場所又ハ對立的の形成ヲ以テ使用セシメ又

(ニ)國民政府ト蒙古政府トノ聯絡ニ付テハ當分現狀ヲ維持シ聯絡交渉等ヲ必要トスル場合ハ日本側ニ於テ斡旋ス

(ロ)蒙古政府ノ政治力ノ強化

(一)治安確立

日本軍ノ作戰討伐ニ策應シテ武力支援ニ依リ政治力ノ推進擴大ヲ計ラシム

(2)蒙古政府ヲシテ警備力ノ強化ヲ促進セシメ日本軍ヲシテ集結態勢ニ轉移シ得シムル如クス

(二)政治責任確立

(1)蒙古政府ノ自發的活動ヲ促進スルト共ニ努メテ日系官吏ヲ副任的地位ニ置キタル現地人官吏ノ責任ヲ明確ナラシムル方策擴充

(2)省盟特別市公署以下地方政府ノ人事ニ關シテハ蒙古政府ノ自由處置ニ任セ日本側ハ努メテ干渉セス

(3)省盟特別市公署以下ノ施策ニ關シ日本軍ノ指導乃至要求作戦警備ニ關スルモノヲ限定協議シ日本、蒙古政府政令ノ貫徹ヲ助成スルト共ニ施政ノ中絶分斷ヲ戒ム

(4)特務機關ノ草原蒙古ノ盟以下ニ對シ政務ノ内面指導ハ之ヲ中止ス

(5)治外法權撤廢(研究準備中)

(6)敵産處理(同右)

(7)日系官吏ノ人事ニ就テハ少數精銳主義ノ原則ヲ堅持

124

シ止ムヲ得サル技術者ヲ増加スル外現狀ヨリ増加セ
ス

(イ) 經濟施策ノ改善

(1) 現地經濟力ヲ活用シ特ニ現地人ヲシテ積極的ニ活動
セシムル如ク施策シ

(2) 日本物資ノ收買取得ハ適正價格ニ依リ且努メテ現地
人及其ノ組織ヲ活用ス

(3) 一般正業及一般物資交易ニ日本側ノ獨占的傾向ヲ抑
制シ蒙古ト華北間ノ經濟的緊密化

ニ、尙本件ニ關シテハ軍ト協議濟ニシテ近ク總務部長上京
説明セシムル豫定



昭和18年2月5日 在中國重光大使より
青木大東亞大臣宛(電報)

「對支新政策」に基づく具體策實施要領現地

案について

別 電 昭和十八年二月五日發在中國重光大使より青

木大東亞大臣宛第二一六号

「對支處理根本方針具體策實施要領腹案」

南京 2月5日後發
本省 2月5日夜着

第二一五號(極秘、至急)

貴電合第一五五號ニ關シ

不取敢別電第二一六號ノ通報告申進ス追テ第一期分ハ夫々
處理濟ニシテ第二期以降ノ分ハ已ニ提出濟ノモノノ外各項
具體案作成次第逐次聯絡ス

(別 電)

南京 2月5日後發
本省 2月5日夜着

第二一六號(至急、極秘)

對支處理根本方針具體策實施要領腹案

二方針

對支處理根本方針ノ速カナル結實ヲ計ル爲概ネ七月末迄
ニ重要施策ヲ實行スル目的ヲ以テ政治的好機ヲ狙ヒ段階
的ニ之ヲ實施スルモノトス
之カ爲概ネ左ノ如ク期ヲ定ム

第一期 二月十日迄(舊止及第一回參戰記念日)

第二期 三月末日迄(國府還都記念日)

第三期(脱?) 七月末日迄

二、各期ニ於ケル施策事項

(一)第一期

一、中國國旗添附ノ黃色三角布片撤去

二、華北政務委員會トノ政治的關係調整

三、敵産移管ノ通告

四、租界ノ返還、治外法權撤廢ニ關スル專門委員ノ任命

(二)第二期

一、物資統制ノ合理的調整

二、合辦會社ノ調整(主ナル)

三、日本專管租界ノ返還

四、北京公使館區域及廈門鼓浪嶼共同租界ノ回收

五、治外法權中課稅特權ノ一部調整

六、地方政府(武漢、廈門、蘇匯地區、浙東地區)トノ關

係調整

七、對支文化施策ノ調整

八、中國ニ於ケル外國宣傳ノ取締並ニ中國通信自主權回

收

三、第三期

一、上海共同租界ノ回收

二、地方(海南島、蒙疆)トノ政治的關係調整

三、治外法權、課稅特權ノ大部調整

四、合辦會社ノ調整(殘部)ト日華一般企業ノ調整

五、支那側自強方策ニ對スル協力支援

六、國民政府滲透力沮碍ノ各種原因ノ芟除

註 實施時期ニ付テハ奧地方行政及租界ニ關シテ

ハ現地陸海軍ニ於テモ研究準備中ニシテ多少

ノ變更ヲ豫期シアリ



125

昭和18年2月5日 在上海田尻公使より
青木大東亞大臣宛(電報)

「對支新政策」に基づく上海現地具休案について

別電一 昭和十八年二月五日發在上海田尻公使より青

木大東亞大臣宛第三一六号

国策会社の調整に関する現地意見

二 昭和十八年二月五日發在上海田尻公使より青

木大東亞大臣宛第三二〇号

租界返還に關する上海現地具體案

上海 2月5日後發

本省 2月6日前着

第三一五號(大急)

貴電合第一五五號ニ關シ

一、治外法權撤廢中免稅特權放棄ニ關シテハ二月一日附上大省第一六二號拙信ヲ以テ當方ノ意見上申濟ナルモ爲念本件書類金融財務關係案ト共ニ四日飛行機ニテ上京ノ奧田參事官ニ携行セシメタリ(杉原課長へ手交ノ筈)

二、上海租界返還ニ關シテハ意見取纏中ナル處不取敢本使參考意見奧田參事官携行セリ(尙別電第三一〇號參照アリ度)

三、國策會社ノ調整ニ關シテハ別電第三一六號通り

四、物資收買機構ニ關スル當方ノ意見ニ關シテハ往電第二四六號蒐荷配給及貿易機構等ニ關スル件參照アリ度

南大、北大ニ轉電セリ

(別電一)

上海 2月5日後發
本省 2月6日前着

第三一六號(大至急)

國策會社ノ調整ヲ對支新政策ノ第一着手ト爲スコトハ面白カラス寧ろ蒐荷配給機構、物資統制等ノ分野ヨリ現實ニ新政策ヲ實施シ中支那經濟ノ復興並支那側經濟界ノ活動ヲ緒ニ將來支那側經濟界人ノ對日信用力出テ來タリタル曉ニ於テ國策會社及合辦事業ノ調整ヲ行フヲ順序トス而シテ國策會社ノ調整ハ拙速ナル形式主義ニ依ルコト無ク寧ろ根本的調整ヲ考慮シ其ノ見透シノ上ニ於テ近クノモノヨリ着手スルヲ可トス即チ日華資本構成比率ノ構成變更、華人幹部ノ登用等ノ調整ヲ一律ニ且形式的ニ實施スルコトハ寧ろ有害(六字不明)編成ノ觀點ヨリ各會社ノ特殊性(例へハ華中鑛業ノ採掘獨占權、恒產會社ノ都市建設獨占權等各會社ノ統制組織トシテノ機能ノ存續方法公共企業ニアリテハ租界ノ監督權トノ關係等)ニ付テハ改メテ檢討ヲ加へ且振興會社ノ將來ニ付テモ充分考慮ノ上立案スルヲ要ス

上大、南大ニ轉電セリ

(別電二)

上海 2月5日後発

本省 2月6日前着

第三二〇號(大至急)

一、租界行政權ノ返還ニ付テハ租界地區ニ於ケル中國行政權ノ承認ニ對シ如何ナル程度迄制限スルヤカ問題トナル處
右ハ

(イ)租界ヲ中心トスル狭小ナル地區ニ限り強キ制限付キニ

テ中國行政權ヲ容認スルカ

(ロ)市政府管下全體乃至ハ其ノ中ノ「市街首都全般」ニ巨

リ一様ニ比較的弱キ制限ヲ附セントスルカノ二案アリ
前者ハ租界ノ自治制度ヲ重視シ後者ハ内面指導ニ重點ヲ置ク考方ト見ルヲ得ヘク從テ(イ)案ハ返還ノ趣旨ニ副ハス又(ロ)案ハ特別市政府ニ對スル内面指導ヲ從來以上ニ強化スル虞アリ結局「市街地區」即チ兩租界、南市、滬西、北部越界路程度ノ地域ニ限り一行政單位區トシ之カ行政ニ關シ一面顧問ノ設置等ノ内面指導形式ヲ利用スル外支那人本位ノ市政參與(市參議會)及職責等ニ付日本モ關與スル案ヲ中心トシ市參議會ノ制限(議決權又ハ諮問應答

權ノ範圍内容)竝日本人職員ノ配置部門、地位、數等ニ付研究中ナリ

二、右ニ關聯シ特ニ留意ヲ要スルハ我カ對上海施策上租界返

還夫レ自體ノ意義ハ比較的ニ乏シク寧ロ之ヲ契機トシテ且之ニ先立チ華人有力分子ヲ上海ノ經濟復興ニ動員スルコトコソ我方ニ取り重要ニシテ之カ爲ニハ

(1)物資搬出入等ノ制限ノ合理的調整等新經濟施策ノ實行
ノ他

(2)現國民政府ト右有力華人トノ間ノ連結ヲ必要トスヘク特ニ(2)ハ現實ノ問題トシテハ相當困難ナルヘク豫想セラルル次第ニシテ返還ノ形式ヲ整ヘントスルノ餘リ兩者ノ間ニ現存スル間隙ヲ忘レ彼等ノ不安ヲ無視シ又正當ナル主張ヲ壓迫スルカ如キコトナキ様充分注意ノ要アリ寧ロ返還後ノ上海市政乃至國民政府内ニ積極的ニ是等有力華人分子ヲ動員スル點ニ留意スルコト肝要ト認ム

三、佛國租界行政ハ事實上佛國人幹部ノミヲ以テ佛國語ヲ使用シ實施セラレ居ル關係上中國側ノ引繼要求ニ際シ混亂乃至事務停滯ヲ避クル要アリ一方餘リニ引繼ノミヲ目途

トセハ佛國側ノ權益カ一時的ニモセヨ斷片的ニスルコト
トナル危險アリ速ニ適當ナル手段(工部局ノ佛租界行政
權關與等)ヲ講シ置ク必要アルヘシ
北大、南大ニ轉電セリ

126

昭和十八年二月七日 在北京塩沢(清宣)公使より
青木大東亜大臣宛(電報)

「對支新政策」に基づく華北現地具休案について

別電一 昭和十八年二月七日発在北京塩沢公使より青

木大東亜大臣宛第二七四号

「對支新政策」に基づく對華北施策要綱案

二 昭和十八年二月七日発在北京塩沢公使より青

木大東亜大臣宛第二七五号

「對支新政策」に基づく對華北施策要綱案中

「華北政務委員會ノ政治力強化」

三 昭和十八年二月七日発在北京塩沢公使より青

木大東亜大臣宛第二七六号

「對支新政策」に基づく對華北施策要綱案中

「經濟施策」

四 昭和十八年二月七日発在北京塩沢公使より青
木大東亜大臣宛第二七七号

「對支新政策」に基づく對華北施策要綱案中
「日本側關係ノ調整」

五 昭和十八年二月八日発在北京塩沢公使より青

木大東亜大臣宛第二七八号

北京公使館区域行政權還付に関する処理案

付記 昭和十八年一月十六日付、北京大使館作成

「對支處理根本方針ニ基ツク措置ニ關スル件」

北京 2月7日後発

本省 2月7日後発

第二七三號(大至急、極秘、館長符號扱)

貴電合第一五五號ニ關シ

「對支新方針ニ基ク具體的施策中天津日本專管居留地還付

北京公使館區域ノ移管、治外法權撤廢、敵産處理等諸件

ニ關シテハ中央ノ方針ニ基キ華北トシテ所要準備ヲ進ム

ル建前ニテ處理シアリ專管居留地還付及公使館區域移管

ニ關シ南京ニテ協議スルコトトナレル案別電第二七二號

及第二七八號通り

尙治外法權撤廢ニ關シテハ目下立案中

敵産ニ關シテハ既定方針通り處理ヲ進メ居レリ

二、右以外具體的施策中特ニ華北ノ特殊性若クハ特異ノ事態ノ調整整理ニ關シテハ廟議決定ノ方針ニ基キ現地ニ於テ速ニ實行スヘキモノト心得軍側ノ諸般ノ調整ト睨合セ具體的實施要領研究中ニシテ既ニ一部實施セシムルモノモアル狀況ナリ(右關係諸件ニ關シテハ實施狀況等隨時中央ニ報告致スヘキモ貴電合第一五五號末段ノ如ク更ニ中央ニ於テ立案方配意願フ迄モ無ク速ニ現地ニ於テ可能ナルモノヨリ適時實行ニ移ス方針ナリ)

三、差當リノ措置ニ關シテハ本使先般上京ノ際御諒解ヲ得置キタル一月二十一日當大使館決定「對支處理根本方針ニ基ク措置ニ關スル件」ニ依リ處理ヲ進メアリ第一期ニ於ケル施策各事項ハ概ネ二月七日ヲ期シ實施完了ノ豫定ナリ

四、華北政務委員會ノ陣容刷新ニ關シテハ一應三月末迄ト豫定シアリ新方針ニ基ク諸施策進行ト睨合セ先ツ支那側體制整備ノ要切ナルモノアリシニ依リ二月九日ヨリ着手三月末迄ニ結實スル如ク處理致度シ

其ノ一部ハ既ニ電報致シタル通りナリ

五、「對支處理根本方針ニ基ク華北施策要綱」別電第二七四

號、第二七七號ノ通り電報ス

右取扱ニ關シテハ當方今後ノ工作ヲ效果ナラシム爲特ニ御注意請フ

上大、南大ニ轉電セリ

(別電一)

北京 2月7日後発
本省 2月8日前着

第二七四號(大至急、極祕、館長符號扱)

一、對支處理根本方針ニ基ク華北施策要綱(案)ハ

第一方針

第二要領

甲、華北政務委員會ト中央政府トノ關係ノ調整

乙、華北政務委員會ノ政治力強化

丙、經濟施策

丁、日本側關係ノ調整

ニ大別セラレアリ

尙要領ノ甲ノ諸件ハ一部二月九日ニ實施シ爾餘ノ件モ概ネ三月三十日ヲ期シ實施完了ノ豫定ナリ

二、方針左ノ通り

對支處理根本方針ノ有效適切ナル具現ヲ期センカ爲華北ニ於テハ速ニ華北政務委員會ノ政治力ヲ強化シ地方施政ニ對スル政會ヲ貫徹セシムルト共ニ從來ノ特殊事態ヲ組織ニ調整整理シ國民政府ノ政治力強化ニ資ス

但シ國防上及經濟上ノ要請ニ基ク華北ノ特殊性ハ依然存續スルモノトス

尙對支處理根本方針ニ基ク具體的諸施策ハ迅速ニ之ヲ實行シ概ネ七月末迄ニ其ノ結實ヲ圖ルモノトス

三、要領ノ甲、華北政務委員會ト中央政府トノ關係調整

華北政務委員會ト中央政府トノ關係ニ關シテハ日華基本條約附屬祕密交換公文(甲)ニ基キ所要ノ調整整理ヲ行フト共ニ相互間ニ摩擦相剋ヲナカラシメ進ンテ融和的雰囲気ノ醸成ヲ圖ルモノトス之カ爲速ニ左ノ如ク措置ス(以下各項目ノ措置要領省略)

(一) 華北政務委員會各總署廳ノ組織條例ノ制定

(二) 法令ニ關スル調整

(三) 司法行政ノ調整

(四) 東亞聯盟中國總會ト新民會トノ關係調整

(五) 國旗掲揚ニ關スル制限撤廢

(六) 新國民運動促進ニ對スル協力

(七) 全國經濟委員會ニ對スル參加協力

備考 華北政務委員會ノ管轄區域ノ調整

(1) 蘇匯地區ノ實質的移管

(2) 河南ノ國民政府直接歸屬

「註」實施ノ方法竝時期ニ就キ尙研究スルコト

上大、南大ニ轉電セリ

(別電二)

北京 2月7日後発
本省 2月8日前着

第二七五號(大至急、館長符號扱)

要領ノ乙

華北政務委員會ノ政治力強化

華北政務委員會ノ陣容ヲ刷新シ新態勢ニ即應セシムルト共ニ既往ノ政治經濟諸施策竝其ノ指導方針ヲ調整シ中央政府

竝華北政務委員會ノ政治力強化政界透徹ヲ圖ルモノトス

二、治安ノ確立

華北政務委員長ノ強力指導下ニ支那側自ラ可能地域ノ治安確立ニ任スルト共ニ日本軍ノ作戰討伐ニ膺接シテ武力ノ支援ニ依リ政治力ノ推進ニ努メ速ニ其ノ擔任地域ヲ擴大ス

尙治安確立ニ關スル支那側自疆施策ニ對シテハ日本ニ於テ強力ニ之ヲ支援スル爲必要ノ措置ヲ講ス(三月末迄ニ決定スヘク軍ノ十八年度肅正建設計畫ニ膺接スル如ク支那側ノ治安維持機構ヲ整備スル爲目下研究中ナリ)

二、政治責任確立(要旨)

- (一) 政務委員長ノ統裁力ノ強化
- (二) 諮詢會議及新民會全聯等ヲ活用シ政治責任ノ所在ヲ明確ナラシメ行政實施ノ適正ヲ期ス
- (三) 地方政府人事ニ干渉セス
- (四) 地方施政ニ對スル指導乃至要求ハ作戰警備ニ關スルモノニ限定ス
- (五) 政會ノ貫徹ヲ助長シ未稍ニテ中絶分斷スルカ如キコトナカラシム

三、行政機構ノ整備

(一) 內務總署ノ組織及權能(特ニ警察權ノ回復)ノ擴充竝政務廳長ノ地位ノ強化ヲ圖ル

(二) 華北政務委員會ノ地方行政機關ニ對スル政會ヲ貫徹セシムル爲必要ノ措置ヲ講スル(一)ハ組織條例制定ニ際シ處理濟(二)ニ關シテハ日本關係ノ調整ノ外支那側ニ於テハ主トシテ委員會ニ於テ縣長ニ至ル迄地方人事ヲ確實ニ掌握スル方法ニ依ル)

四、人事ノ刷新

華北政務委員會竝管下地方行政機關人事ヲ刷新スルノ必要ニ應シ中央政府トノ人事交流ヲモ考慮ス

五、新民會ニ關スル調整

新民會ヲシテ眞ニ支那側ノ組織及運動タラシムル如ク調整スルモ華北治安ノ現況ニ鑑ミ其ノ確立ヲ見ル迄ハ工作ノ重點ヲ對共民衆工作ニ指向シ日本軍ノ作戰警備ニ膺接セシメ日系職員ハ努メテ速ニ之ヲ精選整理シ少數適確主義ニ徹シ且治安確立ニヨリ漸減撤去ス

六、天津日本租界ノ還附

七、北京公使館區域ノ移管

二 南京国民政府参戦問題と「對支新政策」の展開

ハ、治外法權ノ撤廢

六、敵産ノ處理

十、其ノ他特殊事態ノ撤廢乃至調整

十二、支那側啓發指導

(別電二)

北京 2月7日後発

本省 2月8日前着

第二七六號(大至急、極秘、館長符號扱)

要領ノ丙

經濟施策(本項ハ別ニ軍側ヨリ一應總軍ヲ通シ中央ヘ報告セル一月二十四日附要綱案ヲ更ニ以下ノ如ク修正スルコトトナレルモノナリ)

差當リ華北ニ於ケル物資ノ獲得及統制竝支那側トノ經濟協力促進ニ關シ左ノ措置ヲ講ス

一、重要物資ノ取得及配分

(1) 華北ニ於ケル緊要ナル國防物資ノ重點的且效率的取得

竝敵方物資ノ積極的獲得ヲ圖ル

尙棉花油料等ノ取得ニ關シテハ支那側ヲシテ充分協力

セシム

(2) 物動物資ノ對日滿供給、現地特定軍需物資竝開發資材及邦人ノ生活必需物資ノ取得配分ニ關シテハ既往ノ日本側統制ヲ維持シ得ル如ク措置ス

(3) 軍需物資ノ收買價格ニ關シテハ現地ノ實情ヲ考慮シ適正ナラシムルト共ニ收買ニ當リテハ支那側機構ヲ全面的ニ利用ニ努ム

二、一般物資ノ集荷及取引

(1) 物資搬出入ノ制限ハ特ニ必要アルモノヲ除キ之ヲ撤廢スルト共ニ一般物資就中現地生産物資ノ集荷及取引ニ關スル各組合等ハ支那人ヲ中心トシテ組織運営セシムルヲ本則トス

(2) 對滿洲、對蒙疆、對中南支トノ一般物資ノ交易ニ關シテモ支那側カ充分ニ活動シ得ル如ク措置ス

(3) 民生ノ維持ニ資スヘキ物資就中食糧ニ關シテハ支那側ヲシテ自ラ之カ確保ノ途ヲ講セシム

但シ現下ノ食糧事情ニ鑑ミ當分ノ間日本側ヨリモ右ニ對シ積極的ニ協力スルモノトス

三、經濟協力ノ促進

支那側ノ積極的ナル經濟活動及對日協力ヲ促進シ併セテ
華北政務委員會ノ政治力強化ニ資スル爲差當リ左ノ調整
ヲ行フ

(1)合辦會社ニ關スル調整

- (イ)支那法人タル日華合辦ノ諸會社ノ人事及出資ノ割合
ニ關シ日本側ノ獨占トナラサル如ク支那側ヲ實質的
ニ參加セシム之カ爲爾今新設セラルヘキ會社ニ關シ
テハ右ノ方針ヲ適用シ既存ノ會社ニ關シテハ右ニ基
キ逐次調整ス

(ロ)華北政務委員會ノ合辦會社ニ對スル監督權ノ貫徹ス
ル如ク措置ス

(ハ)特殊合辦會社ノ免稅特權等ヲ調整ス

(2)經濟的役職ノ開放

從來政府要人ノ兼任セル合辦會社並經濟諸團體ノ主要
役職ヲ開放ス

尙經濟的役職ハ日本側ニ於テ特ニ必要トスルモノノ外
ハ支那側ヲ以テ充當ス

(3)企業ノ開放及助成

(イ)企業ニ關シテハ日本側ニ於テ特ニ必要トスルモノノ

外支那側ニ開放シテ其ノ積極的的活動ヲ助成スルト共
ニ之ニ適應スル如ク邦人ノ不當ナル企畫進出ヲ抑制
ス

(ロ)軍管理工場及事業場ノ管理ハ速ニ之ヲ解除シ支那側
經營ニ委シ又ハ日支合辦トナス

南大、上大ニ轉電セリ

(別電四)

北京 2月7日後発
本省 2月7日夜着

第二七七號(緊急、館長符號扱)

要領ノ丁

日本側關係ノ調整

中央政府態勢ニ即應スル如ク日本側關係ノ事項ヲ調整シ支
那側ノ自主的活動ヲ促進スル如ク措置スルモノトス

、指導日本人ニ關スル調整(以下各項目ノ措置要領省略)

(1)省及特別市以下ニ於ケル日本側指導機構ノ廢止

(2)臨時政府ノ辨シタル政府顧問約定ノ廢止

(3)臨時政府ノ辨シタル日系職員ニ關スル調整

二 南京国民政府参戦問題と「對支新政策」の展開

(4)大東亞省現地機構ノ整備

三、北支開發會社及其ノ關係會社ニ關スル措置

(1)支那法人タル北支開發會社及關係會社ニ對スル監督ニ

關シテハ支那側ヲシテ積極的ニ開發促進ニ協力シ得ル

如ク指導スル方針ノ下ニ右會社ニ對スル行政的監督ハ

主トシテ支那側ヲシテ業務上ノ指導監督ハ主トシテ日

本側ニ於テ實施スルヲ本則トシ右ニ關スル所要ノ調整

ヲ行フ

(2)同會社ノ支那法人タル關係會社ニ對スル統制力ヲ確立

シ得ル如ク措置ヲ講ス

(3)同會社ヲシテ物動資金等ニ關スル經濟統制事務ヲ一部

代行セシム

(4)同會社及其ノ關係會社ニ關スル大東亞大臣ノ監督權ノ

大部ヲ大東亞省現地機構ニ委任ス

(註) 支那側ノ監督ニ關シテモ華北政務委員會ニ於テ

實質的ニ處理シ得ル如ク措置ス)

三、財政ノ指導ニ關スル調整

華北政務委員會ノ財政ノ強化ヲ圖ル爲

(イ)財政收入ノ確保ニ關シテハ日本側ニ於テモ積極的ニ之

ニ協力ス

(ロ)豫算編成ニ關シテハ日本側ハ作戰警備上支那側ヲシテ

負擔セシムヘキ經費等ノ要求ヲ爲ス外豫算編成ノ大綱

ヲ内定スルコトニ止メ細部ニ干涉セス

四、在留邦人ノ啓發指導

一般企業及一般物資ノ交易ニ關シ日本側ノ獨占的傾向ア

ル部面ヲ速ニ調整スル爲在留邦人ノ啓發竝取締ヲ行フト

共ニ轉廢業ニ關シ對策ヲ講ス

南大、上大ニ轉電セリ

(別電五)

北京 2月8日前発

本省 2月8日後着

第二七八號(大至急、極秘、館長符號扱)

公使館區域行政權還附ニ關スル處理案左ノ通り

一、日伊西佛(西佛ノ行政權回收承認ヲ前提トス)對中國ノ還

附協定ノ成立

二、實施ニ關シ協定ヲ要スル細目事項

(イ)道路溝渠橋梁下水道其ノ他各國公使館共有財産タル一

切ノ建設物ヲ無償讓渡ス

但シ中國側ハ隙地ノ利用ニ關シ各國大公使ノ意見ヲ充分尊重スルモノトス

(ロ)區域警察中國人巡捕ハ之ヲ中國側ニ移管ス

(ハ)中國側ヲシテ交通衛生施設等ノ取締ニ關シ尠クモ從前ノ程度ヲ維持セシム

(ニ)中國側ヲシテ各國大公使館所屬不動産及區域内法人、自然人ニ屬スル不動産ニ付所有權乃至承租權ヲ確認セシム

三、實施ニ關スル腹案

(イ)隙地ハ防禦權問題解決ニ至ル迄中國側ニ於テ濫ニ地上建設物ヲ設置セサルコトヲ内約セシメ都市計畫ト啗合セ將來公園運動場等ニ改修ス

(ロ)警察竝ニ道路衛生施設ノ主タル受益者タル各國大公使館竝ニ區域内居住者ノ從來負擔セル賦課金ハ各國ノ治外法權撤廢ニ至ル迄ノ措置トシテ各國大公使館ニ於テ之ヲ徵收寄附金トシテ中國側ニ交付スルカ如ク各大公使間ニ協定ヲ遂クルモノトス

南大、上大へ轉電セリ

編注 訂正報により、「中國側ヲシテ交通衛生ニ關スル施設

及風紀秩序ノ取締ニ關シ尠クモ從前ノ程度ヲ維持セシム」と修正された。

(付記)

對支處理根本方針ニ基ツク措置ニ關スル件

昭和十八年一月十六日

北京大使館

第一、施策方針

一、對支處理根本方針ノ具現ニ付テハ政治的好機ヲ狙ヒ段階的ニ之ヲ實施スルモノトス

二、第一期トシテハ先ツ支那側ニ對スル政治的效果大ニシテ然モ實行比較的容易ナルモノヲ選ヒ舊正月(二月五日)直後ノ時期ヲ中心トシテ之ヲ實施ス

三、第二期トシテハ國民政府還都及華北政務委員會成立紀念(三月三十日)ノ目途トシ華北政務委員會ノ陣容刷新ヲ主体トスル具體策ヲ實施スルモノトス

尙天津日本租界ノ返還及北京公使館區域ノ處理ハ治外

法權中課稅權問題ト共ニ成ルヘク本期ニ於テ實施ニ移シ得ル如ク措置スルモノトス

四、第三期以降ノ施策事項ハ別冊對支處理根本方針ニ基ツク華北施策要綱ニヨルモノトシ其ノ實施ノ時期ニ就テハ諸般ノ情勢ト睨ミ合セ追テ決定スルモノトス

五、對支處理根本方針ノ實行ニ當リテハ特ニ華北ニ於ケル食糧問題及價格調整問題(軍需買上價格問題ヲ含ム)ノ解決ヲ先決トスルヲ以テ此ノ點ニ關スル政府ノ配慮ヲ要望スルモノトス

第二、第一期ニ於ケル施策事項

一、軍トノ關係調整ニ伴フ措置

特務機關ノ業務調整ニ伴ヒ各地總領事館領事館ノ人員ノ充實ヲ圖ル爲不取敢ノ措置トシテ華北綜合調査研究所ヨリ約二十名ヲ無給囑託トシテ各地ニ配置ス

二、國民政府ト華北政務委員會トノ關係調整

(イ)華北政務委員會各總署廳暫行組織條例ノ制定

日高梅子平協議ノ結果ニ基ツク所謂最終案ニヨリ妥結ヲ圖ルモノトス但核轉事項中各種會社ノ設立許可及登記並鑛業ノ許可取消及登記ニ關スル事項ニ關シ

テハ國民政府ヲシテ戰時特別措置トシテ戰時中必要ト認メラルル期間之カ處理ヲ實質上華北政務委員會ニ委任スル如ク適當ナル措置ヲ講セシムルモノトス

(ロ)外債及賠償金積立金華北各海關分擔分ノ流用割合ノ決定

華北各海關關稅剩餘ニ對スル所定割合(國民政府及華北政務委員會各四割五分蒙古聯合自治政府一割)ヲ適用スルモノトス

(ハ)華北ニ於ケル國旗掲揚ニ關スル制限ノ解除

(ニ)新民會名譽會長ニ汪主席ヲ推戴ス

(ホ)全國經濟委員會及新國民運動促進委員會ニ對シ華北

側ヨリモ委員ヲ参加セシム

三、經濟關係施策

(イ)軍管理主要鑛山ヲ解除シ差當リ中興、大汶口、磁縣、山西及柳泉ノ五石炭會社ヲ日華合作ノ模範形式ヲラシムルコトヲ目標トシテ急速設立スルモノトス

(ロ)右五會社ノ支那側重役(理事長各一、理事各二、監事各一)各故股同ノ兼職セル經濟關係役職ヲ開放シ官界及財界ノ有力者ヲ以テ之ニ充テ支那側人心ノ刷新ニ

資スルモノトス

(ハ)石炭以外ノ解除ノ分ニ就テモ右ニ準シ處理ス

四、北支那開發株式會社並其ノ關係會社ノ監督關係ノ調整

北支那開發株式會社ノ機能ヲ新事態ニ即應セシムル
爲不取敢大東亞大臣命令書ヲ改正シ現地公使ヲ通ス
ル監督ノ一元化ヲ圖ルモノトス

編注 第126文書で言及されている文書とは日付が異なっている。

127

昭和18年2月9日

在上海田尻公使より
青木大東亞大臣宛(電報)

「對支新政策」に關シ上海では政治問題より

一般經濟復興を重視する方針につき上申

上海 2月9日後発

本省 2月10日前着

第三五四號(館長符號扱)

一、對支新政策ハ直接法的ニ國民政府ノ政治力ヲ強化(法權
撤廢、租界返還等)スルト共ニ支那經濟ノ復興及民生安
定ニ依リ間接的ニ政府ノ實力ヲ發揮セシメントスルモノ

ナルモ當地ノ支那人ハ全般的ニハ未タ吾關セストノ態度
ヲ捨テス加フルニ歐亞戰線ノ影響ヲ受ケ時局ヲ見送ラン
トスル心境ナリ

ニ之カ打開策トシテ政治的ニハ速ニ日本側ノ租界返還及法
權撤廢ノ二委員ヲ任命シ返還ハ遅クトモ三月中ニ實施ス
ル一方課稅問題ニ付研究ヲ進ムルコト肝要ナリ

三、經濟問題ニ付テハ從來ノ經緯ヨリセハ合辦會社ノ調整又
ハ事ノ難易ヨリセハ敵產移管カ先ツ問題トナル筋合ナル
モ右ハ何レモ病源ヲ衝ク根本手術ニ非ス當地トシテハ民

食問題ノ根本的解決ト共ニ一般經濟ノ復興(農産物ノ蒐
荷及輕工業加工品ノ配給並是等ノ移動制限緩和)ニ重點
ヲ置キ三月一杯ニハ流通經濟復活ノ爲假令細クトモ一筋
ノ流ヲ作ルコトヲ必要トシ之ニ依リ經濟活動力其ノ緒ニ

就キ一般經濟人モ將來ニ對シ曙光ヲ認ムルニ至リ始メテ
會社ノ調整ノ如キハ有意義ニシテ效果的ナル解決ヲ期待
シ得ルモノト認メラル

四、右ノ實行策トシテハ上海經濟界ノ指導者ノ發奮ヲ促シ其
ノ負責ノ下ニ各種同業者公會ヲ活動セシムルノ外ナキ處

既ニ周作民(一月下旬北京ヨリ歸滬セリ)唐壽民、吳震修、

葉扶宵、李升白等ヲ主トスル中華民國經濟研究會設立セラレ之ニ依リテ上海經濟復興ノ中核體ノ素地出來上リタル一方國民政府トノ關係モ全國經濟委員ノ任命ニ依リ表面化スルニ至リタルヲ以テ(周ノ辭表提出ニ付テハ心配ニ及ハス)彼等ヲ誘導シ當方トノ連絡指導ノ下ニ逐次各種公會ノ改組活動ヲ促シ度キ考ヘナリ

五、素ヨリ中華民國經濟ノ復興ハ國民政府ノ指導監督ノ下ニ於テ行ハルヘキ建前ナルカ此ノ際國民政府例ヘハ糧食部カ自ラ商賣ニ乗出スコトハ禁物ナルト共ニ政府各部カ上海經濟界ニ對シ統制無キ働キ掛ヲ爲スニ於テハ上海經濟人ノ活動ハ非常ナル障害ヲ受クヘキナリ此ノ點日本側トシテハ充分ノ關心ヲ以テ事態ノ進行ヲ監視スルコト必要ナリ

六、右心組ノ下ニ過日來陳公博、周佛海及梅思平ヲ初メ周作民等トモ懇談ヲ重ネタルカ何レモ前記考ヘ方ニ同意見ニシテ此ノ際上海ニ於ケル問題ハ政治ヨリハ經濟ニ重點ヲ置クヘキコト日本側ハ支那側ノ自主ヲ認メツツモ引續キ總ユル協力ヲ與ヘラレタキコトニ付テハ各人トモ意見ノ相違無シ本官トシテハ右方針ニテ引續キ支那側官民トノ

接觸ヲ重ネ差當リ一般經濟復興ニ重點ヲ置キ努力スル考ヘナリ

北大、南大へ轉電セリ

128 昭和18年2月14日 在上海田尻公使より
青木大東亞大臣宛(電報)

租界返還に伴う上海現地措置案に関する現地
陸海軍との協議模様につき報告

別電 昭和十八年二月十四日發在上海田尻公使より

青木大東亞大臣宛第三九六号

租界返還に伴う上海現地措置案

上海 2月14日後發
本省 2月15日前着

第三九五號

往電第三二〇號ニ關シ

右往電ニ關シ當方限リニ於テ更ニ種々檢討ノ結果一應ノ試案ヲ得タルヲ以テ同案(概要別電第三九六號)ヲ議題トシ當方陸海軍側係官及當方係官ノ間ニ懇談的ニ意見ノ交換ヲ爲サシメタルカ海軍側意見ハ租界區ヲ限リタル強度ノ自活

區設定(議決機關ヲ有シ邦人議決權ヲ行使ス)案ニシテ陸軍案ハ現特別市區域ヲ含ム地域ニ對スル自治組織案ニシテ相反スルモノト言フヲ得ヘシ(兩案追報ス)素ヨリ共通點ヲ有スルモ(例ヘハ重要部門ニ邦人職員ヲ配置スル等)其ノ立脚點ニ於テ稍對蹠ノ傾向アリ之カ調整及妥協案ノ現地ニ於ケル作成ハ相當困難ト認メラルル一方各方面共中央ノ參考意見トシテ速ニ提出ノ上結局ハ中央ノ決定ニ俟タントスル意嚮ナルヲ以テ意見ノ相違ハ其ノ儘中央ニ傳達スルコトニ係官ノ間ノ話合纏リタル由ナリ本使トシテハ此ノ上其現地三省間ノ意嚮ノ接近化ニ努ムル所存ナルモ前記事情ニ鑑ミ茲ニ現狀ヲ中間報告ス

尙佛租界問題ニ付テハ陸海軍案モ返還又ハ放棄ニ至ル迄ノ期間ニ於テ出來得ル限り日本ノ發言權ノ事務當局ニ對スル浸透ヲ計リ度キ點ニ於テ共通ナルカ此ノ點ニ關スル對佛對國府關係上ノ妙案ハ相當案出ニ困難ニシテ別電當方試案ノ意見モ未タ本使ニ於テ確信ヲ有シ居ル次第ニ非ラス唯對佛心構上及支那側指導上我方態度ハ速ニ決定ノ要アリト思料ス

別電ト共ニ南大、北大へ轉電上總へ轉報セリ

(別電)

第三九六號

上海 2月14日午後
本省 2月15日午前

一、返還ニ伴ヒ共同租界行政權ハ上海特別市政府ノ所管ニ歸屬スルモノトス現共同租界參事會ハ返還ト同時ニ解消シ中國側之ニ代リ行政首腦ヲ任命ス

二、中國側ハ上海市街地區ヲ一體トシ鄉村地區ト異リタル統一セル市政ヲ實施スヘシ而シテ能率維持ノ爲諮問參議會(構成及權限ハ左記「六」ノ通り)ヲ設クヘク又市街地區ノ收入ハ專ラ右地區ノ支出ニ充ツ

「註」 特別市ノ管轄區域ヲ市街地區ノミニ限定縮小スルヤハ中國側ニ一任ス

三、中國側ハ市街地區行政ニ關シ邦人ノ居住營業福祉ニ對シ從來程度ヲ保持スヘク之カ爲

- (一) 邦人經濟顧問ヲ採用ス
- (二) 諮問參議會ニ我方推薦參議(邦人)ヲ委囑ス
- (三) 邦人職員ヲ採用スルモノトス

(右職員ハ邦人ノ居住營業福祉上特ニ重要ナル部内即チ警察財務等ニ配置セラレ主トシテ現工部局職員ヲ充ツルモ其ノ數ハ實情ニ即シ制限ス)

四、返還後過渡の措置トシテ

(一) 共同租界ヲ前記ニ市街地區内ノ一下部行政單位トシテ市政ヲ施行ス

(二) 之カ事務處理ノ爲暫時現工部局事務當局ノ機構ヲ存續ス(但シ市街地區ノ全般的統一機構整備ニ伴ヒ逐次改編ス)

五、佛租界ハ專管租界返還ト同時又其ノ以後(共同租界返還以前)ニ於テ無條件ニ放棄セシメ放棄後ノ處理ハ前記ニ乃至四ニ準シ實施スルモ佛側勢力ノ殘存ヲ極力防止シ他面市政ノ能率低下ヲ防ク爲可及的速ニ佛租界行政權ノ工部局ヘノ委任等適當ノ措置ヲ講ス

六、上海市街地區諮問參議會ノ

(一) 構成ハ華人ヲ主トシ日本人ヲ含マシメ

(二) 權限トシテハ組織條令中ニ「市長ハ豫算決算課稅及市警察法規ノ制定ニ付必ス參議會ノ意見ヲ徵スヘキコトヲ明確ニ規定ス(但シ日華參議ノ權限ニ差別ヲ設ケ華人

參議ニハ一定範圍ノ拘束議決權ヲ與フルヲ妨ケス)
南大、北大へ轉電上總へ轉報セリ

129 昭和18年2月16日

在北京塩沢公使より
青木大東亞大臣宛(電報)

華北における「對支新政策」に伴う諸施策の
実施状況について

北京 2月16日後発
本省 2月17日前着

第三三一號

一、對支處理根本方針ニ基ク華北ニ於ケル施策事項ニ付テハ
先般上京ノ際御連絡申上ケタル通り二月九日ヲ中心トス
ル第一期ニ於ケル諸施策ハ總テ完了シ政務委員會ノ陣容
刷新ト相俟ツテ當方所期ノ態勢ニ入りツツアリ

二、第二期施策事項中天津日本租界問題及北京公使館區域問
題ノ處理ニ付テハ既ニ一案ヲ作成シ南京大使トモ一應協
議ヲ了シ細部ニ付テ研究ヲ續行中ナリ

三、新方針ニ基ク華北施策要綱ノ決定ニ伴ヒ軍ニ於テハ二月
十二、十三日ノ兩日直轄兵團參謀長及政務主任者ノ會同

ヲ開催シ要綱ノ傳達及新方針ノ趣旨徹底ヲ圖リタルカ當
方ニ於テモ十四日北支公館長會議ヲ開催スルト共ニ同日
午後北支國策會社及重要團體ノ幹部ヲ召集シ本使ヨリ中
國參戰ニ伴フ新情勢ニ付指示ヲ與ヘ新方針ノ趣旨徹底ヲ
圖リ充分ノ成果ヲ收メタリ
尙同日開催中ノ北支商工會議所會頭ノ會合ニモ出席同様
ノ指示ヲ與ヘ置キタリ
南大ヘ轉電セリ

130 昭和18年2月17日 大本營政府連絡會議了解

「帝國專管租界還付實施措置要領」

付 記 昭和十八年二月二十日付、青木大東亞大臣訓令

「專管租界還付實施ノ爲ノ帝國委員ニ與フル訓令」
帝國專管租界還付實施措置要領

第一、方針

帝國專管租界行政權還付實施ニ付テハ「租界還付及治外
法權撤廢等ニ關スル日本國中華民國間協定」ノ本旨ニ從
ヒ「大東亞戰爭完遂ノ爲ノ對支處理根本方針」ノ趣旨ヲ

具現スル如ク其ノ措置内容ヲ定ムルモノトシ還付實施ノ
時期ハ各租界全部同時ニ本年三月三十日(國民政府還都
記念日)トス

第二、要領

措置要領ハ概ネ左ニ準據スルモノトス

甲、措置内容概定

一、租界行政權

イ、租界行政權ハ協定ニ基キ支那側ニ還付スルモノナ
ルニ由リ租界内支那人及非治外法權國人ニ對スル警察
權及課稅權竝ニ道路橋梁等ニ對スル管轄權等既存ノ各
居留地取極ニ基ク租界行政權ハ總テ之ヲ支那側ニ還付
スルコト

ロ、右ニ伴ヒ

(1) 從來租界警察ノ爲使用シ來レル支那人巡捕ハ之ヲ支
那側ニ移讓スルコト

(2) 道路、橋梁、下水、溝渠、堤防等ハ之ヲ支那側ニ無
償移讓スルコト

(3) 租界内支那人及第三國人ヨリ徵收シ來レル民團民會
ノ課金ハ之ヲ廢止スルコト

(4)租界行政實施ニ關スル文書類ハ所要ニ應シ支那側ニ引繼クコト

(5)各地舊日本租界ハ孰レモ之ヲ特別ノ行政區トスルコトナク當該市政府ノ一般行政機構中ニ編入スルコト

舊日本租界以外ノ舊租界ニ付テモ右ト同様ノ措置ヲ執ラシムルコト

三、民團民會トノ關係

イ、租界還付實施ニ伴ヒ民團民會關係ニ付テハ前項ニ依リ措置スルモノノ外治外法權ニ基ク課稅問題ノ處理ヲ見ルニ至ル迄天津及漢口等ニ於テハ民團又ハ民會ノ課金收入中ヨリ一定額ヲ支那側ニ寄附シ舊租界ノ地方行政ニ要スル經費支辨ニ充當セシムルコト

右ニ關シ民團又ハ民會ハ支那側ヨリ會計報告ヲ受クルヲ得シムルコト

ロ、居留民團體ト支那側トノ意思疎通ニ便ナラシムル爲民團又ハ民會當局ト市政府當局トノ間ニ懇談の會合ヲ定期的又ハ所要ニ應シ隨時開催セシムル如ク措置スルコト

ハ、天津民團經營ノ公共の事業中

(1)電氣及水道事業ニ付テハ從來ノ如キ民團自營ノ形態ヲ採ルコトヲ避クルト共ニ民團ノ財政的基礎ヲ考慮ノ上成ルヘク速ニ該地方ノ當該事業經營主體ニ有償移讓スル等ノ措置ヲ講スルコト

(2)埠頭ニ付テハ將來適當ノ時機ニ適當ノ經營者ニ拂下ケ若ハ經營セシムルカ又ハ支那側ニ有償移讓スルコト等ヲ考慮スルモ何レノ場合ニ於テモ日本側ニ於テカ使用ニ付特別ノ便益ヲ享受シ得ル如ク措置スルコト

(3)既設公園ノ經營ハ支那側ニ移讓セサルコト

三、不動産ニ關スル權利

舊租界内ニ於ケル土地建物等不動産ニ關スル邦人ノ權利利益ノ享受ニ付遺憾ナカラシムル如ク所要ノ措置ヲ講スルコト

四、開埠地ノ範圍

舊租界所在地方ノ開埠地ノ範圍ハ所在都市ノ全領域ニ亘ルコトヲ明確ニスルコト

乙、實施細目ニ關スル支那側トノ協議決定

一、細目取極ノ内容

租界行政權還付實施ニ關シテハ前記甲ニ概定セラレタ

ル各項ノ趣旨ヲ實現スルコトヲ目的トシ右ノ中支那側ト協議決定ヲ要スルモノニ付細目取極ヲ締結スルコト
三、細目取極ノ形式

細目取極ノ形式ハ委員ノ處置ニ一任スルモノトシ各事項ノ細部ニ關シテハ所要ニ應ジ各租界所在地日支當該官憲間ニ協議ノ結果ヲ日支双方ノ委員ニ於テ確認スルノ方式ヲ執ルヲ妨ケサルコト

備考 民團又ハ民會ノ主要事業タル學校經營ニ付テハ在留邦人子弟教育ノ重要性ニ鑑ミ租界還付及治外法權撤廢ニ拘ラス支障ナキ様適當ノ措置ヲ講スルモトス

(付記)

專管租界還付實施ノ爲ノ帝國委員ニ與フル訓令

一、貴官等ハ昭和十八年一月九日中華民國駐荷帝國特命全權大使ガ同國國民政府行政院院長トノ間ニ調印セル「租界還付及治外法權撤廢等ニ關スル日本國中華民國間協定」
第二條ノ規定ニ基キ別紙昭和十八年二月十七日大本營政府連絡會議了解「帝國專管租界還付實施措置要領」ニ據

リ中華民國委員トノ間ニ在支帝國專管租界行政權還付ノ實施ニ關スル細目ヲ協議決定セラレ度シ

二、右任務遂行ニ當リテハ全般的ニ本大臣ノ指揮ヲ承クルノ外常時在支大使ノ指導ヲ受ケラレ度尙大使館附陸海軍武官ト密ニ連絡シ又右武官ヲ通ズル等ノ方法ニ依リ現地陸海軍トノ連絡ニ遺憾ナキコトヲ期セラレ度シ

三、前記「帝國專管租界還付實施措置要領」ニ關シテハ左ノ諸點ニ留意セラレ度シ

(一) 第二要領乙ノ一、「細目取極ノ内容」ニ關シ

要領甲記載各項中中國側ト協議決定ヲ要スルモノニ付細目取極ヲ締結スルモノナルニ依リ中國側トノ間ニ話合ヲ遂グルコトヲ必要トスルモノ兩國間ニ取極ヲ爲スコトヲ要セザルモノニ付テハ細目取極中ニ規定ヲ設クル必要ナキ次第ナリ

(二) 同上乙ノ二、「細目取極ノ形式」ニ關シ

中國側ト取極ヲ要スル事項中原則的及一般的事項ハ之ヲ細目取極ニ網羅スベキコト當然ナルモ右原則ノ解釋又ハ細部ニ關スル取極ハ議事録、諒解事項又ハ附屬書等ノ細目協定附屬書類ニ讓ルコトトセラレ差支ナシ

又細部事項中具體的ニ物件ヲ列擧シ又ハ數字ヲ掲グル等ノ必要アル場合ニハ之ヲ各租界所在地帝國領事官ト中國側地方官憲トノ間ノ協議ニ譲リ其ノ結果ヲ右兩國官憲ヨリ夫々ノ委員ニ報告セシメ兩國委員ニ於テ之ニ同意ヲ與フルノ方式ヲ執ラルルモ差支ナシ

(三) 第一「方針」ニ關シ

還付實施ノ時期ハ各租界全部同時ニ本年三月三十日ヲ豫定スルモノナル處右實現ノ爲ニハ細目取極調印ハ少クトモ還付實施期日以前一週間乃至十日位ノ餘裕ヲ置クコト必要ナルベク出來得レバ三月中旬ニ調印ノ運ト成ル如ク交渉ヲ進メラレ度シ但シ關聯事項全部ノ細部ニ至ル迄協議決定ヲ完了セザル場合ト雖モ行政權還付ハ必ズ前記期日ニ實施致度キ考ナリ

尙今次專管租界行政權還付實施ニ關シテハ中國側ニ對シ本件ノ政治的重要性ヲ十分認識セシメ極力政治的効果ヲ大ナラシムルコト肝要ナルニ鑑ミ還付實施ノ式典其ノ他宣傳振等ニ付テモ格別ノ考慮ヲ拂ヒ處置スルコト必要ナリ

(四) 第二要領甲ノ一「租界行政權」ニ關シ

(1) イ、ハ租界行政權還付ノ内容ニ關スル説明ニシテ右ヲ細目取極ニ規定スルコトハ豫想シ居ラズ又本項ハ中國側ニ還付スベキ行政權ヲ列擧セラレアル各種ノ權利乃至管轄權ニ限定セントスル趣旨ニハ非ズ

(2) ロ、ノ(5)ハ細目取極ニ規定スル必要ナシト認ムルモ其ノ内容ハ我方ノ重視スル所ニシテ特別區ナル名稱ヲ附スルコトハ當該區域ガ外國租界タリシコトヲ永ク明示スルコトト成リ租界制度廢止ノ本旨ヨリスルモ面白カラザルノミナラズ特別區ト爲シタル上右區域ニ對スル市政參與權ヲ認メシムルガ如キコトハ當方ノ考慮シ居ラザル所ニシテ當方トシテハ大局的ニ中國側ノ施政ヲ我方方針ニ同調セシムルコトニ依リ所要ノ目的ヲ達成センコトヲ期シ居ル次第ナリ

(五) 同上三、「民團民會トノ關係」ニ關シ

(1) イ、ハ租界行政權還付ニ伴フ各種業務ノ移管、舊租界施政ニ關シ從前程度ノ維持等ニ依リ増加スベキ中國側ノ財政的負擔ヲ事實上或ル程度分擔セントスル趣旨ニ基クモノナル處將來中國側ニ對シ在留邦人ノ福祉等ニ關係アル各種ノ希望ヲ申出ス場合ノ爲ノ布

石トシテモ又第三國側ヲシテ我方ニ同調セシメ同様ノ財政の負擔ヲ行ハシムル趣旨ヨリスルモ(此ノ點ニ付我方トシテハ第三國側ヲシテ同調セシムルヲ必要ト思考シ居レリ)成ルベク細目取極中ニ本項ニ關スル規定ヲ設クルコトト致度シ

(2)ロ、ハ常ニ中國側地方官憲ト在留邦人トノ間ニ親密ナル關係ヲ保持シ兩者ノ意思疏通ヲ圖ルコトハ極メテ重要ナリト認メラルルヲ以テ右意味ニ於テ當方ノ重視シ居ル所ナリ

(3)ハ、ノ(1)ハ行政權還付迄ニ所要ノ措置ヲ完了スルコトヲ豫想シ居ルモノニ非ズ民團ノ財政ニ重大影響ヲ及ボスベキ事項ナルヲ以テ其ノ意向ヲモ徴シタル上當事者間ニ話合成立次第實施致度キ考ナリ
尙(1)及(2)トモ細目取極ニ規定スル必要ナキモノト考

ヘ居レリ

(六)同上三「不動産ニ關スル權利」ニ關シ

細目取極ニハ一般的ニ不動産ニ關シ現狀ニ基ク權利利益ヲ尊重確認スベキ旨ノ規定ヲ設クルニ止メ其ノ具體的方法ハ各地夫々ノ事情モアルベキニ依リ前記(二)現地

日華兩國官憲間ノ協議ニ讓ラルベキコトヲ豫想シ居レリ

(七)同上四「開埠地ノ範圍」ニ關シ

本項ハ我方ヨリ謂ヘバ從來ノ主張ヲ確認セシムルニ止マリ中國側ニ新ナル義務ヲ負ハシムルモノニ非ザルニ依リ中國側ニ於テ從來本項ノ趣旨ニ反スルガ如キ訓令等存スル場合ニハ之ヲ取消ス等事實上本項ノ趣旨ヲ實現スル措置ヲ執ルコトヲ承諾スルニ於テハ必ズシモ細目取極中ニ規定ヲ設クル必要ナシト考ヘ居レリ但シ中國側ヨリシテ本項實施ニ依リ日華兩國間協定ニ謂フ内地開放ヲ實施シタルガ如キ誤解ヲ生ゼシメ又將來ノ内地開放ニ障礙ヲ與フルガ如キコトナキ様留意セラレ度シ
四、交渉ノ進捗狀況ニ關シテハ隨時當方ニ報告スルト共ニ所要ニ應ジ指示ヲ求メラレ度右ニ應ジ本大臣ヨリ更ニ訓令ヲ發スルコトアルベシ

右訓令ス

昭和十八年二月二十日

大東亞大臣 青木 一男

編注

日本專管租界還付に関する細目取極は昭和十八年三月十四日に南京で調印され、同月三十日に天津、漢口、蘇州、杭州、沙州、福州、厦門、重慶の日本の專管租界が中国側に返還された。



131

昭和18年2月20日 在上海田尻公使より
青木大東亜大臣宛(電報)

上海共同租界返還に關連して予め決めおくべき事項につき意見具申

上海 2月20日後發
本省 2月24日後着

第四八一號(至急)

上海租界返還ニ關聯シ左記諸項ニ關スル我方ノ對策ヲ併セ

テ決定シ置ク要アリ夙ニ御承知ト存スルモ爲念

一、佛伊軍隊ノ駐屯

二、特區法院協定(共同租界關係及佛租界關係)

三、工部局及公董局ノ積極消極財産ノ繼承

四、兩租界内特許公共企業

五、土地ニ關スル權利

而シテ、ニ付テハ佛軍隊ノ警備駐屯ハ佛租界ノ特殊性存續ヲ可能ナラシムルニ付出來得ル限り之ヲ撤退セシメ度

ニ、ニ付テハ租界返還(回收)ト同時ニ當事國間ノ合意ニ依リ

正式ニ廢棄セシムルカ又ハ中國側ヲシテ一方的ニ廢棄セシ

メ一般支那法院ヲシテ管轄セシムルコトスヘキモ舊租界

區内ノ治安ト密接不可分ノ關係ニ在ル刑事事件ノ起訴權ハ

實質的ニ當該區域擔當ノ支那警察(日本側ノ實權下ニ在ル

モノト豫想ス)ニ於テ掌握スルコト望マシク日華間ニ協定

ノ要アリ

三、ニ付テハ支那側ヲシテ包括繼承セシムヘキモノト思惟ス

四、ハ敵産處理竝國策會社調整問題トモ關聯シ考慮ノ要アル

モ租界返還ノ要領ヲ決定シ部分的ニハ之ヲ解決シ置クヲ要

ス

尙佛租界内公共企業ノ合併買收等ニ付テモ併セテ方針決定

ヲ可トス永租制度ハ租界内外ヲ問ハス他地ニ比シ比較的整

備シ居ルモ此ノ際更メテ制度ヲ確認シ置クコト

尙權柄單土地問題地產會社ノ將來等ヲモ勘案シ我方ノ方針

ヲ確定スル要アリ

北大、南大ニ轉電セリ

昭和十八年二月二十四日、大本宮政府連絡會議了解

「上海共同租界回收措置要領」により、同年七月末を目途として中国による上海共同租界回収を実施することとされ、その措置要領として、一切の行政権（越界路管轄権を含む）を中国側が回収すること、旧共同租界、旧越界路地区及び旧仏租界は新上海市に編入すること、日華協力のため、(1)日本人経済顧問並びに所要に応じ技術顧問を招聘する、(2)在留日本人に関係の深い施政方面（警察、財務等）の要部に少数の日本人高級職員を配置する、(3)正式の取極に基づき市政府当局と民団当局との間に日華連絡懇談会（仮称）を設置する、関係第三国に対し中国による共同租界回収を承認させることなどが定められた。

昭和18年2月26日

在中国重光大使より
青木大東亜大臣宛（電報）

「對支新政策」に対する重慶側放送について

K第八九號

南京 2月26日後発
本省 2月27日前着

我方ノ對支新方針ニ關シ二十六日重慶側放送（時事解説）左ノ通

日本ハ汪ヲシテ參戰セシメタル後對支新國策ナルモノヲ實施シ汪政府ノ政治力強化ト新中國ノ甦生ヲ強調シ居レルカ吾人ハ占領地同胞及海外華僑ニ右カ日本ノ隱謀ナルコトヲ警告セントス

一、日本ノ言フ新中國ノ甦生トハ中國人ノ奴隸化ヲ意味シ大東亞共榮圈トハ民族的搾取ノ代名詞ナリ汪ノ參戰ハ善良ナル中國人民ノ欲セサル所ニシテ日本ハ汪ノ不徹底ヲ認メテ甦生新中國ナル新國策ニ名ヲ藉リテ中國搾取ヲ強化セントスルナリ

二、日本ノ稱スル汪政府ノ強化トハ汪政府ヲ第二ノ滿洲國タラシメントスルモノナリ支那事變及太平洋戰爭以來日本ノ實力ハ日ニ低下シツツアルカ中國及聯合國ノ實力ハ日毎ニ強化シツツアルニ鑑ミ日本ハ長期持久ト決戰準備ノ爲汪ヲ徹底的ニ控制シ教育、宗教、經濟乃至建設、市場

等ノ權利迄日本大使館ニ移管セシメタリ是汪政府力第二ノ滿洲タラントスルノ證左ナリ

日本ノ所謂戰時合作トハ占領地ノ人力物力ノ榨取ヲ強化セントスル謂ナリ蓋シ日本ハ貧乏國ナルヲ以テ生産ニ於テ聯合國ニ匹敵シ得ス故ニ合作ニ藉口シテ其ノ榨取ヲ強化セントスルモノナリ

左ノ事實ヲ認識スルヲ要ス

(イ)日本ハ昨年八月七日ノ失敗以來漸次衰頹ノ一途ヲ辿リ

汪政府ノ窮乏亦其ノ極ニ達シ崩壞必然タリ故ニ非占領地人民ハ敵ニ糧食ヲ賣ラス之ト合作セサルヲ要ス

(ロ)日本ハ今ヤ物資缺乏シ人心恐慌状態ニアルニ鑑ミ占領

地同胞ハ隨時反撃シテ敵ノ交通ヲ破壞シ其ノ崩壞ヲ早メラシメ以テ自己ノ財産ト自由ヲ獲得スルヲ要ス

(ハ)吾カ中國ハ經濟財政上確乎タル對日反撃ヲ發動セントス占領地同胞ハ祖國ニ協助シテ敵ヲ擊滅シ最後ノ勝利ヲ獲得セサルヘカラス

北大、張大、上大、天津、青島、濟南、漢口、厦門、廣東、滿へ轉電セリ

133

昭和18年3月18日

谷外務大臣より
在独国大島大使宛(電報)

「對支新政策」実施後の中国情勢について

本省 3月18日後8時發

第一八三號

貴電第二七五號ニ關シ

先般ノ國府參戰及之ニ伴フ帝國ノ對支新政策ノ活潑ナル推進ハ一面國民政府ノ旗旒ヲ鮮明ナラシメ其ノ政治力ノ強化ニ資スルト共ニ他面重慶側ノ抗戰目標ヲ晦冥ナラシメ其ノ軍隊ノ戰意ヲ喪失セシムルノ結果ヲ來シ居リ御來示ノ如キ現象ハ其ノ實例ニ外ナラサル處其ノ真相御參考迄左ノ通り
一重慶側要人ノ南京合流

國府參戰ノ直接ノ結果トシテ重慶側要人ノ南京ニ合流シ來レルモノナシ軍務局長ノ議會答辯ニ於テ言及セル陳友仁、顏惠慶ハ共ニ大東亞戰勃發當時香港ニテ我方ニ逮捕セラレタルモノニシテ陳ハ先般國府外交部長就任方懲懣セラレタルモノ之ヲ辭退シ顔又現在ノ所國府ニ對シ何等積極的協力ノ態度ヲ示シ居ラス重慶要人ニシテ新ニ國府側機關ニ入レルモノハ僅カニ周作民ノ國民政府委員任命及

同人外三名ノ全國經濟委員會委員ニ就任ヲ見タルニ止マル實情ナリ併乍ラ重慶要人ニハ夫々過去ノ政治的因縁アリ對支政策ノ現段階ニ於テハ廣ク中國一般民心ノ把握ヲ目睹トシ之等個々ノ要人ノ去就ニハ最早些シタル重要性ヲ附シ居ラサル次第ナリ

二、重慶軍ノ歸順狀況

重慶軍ノ戰意低下ハ最近ニ於ケル顯著ナル事實ニシテ二月中旬ヨリ三月初旬ニ掛ケ行ハレタル中支軍春季作戰ノ例ニ見ルモ遺棄死體ニ比シ俘虜ノ數ニ倍半(一萬八千五百)ニ達シ從來ノ逆ノ比率ヲ示シ居リ右ノ中武漢地區ニ於テ敵將王勁哉ノ部下四千ヲ率ヒ投降セルヲ始メ司令官若ハ參謀長自ラ部下ヲ伴ヒ集團の歸順ヲ行ヘル例尠カラス右ハ武器彈藥ノ不足ヨリ寧ロ抗戰繼續ニ對スル疑惑ノ精神的原因ニ基ク現象ナリト認メラル同時ニ注目スヘキハ作戰地域住民カ我軍ニ對シ未タ嘗テナキ協力的態度ヲ示シ居ルコトニシテ即チ新地域ヲ占據スルモ住民ノ逃亡スルモノ殆トナク却テ道路、橋梁ノ修理、敵狀ノ偵知、道案内等ニ付我軍ニ積極的協力ヲ爲セル實情ナリ

三、重慶側ノ情勢

國府參戰及帝國ノ新政策カ重慶側ニ與ヘタル政治的打擊ハ右事例ニ見ルモ明ナルカ客月紹關方面ノ諜者報ニ依レハ下級官吏、商人ヲ含ム大多數民衆ハ内心重慶政權ノ高壓手段ヲ嫌惡シ和平地區ヘノ脱出ヲ希望スルモノ尠カラサルモ密偵嚴重ナルタメ躊躇シ居リ唯學生等智識層ハ依然終局ノ勝利ヲ信シ進シテ軍事學校入學ヲ志願スルモノ多キ實情ナル趣ナリ他方經濟生活ハ引續ク物價騰貴閣取引ノ横行及之ニ對スル死刑ヲ含ム重罰ノ制定等ニ鑑ミ相當ノ逼迫ヲ來シ居ルモノト推定セラルル處重慶政權ハ之カ對策トシテ民需物資ニ付テハ奧地開發企業ノ新設竝ニ西北西藏「ルート」等新輸送路ノ計畫ニ依リ軍需物資ニ付テハ主トシテ米、印度ヨリノ輸送増加ニ依リ夫々切拔ケ策ヲ講究中ナルカ何レモ速急ノ場ニ合ハサル狀態ナリ殊ニ米英ヨリノ武器輸送ニ付テハ重慶側ノ執拗ナル要求ニ對シ米英亦其ノ急務ナルヲ認メ居ルモ之カ急速ナル實現ハ不可能ニシテ右狀態ヲ不満足トスル論調重慶側新聞ニ現ハレ居リ事態此ノ儘ニ推移センカ重慶對米英關係ニ割リ切レサルモノヲ生スル可能性大ナリト認メラル

冒頭貴電ト共ニ伊、佛、土、瑞西ハ轉電アリタシ

134

昭和18年3月30日

在北京塩沢公使より
青木大東亜大臣宛(電報)

華北における「對支新政策」に基づく諸施策

実施方針につき報告

北京 3月30日後発

本省 3月30日夜着

第七七七號

本使發南大宛電報

第一八二號

一、對支新方針ニ基ク諸施策ニ付テハ三月末ヲ以テ基幹部面ニ於ケル形而下的調整ヲ一應完了セルヲ以テ今後(四、五、六ノ三ヶ月ノ期間ト豫定)ハ形而下的調整ハ必要止ムヲ得サルモノニ限り専ラ實質的方面ニ力ヲ入レ精神ノ普通徹底諸施策ノ實績向上ニ全力ヲ傾倒スルコトト致度就中

(イ)華北政務委員會ニ對シテハ治安食糧糧問題ニ專念セシムルト共ニ委員長ヲ通シ國民政府ト密ニ連絡セシメ相互
信倚ノ空氣ヲ醸成セシムルコト

(ロ)邦人指導ニ關シテハ地域別ニ翼賛組織ノ改組擴充ヲ圖

リ地域の指導ヲ強化シテ新方針ノ趣旨徹底臨戰體制ノ團體訓練ヲ完成スルコト

(ハ)食糧通貨及物價問題ヲ相互ノ關聯ニ於テ一貫的解決ヲ

圖リ民生ノ安定ニ遺憾ナカラシムルコト

ノ諸點ニ重點ヲ置キ之カ實現ノ爲大使館ハ關係方面ト密ニ連絡シ地方ノ實情ヲ把握シツツ現場指導ニ全力ヲ集中スルコトト致度キ考ヘナリ

ニ以上施策方針竝新方針實施ニ伴フ當方面ノ情勢ニ關シ事情説明ノ爲中森調査官ヲ東京へ倭島書記官ヲ南京へ出張セシムルニ付委細同官ヨリ聽取アリ度

三尙新方針ニ基ク北支那開發會社關係諸會社ノ調整ニ關シテハ豫テ開發會社ヲシテ當方ノ趣旨ヲ含ミ具體案ヲ研究セシメ居リタルカ今般成案ヲ得タルヲ以テ上京中ノ津島總裁及當方關係者(中森、守屋)ヨリ關係方面ニ説明アル筈ニ付可然配慮相煩度

南大ニ轉電セリ

昭和18年6月5日

在張家口岩崎公使より
青木大東亜大臣宛(電報)

蒙疆における「對支新政策」に基づく諸施策
の実施状況及び今後の見通しにつき報告

張家口 6月5日後発

本省 6月5日後着

第四〇五號(至急、館長符號扱)

貴電合第一一七號ニ關シ

一、對支新方針ニ基ク諸施策ノ進行狀況及今後ニ於ケル之カ
見透シニ付テハ貴方御承認濟對蒙施策要綱(二月二十七
日軍、大使館共同調製)ノ具現ニ關シ現地軍トノ密接ナ
ル協力ノ下ニ銳意其ノ促進ヲ計リ政府ノ政治力ノ強化並
ニ經濟上ノ諸施策ノ改善等着々其ノ緒ニ就キツツアリ又
蒙古政府ト國民政府トノ關係ノ調整ニ關シテモ日華基本
條約ノ精神ニ則リ相互ノ摩擦相剋ヲナカラシムルノミナ
ラス新方針ヲ體シテ進ンテ融和的雰囲気ヲ醸成セシムル
如ク施策中ニシテ概ネ所期ノ方向ニ推移シツツアリ然レ
トモ蒙古人ハ最近ノ情勢ニ鑑ミ動モスレハ蒙古ヲ忘却セ

ラルルニ非スヤトノ感ヲ抱キアルモノノ如ク何等カノ方
法ヲ以テ自治的 성격ヲ確定シ新鮮明朗ナル氣分ニテ戰爭
ノ完遂竝ニ蒙古ノ建設ニ邁進シ度シトノ希望ヲ有シアル

コトハ爭ハレサル事實ナリ當方ニ於テハ蒙古ノ特殊性ニ
ハ何等變化ナキヲ以テ流言浮説等ニ迷ハサルルコト無ク
一意實力ノ涵養ニ努ムヘキヲ機會アル毎ニ説示シ目下概
ネ安定鎮靜ノ状態ニアリ

二、施策ノ結實ノ爲ノ障害トナリ居ル點ハ蒙古政府ノ性格明
確ナラサルコト竝ニ他地方ヨリ之カ不安ヲ醸成スル策動
アルヤニ存セラルルコトニ存スルヲ以テ當方トシテハ極
力蒙古人ノ指導ニ努メツツアルモ中央ニ於テモ斯ル原因
ヲ除去スル如ク御配慮願度シ

136

昭和18年6月9日

在上海田尻公使より
青木大東亜大臣宛(電報)

「對支新政策」実施に伴う諸状況をふまへ早
急に採るべき措置案につき意見具申

上海 6月9日前発

本省 6月9日後着

第一四八二號

南大宛貴電第九二〇號ニ關シ

一、今次新政策實施ニ際シ軍側カ一舉ニ皇軍ヲ引揚ケタル後中國側地方官憲及大東亞省地方機關カ果シテ克ク新政策ノ狙ヒタル戦力培養及國府育成強化ヲ實現シ得ルヤ否ヤハ當初ヨリ懸念セラレタル所ニシテ當方トシテモ公館長會議係官派遣警察報告等ノ方法ニ依リ狀況ヲ注意中ノ處ニ、中國側地方官憲

(1) 南京、上海等中樞部ニ於テスラ國府官憲ノ素質高カラサルコト御承知ノ通りナル處中國側地方官憲ニ至リテハ

(イ) 元來更ニ其ノ能力、素質劣等ナル外

(ロ) 南京國府中樞部ノ意嚮乃至政令ハ地方官憲ニ連絡徹底セラレス(新政策ノ趣旨ノ如キモ充分ニ諒解セラ

レ非ス)

(ハ) 假ニ連絡到着スルモ諒解ヲ缺キ、諒解セラルルモ地

方官憲ニトリ都合惡キモノハ實施セス他面例ヘハ物資取締ノ如キニ付テハ國府中央部ノ命令ヲ自己ノ放縱ナル解釋ニ依リ専ラ私腹ヲ肥ス爲ニ利用シ居リ

(2) 之カ爲メ地方中國民衆ハ現在ノ出鱈目ナル中國側地方

官憲ヨリハ寧ロ日本軍ノ軍政ノ方結構ナリト稱シ居ル程ニシテ斯クテハ新政策ノ狙ヒタル戦力培養(物資取

得)ノ如キハ到底期待シ得ス又國府強化ノ代リニ民心

ハ益々國府ヨリ離反シ新四軍乃至重慶政權ニ向フヘシ

(3) 又在留邦人ニ對シテハ元來舊政策ノ反動トシテノツケ

上リアル上重慶、中共ノ謀略宣傳モ加ハリ新政策ニ對スル誤解ヨリ中國側地方軍警ノ不法行為地方各地ニ於テ(特ニ奧地ニ入ル丈甚シ)相當發生シツツアリ(詳細

取纏ノ上御報告ノ筈)今日ニ於テハ右ハ未タ全般的ニ

大シタ問題トハナリ居ラサルモ歐洲戦局ノ撓々カラサ

ルヲ豫測セラルル際ニ於テ治外法權ノ撤廢ヲ強行實施スルニ當リテハ慎重ニ考慮ヲ要スル點トナルヘシ

三、大東亞省地方機關トシテハ地方公館ト領事館警察トアル處

(1) 地方公館ハ蚌埠以外ハ事變前ノ狀況ヲ惰性的ニ踏襲シ

タルモノニシテ右以外ノ各地ニ於テモ僅カニ警察ノ分署、出張所等カ分散配置セラレアルニ過キス而モ此ノ領事館警察綱モ治外法權撤廢ヲ目前ニ控ヘ且ツ現在ノ

狂氣の物價高ニ對スル極度ノ低俵給ニテ之以上ノ擴充強化ハ極メテ困難ナリ(待遇改善及將來ノ不安一掃絶對必要ト認ム)

(2)軍ハ公館ノ所在地以外ノ主要都市(安慶、金華、寧波、嘉興、鎮江、無錫、泰縣等ノ各地)ニ於テ夫々彪大ナル特務機關乃至支部ヲシテ各般ノ項ヲ處理セシメ來リタルコト御承知ノ通りニシテ今次新政策ニ基ク引繼業務中邦人關係業務ハ理論上ハ或程度領事館警察ニ於テ處理シ得ル譯ナルモ(事實上ハ不可能ニ近シ)經濟文化關係業務ハ元來到底警察ニ於テ片手間ニ處理シ得ヘキニ非ス已ムヲ得ス差當リ警察ヲシテ處理ニ當ラシムルカ若クハ事實上軍側ニ於テ暫行的ニ應援處理シアルモ極メテ寒心ニ堪ヘサル實情ニアリ又寧波、金華等ニ到リテハ新政策ニ基キ始メテ今次軍側カ手ヲ引カムトセルモノニシテ今日尙領事館警察スラ設置セラレ非ラサル狀況ナリ(引繼業務ノ内容ヲ極メテ簡單ニ考ヘル向アルヤモ知レサルカ實際ニ於テハ例ヘハ文化關係ノ催シモ同仁會、日語教員、日語學校等ニ關スル業務相當アル外經濟上邦人關係業務ハ物資蒐買、配給、邦商機

構ノ整備竝ニ之カ指導ノミニシテモ相等量^當ニ上リ居リ而モ斯カル種ノ業務ハ對支關係モアリ警部、警部補ノミニ於テ片手間ニ於テシ得サルコト容易ニ諒解セララルヘシ)況ンヤ今後新政策ノ實施ニ伴ヒ例ヘハ課稅、治外法權撤廢等ニ關シ不當課稅、邦人居留民ノ生活難等困難ナル諸問題モ生起スヘク此ノ際中國側モ前記ノ如キモノノ解ラヌ連中ノミ日本側モ極度ニ在職人員ヲ制限セラレアル領事館警察限リトシテハ到底所期ノ效果ヲ擧ケルヲ得サルヘシ

四、右ニ三ノ如キ實情ニ鑑ミ日支双方共地方官憲ヲ整備スルト共ニ中央ノ意圖、新政策ノ趣旨ヲ徹底セシムルコトハ新政策完遂上緊急必要ト認メラルルニ付速ニ左記措置ヲ講スル様御配慮ヲ得度

(1)中國側

(イ)國府ニ於テ中央要人乃至ハ督察使等ヲ派遣シ中央ノ意圖ヲ徹底セシムルト共ニ宣傳部等ヲ指導シ新政策ニ關スル誤解ヲ一掃セシムルコト(根本的處理ハ至難ナルヘシ)

(ロ)邦人顧問乃至補助ノ活躍(場所ニ依リ増員モ必要ナ

ルヘシ)
(2) 日本側

(イ) 既設公館ノ擴充強化急速實施ノ爲處理ヲ迅速化セラ

レ度他ハ主要公館長ノ格上ケヲ必要ト認ム

(ロ) 公館ノ新設往電第一四五一號参照

「註」從來ノ特務機關トノ比較モアリ尠クトモ現地

領事級ヲ要ス

(ハ) 領事館警察ノ安定化、本件ニ關シテハ屢次往電申進

メノ通りナル處公館不在地ニ於テ軍側ノ手ヲ引キタ

ル後現地ニ於テ絶大ナル權力ヲ引繼キ之ニ伴ヒ現下

ノ狂氣的高物價ノ下ニ多大ノ誘惑ニ當面スヘキ領警

ノ生活安定及將來ノ見透ヲ與フルハ絶對必要ニシテ

中央ニ於テ急速ナル御措置困難ナルニ於テハ已ムヲ

得ス例ヘハ中華烟草等地ニ元會社ヨリノ自發的寄附金

ニ依テ於共濟施設ヲ實施セシムルノ外ナキヲ以テ御

諒承相賜度

北大、南大ニ轉電セリ

137

昭和18年8月10日

在北京塩沢公使より
青木大東亜大臣宛(電報)

華北における「對支新政策」の實施状況につ

き報告

付記一 昭和十八年五月二十三日付、南京大使館作成

「参戦後ノ中國ノ展望」

二 昭和十八年六月四日付、南京大使館作成

「新政策實施ノ見透シ」

三 昭和十八年十月一日付、大東亜省支那事務局

総務課作成

「對支處理根本方針ノ實施概況」

北京 8月10日後発

本省 8月10日夜着

第一八九一號

一、對支處理根本方針ノ實施狀況ニ關シテハ累次報告ノ通り

ナル處(八月二日附北大總政極祕第七三號参照)右ハ我方

ノ諸施策ニ對シ支那側ノ態度必スシモ膚接スルニ至ラズ

其ノ間動モスレハ罅隙ヲ生シ從ツテ我方方針モ亦所期ノ

如ク結實ノ運ヒニ至ラサル狀況ニアリ右ニ鑑ミ先般來我

(欄外記入)

方ノ協力ヲ一層懇切ナラシメ一日モ速ニ其ノ責任ト創意ニ於テ積極的ニ治安食糧等當局重要案件ヲ處理シ得ル如ク誘導方折角努力中ナルカ軍側ニ於テモ先般各軍連絡部(支部)ニ對シ剿共、貪官汚吏ノ肅正、中國側武裝團體ノ質的改善、食糧價格問題、宣傳ノ五項目ニ關シ一層適切ナル好意の支援ヲ與フル如ク下達セリ

三、王委員長ハ就任以來支那側ノ態度整備推進ニ關スル方策ニ就キ銳意考究中ナリシカ去ル八日ノ省市長會議ニ於テ之ニ訓示スルト共二十一日ヨリ約一週間ニ互リ各地方ヲ巡視シ自治食糧物價官紀等ニ關シ真相ヲ究メ更ニ適切ナル措置ヲ爲スコトトナルヘシ省市長會議ノ模様別途郵報ス

尙時局處理ニ關スル王委員長ノ決意ハ確固不拔ノ慨アリ自ラ形式的ノ宴會等一切廢止シ外交大樓ニ起居シ晝夜ヲ分タス政務ノ掌理ニ當ルカ如キ張り切り方ナルカ他方經濟攪亂行爲ニ對スル取締等ニ就テハ峻嚴即斷ノ方針ヲ以テ臨ム覺悟ニシテ目下考究中ナリ此ノ分ナレハ貪官汚吏ノ肅正等モ遠カラス相當ノ實効ヲ收メ民衆ニ對シ正當行政力ノ滲透スル方向ニ向クモノト認メラル

三、目下本年度追加豫算ノ編成ニ努メ居リ明年三十三年度豫算編成方針等研究中ナルカ根本方針トシテハ

イ、資源開發

ロ、治安確保

ハ、食糧對策

ニ、防空

ヲ四大緊要施策トシ右ニ關シテハ先議劃定ノ方針ヲ執リ且戰局進展ニ應シ臨機ノ所要施策ヲ實行スルニ遺憾ナカラシムル爲特ニ豫備費ノ額等ニ於テ考慮ヲ加ヘルコトニナリ居レリ

南大ニ轉電セリ

(欄外記入)

治安維持ノ實力ヲ有スル齊變元ガ元來王克敏ノ反對派ナリ、果シテ彼ガ衷心ヨリ王ノ施策ニ協力スルカ、外面糊塗の從斗ノ態度ヲ持續スルカ甚ダ疑問ナリ

王ハ齊ヲ驅使スルノ實力ナシ(王揖唐、朱深又然リ)

コレガ華北ノ癌ナリ

(付記一)

参戦後ノ中國ノ展望

(昭一八、五、二三 南京大使館)

一月九日大東亞戰完遂ニ關スル日華共同宣言、治外法權撤廢、租界還付ニ關スル取極等締結セラレシヨリ日華兩國間ノ政治的展開ハ飛躍的段階ニ達セリ、是ト同時ニ行ハレタ現地ノ二大新經濟政策ノ實施ハ中國ニ於ケル經濟部面ニ新方面ヲ開キタルモノト云フヘシ

以下政治經濟ノ兩方面ノ進展模様ヲ略述スヘシ

第一、外國租界ノ回收

一月九日日華間租界還付治外法權ノ撤廢等ニ關スル取極ノ

主要點ハ

- (1) 日本專管租界ノ還付
- (2) 北京公使館區域
- (3) 廈門、鼓浪嶼共同租界
- (4) 上海共同租界

中國ニ依ル回收ノ同意

ノ四點ニシテ又此ノ我方針ニ同調シテ佛國及伊太利ノ專管租界ノ還付ヲ實行セシムルト共ニ公使館區域及共同租界ノ

關係國ヲシテ回收ニ同意セシムルノ外交問題ヲ伴フ

一、日本專管租界ノ還付ハ一月九日ノ取極ニ基キ三月十四日南京ニ於テ日支兩委員ノ間ニ專管租界還付ニ關スル細目取極調印セラレ三月三十日ノ國民政府ノ南京遷都三周年記念日ヲ期シテ天津、漢口、蘇州、杭州、沙市、福州、廈門、重慶ノ八ヶ所ノ日本ノ專管租界ハ完全ニ中國ニ返還セラレタリ

二、北京公使館區域ニ關シテモ日本トノ間ニハ三月二十二日細目取極ヲ協定シ三月三十日附ヲ以テ關係諸外國モ亦還付ヲ事實上承認シ實施ニ移サレタリ

三、廈門鼓浪嶼共同租界ノ還付モ亦日本トノ間ニハ三月二十七日附ヲ以テ細目取極ヲ結ヒ三月三十日日本ニ關スル限り回收セラレ瑞典モ默示的ニ還付ヲ承認シ、丁抹ハ五月二十日國民政府ト丁抹公使間ノ交換公文ニ依リテ外交上必要ナル手續ヲ完了シ本月下旬引渡實施ノ豫定ナリ

四、上海共同租界回收モ我國ニ於テハ夙ニ方針ヲ決定シ近ク國民政府ト開談ノ豫定ナリ

五、中國ニ於テ專管租界ヲ有スル佛伊ノ兩國ニ對シテモ帝國政府ヨリ我方針ニ同調方交渉中ナリシ處佛國政府ハ五月

十八日國民政府トノ間ニ天津、漢口、沙市ノ三專管租界ノ還付取極ヲ了シ六月五日實施ノ豫定ナリ伊太利ノミハ國內事情ノ爲ニ主義上ノ宣言ニ止メテ未タ還付ヲ實施スルニ至ラサルモ進捗方交渉中ナリ

茲ニ於テ中國ニ於ケル外國租界ハ上海共同租界、佛ノ上海租界、伊太利ノ天津租界ヲ殘スノミトナリ他ハ何レモ回收セラレタリ

第二、治外法權ノ撤廢

支那ニ於ケル治外法權ハ種々ナル型ニ於テ現ハレ居ルモ治外法權國ハ支那ノ課稅、警察裁判ニ服セサルノ特權ニ歸着ス

帝國政府ハ前記取極ニ依リ漸次此等ノ特權ヲ拋棄スヘキヲ約シ既ニ日華兩國ヨリ夫々六名ノ専門委員ヲ任命シ近く日華混合委員會組織ノ豫定ナリ日本側委員ハ三月十二日及五月十七日南京ニ於テ會合シ中國側ヘノ納稅ニ關スル具體案ニ付討議シ七月末日ヲ以テ外交部長ト在華大使トノ間ニ原則的協定成立ノ豫定ナリ

本問題中ニハ支那側ノ徵稅機關、課稅法規ノ不備ト居留民團又ハ民會ノ收入減補充ヲ如何ニ調整スヘキカ且下物價騰

貴ノ事情ニモ鑑ミ居留民ノ苦痛ヲ如何ニ調和スヘキカ等ノ實行上多大ノ困難ヲ伴フ問題ヲ包藏スルモ關係當局ニ於テハ政府ノ大方針ニ則リ成ルヘク速ニ相當程度ノ納稅ヲ爲シ國民政府ノ財政強化ニ資スヘク努力中ナリ

第三、國民政府ノ戰時體制概要

國民政府ニ於テハ一月九日參戰後先ツ戰時必要ニ即應スヘク行政方面ニ大改革ヲ加ヘ戰時體制ヲ確立セリ

先ツ一月九日臨時中央政治委員會ニ於テ最高國防會議設置セラレタリ。國民政府ノ立法及行政ノ最高權力ハ中央政治會議ノ有スルトコロナルモ、其ノ職能ノ運用ヲ迅速果敢ナラシムル爲ニ戰時中ハ立法ノ原則、施政方針、軍事及外交ノ方針、政治及經濟ノ計畫ノ決定、其ノ他法律ヲ改廢シ又法定ノ手續ヲ省略シテ法律ヲ制定スル權能ヲ最高國防會議ニ附與スルコトナレリ。委員モ中央政治會議ノ主席即チ汪主席ヲ委員長トシ、軍事委員會委員長及常務委員、行政院院長及副院長、華北政務委員會委員長及總參謀長、陸海內外財政實業宣傳ノ七部長等ノ少數ヲ以テ組織シ、每週一回通常會議ヲ、又必要ニ應シ臨時會議ヲ開キ敏活ニ重要政務ノ處理ニ當リ居レリ。

二 南京国民政府参戦問題と「對支新政策」の展開

又戰時經濟ノ重要性ニ鑑ミ、從來行政院ニ屬シ居レル全國經濟委員會ヲ格上ケシ、國民政府ニ直屬セシメ置ツ組織ヲ全國的ニ擴大シ、汪主席委員長ノ下ニ華北政務委員會華北方面カ支那ノ國內上特別ノ地位ヲ占メ居ルコトハ周知ノ通りナリ)ノ委員長ヲ副委員長トシ、有力ナル南京方面ノ要人ノ外ニ北支ヨリ財務實業建設ノ各總署ノ督辦ヲ加ヘ又上海方面財界ノ有力者ヲモ委員ニ加ヘテ先ツ戰時經濟ノ遂行ニ必要ナル陣容ヲ確立セリ。

本委員會ノ顧問トシテ我方ヨリ石渡前大藏大臣ヲ筆頭ニ各部門ノ有能ナル専門家招聘セラレ、重要ナル問題ニ付キ意見ヲ徵セラレ居ルコトハ周知ノ通りナリ。

又國民政府ノ治下ニハ上海、南京、北京、天津、漢口等ノ大都市ヲ包含シ居ル關係上、食糧ノ消費大ナルモノアリ、反之重慶側ハ生産地ヲ持チ居ル關係上、大都市ヘノ食糧供給ノ問題ハ深刻ナルモノアルモ、國民政府ハ從來ノ糧食管理委員會ヲ擴大強化シ、糧食部ヲ創設シ食糧ノ増産ヨリ配給ニ至ル部門迄ヲ擔任スルコトトナリ、相當ノ成績ヲ擧ケ居リ、我方モ亦外米ノ輸入等多大ノ援助ヲ實行シ居レリ又行政各部ニハ政務常務ノ兩次長ノ設置セラレアリシヲ、

次長ヲ一人ニ決定シ行政簡素化ヲ計レリ。其ノ他水利委員會ト交通部ヲ合併シ、建設部ヲ設定シ又社會運動指導委員會、賑務委員會ヲ合併シテ社會福利部ヲ設定スル外、地方制度モ省政府ノ委員會ナリシヲ各省主席ヲ省長ト改メ、保安司令ヲ兼任セシムル等相當思ヒ切ツタル地方制度ノ改革ヲ行ヒタリ。

以上ハ國民政府ノ戰時體制ノ概要ナルカ、國民政府ハ其ノ方針ノ徹底ヲ期スル爲ニ(イ)地方長官會議、(ロ)全國司法行政會議、(ハ)國民黨五中全會議、(ニ)全國軍事會議、(ホ)全國經濟委員會全體會議、(ヘ)全國教育行政會議等ヲ召集シ活潑ナル動キヲ見セ居レリ。

國民政府政治力ノ地方ヘ普及シ行ク模様ヲ説明スレハ國民政府ノ國旗ハ青天白日旗ニ和平反共建國ノ文字ヲ記入セル黃色ノ三角標識ヲ附シ居リタルモ、參戰後ハ之ヲ撤去スルコトトシ又華北方面ニ於テハ五色旗ヲ掲揚スルモノ多カリシカ二月五日ノ舊正ヲ期シテ一率青天白日旗ヲ掲クルコトトナレリ。右ハ些細ノコトナレトモ、中國ノ民心ニ與フル影響甚大ナルモノアリ。

中央政府タル國民政府ト地方トノ關係ニ於テハ、尙調整ヲ

必要トスル問題存スルモ、北支ノ新民會ニ於テハ、一月臨時全國全體聯合會ヲ開キ汪主席ヲ名譽會長ニ推戴スルコトトナリ、新民會トノ間ニ聯携成立シ、兩三年來ノ懸案ナリシ華北政務委員會各總署廳ノ組織條例モ中央ノ法令トシテ發布セラレ、其ノ他北中支ノ接壤地帶即チ徐海道方面ノ狀態モ漸次實質の調整ヲ加ヘラレ、中央ニ歸屬スルニ至レリ。中支ニ於テモ治安ノ改善ニ伴ヒ江西省ヲ復活シ省政府ヲ九江ニ置キ首都警視總監鄧祖禹ヲ省長ニ任命セリ。浙江省ノ東部ニ互ル廣大ナル地帶モ亦治安維持會ノ如キ過渡的ナル組織ヨリ發展シ通常ノ縣政カ布カルコトトナリ、清鄉工作ハ江蘇省ニ於ケル工作ヲ終リ安徽省、浙江省ニ及ヒ、治安ハ益々良好トナリツツアリ。

第四、新經濟政策ノ展開

以上政治的方面ノ進展ト同時ニ經濟的方面ニ於テモ中國ノ創意ト責任ニ於テ戰時經濟總動員體制ヲ確立シ經濟復興、民生ノ安定、大東亞戰爭完遂ニ對スル中國側ノ資源の協力の促進、現地軍需ノ確保等ヲ目標トシ諸般ノ經濟施策實施中ナリ主要點ヲ略述セハ次ノ如シ

三月十一日日華兩當局ヨリ

(1) 中支ニ於ケル蒐荷配給機構ノ一元的指導統制機關タル全國商業統制總會ノ創設

(2) 揚子江下流地域ニ於ケル物資移動制限ノ緩和ニ關スル發表アリ

統制總會ハ其ノ根本ニ於テ(イ)業者ノ自治的運營ニ依リテ統制ヲ實施シ(ロ)中支ニ於ケル農產畜產物ノ蒐荷ト日常必需品ノ配給ノ圓滑ヲ計リ以テ經濟ノ復興ト民生ノ安定ヲ期セントスルモノナリ(ハ)統制總會ハ華商ニ依リテ組織セラレ日本人商社ハ其ノ下部組織タル商品別組合又ハ組合員トシテ加入スルコト(ニ)從來陸海軍ノ許可事務ハ統制總會ニテ行フ等定メラレ事變後邦商ノ享有セル經濟獨占排他的特權ハ解消セラレ日支業者ハ同等ノ立場ニ置カルヘク又搬出入規則ノ緩和ニ依リテ上海ヘノ移出入モ自由トナリ地方的「ブロック」經濟ハ漸次廢止セラルルニ至ル傾向ニ在リ

(3) 四月一日ヨリ軍票ノ新規發行ハ停止セラレ中支ハ儲備券一色トナリ金融ノ安定ヲ計リタリ

第五、敵産ノ移管

帝國政府ハ支那事變發生以來管理シ來リタル重慶系敵産(舊敵産)及大東亞戰開始ト同時ニ管理セラレタル米英敵産

(新敵産)ノ移管カ實施ニ移サレタリ前者ハ軍事上絶對ノ必要アルモノヲ除キ國民政府へ、後者ハ大東亞共榮圈經營上ニ絶對的ニ帝國ニ保持シ置クヲ必要トスルモノト然ラサルモノト區別シ

(1)引續キ軍ニ於テ保有シ置クヘキモノ七十一件

(2)條件付ニテ中國側ニ移管スヘキモノ百四十六件

(3)無條件ニテ移管スヘキモノ七百七十一件

ニ分チ中央ニ於テ決定ノ上既ニ其ノ大部分ヲ國民政府(華北政務委員會、蒙疆政府ヲ含ム)ニ移管セリ

之ニ依リテ重慶側敵産ハ日本軍ニ於テ軍事上ノ必要ニ依リテ保有シ居ルモノヲ除キ大體整理ヲ終リ米英敵産ニ付テモ支那側ニ於テ満足ノ意ヲ表シ居リ移管ヲ受ケタルモノハ周佛海ヲ委員長トスル新敵産管理委員會ヲ組織シ審議中ナリ

第六、新政策ノ反響

一、國民政府要人ハ汪主席初メ各部長等何レモ深く我國ノ眞意ヲ謝シ和平陣營ヲ建設シタル努力ニ酬ヒラレタルモノトシテ一層元氣ツキ國府ノ政治力ノ強化ニ邁進セントノ決意ヲ固メ居リ筆者ハ兩三年來國民政府ノ要人ト接觸シ來リタルモノ今日程希望ニ滿チタル空氣ニ接シタルコトナ

シ

二、上海方面ノ財界人及實業家モ亦全國商業統制總會ノ組織ニ當リテ支那人ノ創意ト責任ヲ尊重スル我方ノ誠意ヲ示シタルニ信賴シ相當積極的ニ協力シ來リツツアリ

三、然レ共支那側一部ニハ經濟ハ日本軍隊ノ統制ヨリ中國ニ移行セリトシ日本ノ行ヒ來リタル統制ヲ中國官憲ノ手ニテ實施セントスル傾向モ見エ元來外國租界ニ立籠リ自由經濟ヲ謳歌シ來リタル舊財界人ハ國民政府ノ進出ヲ喜ハスシテ兎角ノ批評ヲ試ムルモノアリ又支那ニ於テハ其ノ社會的基礎政治的基礎及人心ノ傾向共ニ統制經濟ヲ行フニ極メテ不適當トシ權力ノ濫用ヲ危惧スルモノアリ新經濟政策ノ效果未タ現ハレサルニ先立チ在庫品ノ減少儲備券ニ對スル不安政府要人等ト關係アリト稱セララルル方面ノ買占メ行爲(囤積居奇)等ノ原因競合シ物價ハ狂騰シ民生生活ニ脅威ヲ加ヘツツアリテ他方反樞軸軍ノ終局ノ勝利重慶政權ノ復歸ヲ盲信スルモノハ依然形勢ヲ觀望シツツアルハ遺憾ナル事實ナリ

日本側ニ於テハ新政策ヲ好ムト好マサルトヲ問ハス等シク政府ノ方針ニ積極的協力ヲ決意シ又永年地盤ヲ有シ堅

實方針ヲ執リ來リタル信用アル邦商ハ特權ヲ利用シ一時
的ニ進出シ來リタル新商ノ退却ヲ豫想シ寧ロ歡迎ノ傾向
アリ又新方針ノ成行ヲ靜觀シ今少シ明朗トナルヲ待チ對
策ヲ講セントスル心構ノモノモアリ

要之政治的方面ノ華々シキ展開ニ拘ハラズ經濟方面ニハ
尙幾多ノ問題ヲ包藏シ居リ經濟ノ復興民生ノ安定對日供
給物資ノ供出現地軍ノ調辨ヲ計ル爲ニハ日華兩方面ニ於
テ尙積極的努力カ要望セラレツツアリ

最後ニ最モ重要ナルハ通貨ノ膨脹阻止ノ問題ナリ中央儲
備銀行十五年十二月創立以來漸次業務ノ擴張ヲ行ヒ中央
銀行タル使命ヲ果シツツアリ國民政府ノ施設中最モ成功
セルモノニ屬ス本年五月上旬ニハ儲備券發行高六十五億
ニ達シ軍票預金勘定ニテ日本側ノ利用シ居ル資金ハ二十
億以上ニ達シ居ルモ本年度内ノ物資買付ニ要スル資金對
北支貿易ニ於テ貸越トナルヘキ資金等所要額概算五十億
元以上ニ達スヘク又物價騰貴ニ伴フ政費ノ膨脹ヲ考フル
トキハ本年末ニ於ケル發行額ハ恐ラク百二十億元ニ達ス
ヘシ他方發行紙幣ノ回收方法ニ付テハ日本ニ於ケルカ如
ク國債ノ消化貯蓄ノ獎勵等モ期待スルヲ得ス結局一般產

業ノ發展ニ俟タサルヘカラサルモ此レ亦原料難ノ爲ニ多
大ノ困難アリ斯ル情勢ノ下ニ於テハ儲備銀行券ノ「イン
フレーション」ハ避クヘカラサル運命ニアラサルカヲ危
惧セララル

第七、國策會社ノ調整

中支振興會社ノ投資下ニアル日支合辦會社

- 一、華中鹽業股份有限公司
- 二、華中蠶絲股份有限公司
- 三、華中都市公共汽車股份有限公司
- 四、上海內河輪船股份有限公司
- 五、上海恒產股份有限公司
- 六、大上海瓦斯股份有限公司
- 七、華中運輸股份有限公司
- 八、中華輪船股份有限公司
- 九、華中水產股份有限公司
- 十、華中水電股份有限公司
- 十一、淮南煤礦股份有限公司
- 十二、華中電氣通信股份有限公司
- 十三、華中鑛業股份有限公司

西、華中鐵道股份有限公司

ノ各會社ニ關シテハ日華間ノ祕密協議書類所定ノ方針ニ從ヒ迅速ニ調整ヲ加フル方針ニテ既ニ四月七日大本營聯絡會議ノ諒解ニ基キ大綱ヲ決定シ現地ニ於テ國民政府ノ要望ヲモ參酌シテ基礎案ヲ作成シ正式ニ國民政府ト在華大使トノ交渉ニ移サルル豫定ニテ日本側内部ニ於ケル協議進捗中ナリ

(付記二)

新政策實施ノ見透シ

(昭一八、六、四 南京大使館)

一、新政策政治的方面ノ施策ニ付テハ

(一)租界還付、治外法權撤廢等ノ實施ハ我方ニ於テ之カ措置案ヲ確定サヘスレハ國民政府ハ之ヲ受取レハ事足ル譯ナリ之等ノ施策ハ大體豫定通り進行セシメ得テ問題ナカルヘキモ

(二)國府政治力強化ニ必要ナル其ノ他ノ施策ニ付テハ北支ノ特殊性ノ關係上國民政府ト北支トノ關係調整ニ付尙幾多ノ困難アル外漢口、廣東、厦門等ニ於テ新施策ノ

展開ヲ圖ル爲ニハ先ツ此等地方ノ大東亞出先機關ノ充實強化ヲ必要トシ本省トシテ十分ノ努力ヲ爲スニ非スンハ急速ニ成績ヲ舉クルコトハ困難ナリ又中國側ヨリ見ルモ國府ハ固ヨリ北支乃至武漢、廣東等地方政治力ノ脆弱性ヲ是正シテ夫レ自體ヲ強化スルコトニ幾多ノ困難アルコト御承知ノ通りニテ此ノ種新政策ノ實現ハ漸ヲ追テ之ヲ進メルヨリ他ニ途ナク急速ニハ之ニ期待シ難キモ租界返還方ノ實施ト併セテ政治的施策方面ニ於テハ逐次之カ成果ヲ收メ來レルコトハ何人モ之ヲ認メルトコロナリ

二、然ルニ經濟關係ノ諸施策ニ付テハ政治的施策トハ根本的ニ異なる状態ニアリ

(一)蓋シ經濟施策ノ目的ハ一面ニ於テ大東亞戰爭遂行ニ絶對必要ナル重要物資ノ供出ヲ第一義トシ之カ爲ニハ支那ノ經濟ノ原則ニ背馳スル幾多ノ施策ヲ維持強行スル必要アリテ夫レ自體支那ノ經濟復興、民生安定ト云フ目的ヲ達成スル爲ニ大ナル障礙ヲ及ホシ居ルコト御承知ノ通りナリ(例、(一)軍需物資、對日供給物資ノ大量供出ノ爲ニスル儲備券増發力直チニ悪性「インフレ」

ヲ惹起シ之カ經濟復興民生安定ニ必要ナル奧地農産物、畜産物ノ蒐買ヲ困難ナラシメルコト、(二)北支ニ於ケル國防資源確保ノ爲困難ナル北支ノ食料問題ヲ惹起シ居ルカ如シ)

(二)過去ニ於ケル我方官民ニ依ル獨占排他的ノ經濟統制カ行詰リタル結果之カ是正ノ爲採用シタル新政府ノ根幹タル商業統制總會ヲ中心トスル蒐荷配給機構ノ整備ハ三月中旬之ニ着手シテヨリ既ニ三ヶ月ヲ經テ居リ目下下部機構ノ組織ニ努力中ナルカ此ノ下部組織カ豫定ノ如ク進行セサル理由ハ上海ヨリモ報告アリタル如ク一ハ上海中國側業者ノ間ノ利害關係カ一致シ居ラサル爲ナリ即チ日本側業者トシテハ表面新政策ニ贊成シ居ルモ一部ノモノニハ過去ノ特權ノ地位ヲ何等カノ形ニ於テ保持シ度ト云フカ如キ意圖アリテ、之カ支那側業者ニ反映シテ日支双方業者ノ間ノ關係カシツクリ行カサル上ニ統制總會ハ何ト云ツテモ唐壽民出馬ノ爲ニ專ラ金融業者ヲ中心トシテ之ヲ作ツテ居ル結果支那側業者ニ對シ痒イトコロニ手カ届ク様ニ斡旋乃至指導カ出來得ナイト云フ事情モアル(金融業者ノ商工業者ニ對ス

ル永年ノ橫暴ナル態度ニ依リ辛イ經驗ヲ嘗メテ居ル上海實業家ハ必スシモ心カラ統制總會ノ幹部ヲ信賴シ得ナイノハ事實テアルカ併シ之ハ今日ノ段階ニ於テ業者ヲ代表スヘキ有力ナル實業家ノ出馬ヲ期待スルコトノ出來ナイ事情ト上海ニ於ケル金融業者ノ特殊ナル勢力等カラ見テ已ムヲ得サルモノト思ハル)

(三)國民政府ノ實業部、糧食部、財政部其ノ他關係各當局ハ上海實業家トノ間ニ從來何等接觸カナカツタノテ動モスレハ官權ヲ濫用シテ一部無力ナル業者ヲ利用シ之ヲ表面ニ立テテ業界ヲ指導セントスル遣リ方ヲナスニ對シ統制總會ハ多大ノ不平ヲ有シ居レリ我方トシテハ常ニ之カ是正ノ爲ニ種々斡旋シテ居ル譯ナルカ動モスルト官權ニ依ル業界壟斷ト云フ弊害ヲ生シ勝チニテ其ノ根底ニ横タハルモノハ何ト云ツテモ國府要人ノ意圖スルトセサルトニ拘ラス(後者ノ場合ニハ多ク其ノ部下又ハ側近者等ノ獨斷專行ニ依ル)所謂役人ノ商賣ニ依ツテ利益ヲ收メントスル企圖カ常ニ働キ居ルコトハ否定出來サル所ナリ是ハ根本的ニ言フト現下ニ於ケル異常ナル物價騰貴(物價指數ハ昭和十一年ニ比シ今日

ハ大體五〇倍)ニ即應シ得ナイ國府ノ貧弱ナル豫算ノ下ニ於テ多數ノ官吏ヲ擁シ政務ノ遂行ヲ圖ラナケレハナラナイ各部ノ當局トシテハ已ムヲ得ナイ企圖トモ思ハレルカ此ノ役人ノ商賣ヲ禁シ得ナイ限り經濟新施策ハ到底實現出來ヌコトナリ(囤積問題ノ如キハ其ノ標本的ノモノナリ)

(四)我方トシテハ且下下部機構ノ組織ノ完成ニ全力ヲ盡クス様中國當局及統制總會幹部ヲ督勵シテ居ルノテアツテ上海ニ於ケル一應ノ結成ヲ終ルト共ニ之ト併行シテ地方ニ於ケル下部機構ノ結成ヲモ進メ居ルコト御承知ノ通りナルカ單ニ下部機構ノ結成ヲ整ヘタ丈テハ商業統制總會ハ直チニ其ノ機能ヲ發揮シ奧地農産物、畜産物蒐買ノ成績ヲ劃期的ニ擧ケルトハ考ヘラレス之ニハトウシテモ物價問題ヲ一般的且合理的ニ解決スルコト必要ニシテ之カ爲ニハ六七十萬俵ノ「ストツク」ヲ有スル綿絲布ノ適正價格及尙農民カ多量ニ保有シテ居ルト認メラレル米ノ蒐買ノ成績ヲ擧ケテ上海初メ中支ノ各都市ニ於ケル米價ノ安定ヲ圖ルコト、之カ爲ニハ現在ノ糧食部ノ實行セル計畫の蒐買ノミニ倚存セス之ト

併行シテ公正價格ト闇相場トノ中間ヲ裁定セル適正價格ニ依ル米ノ自由供出ヲ計ルト共ニ綿絲布其ノ他ノ日用品ヲ適正價格ニ依リ農民ニ配給スル方途ヲ講スル必要アリ且下夫等ノ具體案ヲ研究中ナルカ下部機構ノ結成ト同時ニ之等ノ諸施策ヲ實行スルコト肝要ナリ是レナクシテハ下部機構ノ結成ノミテハ豫期ノ成績ヲ擧ゲ得ナイト考ヘラル

(五)然ルニ之等ノ物價對策ヲ全面的ニ推進スル上ニ於テ困難ナル問題ハ北支、南支ノ經濟カ中支ニ依存スルト云フ事實及我方カ前述ノ如ク軍需及對日供給物資ノ調辨ヲ是非必要トスル爲ニ中支ニ於テ餘儀ナクセラルル儲備券ノ激増ニ依ル惡性「インフレ」ノ問題(現在儲備券ノ發行額七十數億本年度増發ハ軍需物資、對日供給物資ノ爲約五十億元、北支、滿洲、南支ヘノ移出超過ノ爲約二十五億ヲ考慮ニ入ルル時ハ本年末ハ總額百二十億以上トナル見込)カアル是ハ前述ノ如ク如何ニスルトモ免レルコトモ出來ヌ事實テアツテ此ノ困難ナル狀況ノ上ニ物價ノアル程度ノ安定ヲ圖リ統制總會ノ機能ヲ發揮スルコトハ頗ル難事トスル所ナリ併シ幸ニシ

テ多量ナル綿絲布「ストック」及軍配組合ノ整理ニ依リ讓渡サルヘキ安價ナル雜貨相當量アルヲ以テ之ヲ基礎ニシテ工夫ヲ凝スナラハ前途ニ必スシモ悲觀ノ要ナシト考ヘラル尙此ノ點ニ關係シテ(三)ニ述ヘタ國府當局ノ商賣ニ依ル弊害ヲ除去スルコト是非共必要ナルカ之カ爲ニハ國府ノ財政ヲ根本のニ建直シテ官吏カ安心シテ生活出來ル様ナ方法ヲ講スルコト經濟新政策實現上絶對ノ要件ナリ國府警察官ノ收入カ月三十五元ニシテ生活費カ最低四百五十元(車夫ノ一日ノ食費最低十五元)ヲ要スルト云フ今日ノ狀態ニ於テ國府官吏ノ俸給ヲ此ノ儘ニシテ居ル限り統制經濟ヲ如何ニ合理的ニ計畫シテモ統制組合ノ機構ヲ如何ニ整備シテモ豫期ノ成績ヲ擧ゲ得ナイコトハ當然ノ理ナリ而シテ之カ爲ニハ國府財政ノ劃期的改善ヲ必要トスル處(國府ノ歲出十億元ハ僅カニ綿絲布五萬俵ノ價格ニ該當シ日本金ニスレハ僅カニ億圓ナリ)其ノ爲ニハ姑息ナ増稅位テハ駄目ニテドウシテモ煙草專賣位ヲ必要トスル(煙草一箱卸賣一元三十仙ノモノ闇相場四元ナリ)

(付記三)

對支處理根本方針ノ實施概況

(昭和十八年十月一日現在)

支那事務局總務課

第一 日華兩國間約定ノ締結及實施

一、戰爭完遂ニ付テノ協力ニ關スル日華共同宣言

一月九日 調印

二、租界還付及治外法權撤廢等ニ關スル日本國中華民國間協

定

一月九日 調印

(一)帝國專管租界ノ還付

二月 九日 專管租界還付實施ノ爲ノ帝國委員任命

二月十七日 帝國專管租界還付實施措置要領決定

二月二十日 專管租界還付實施ノ爲ノ帝國委員ニ與フ

ル訓令發出

三月 四日 兩國委員會合

三月十四日 專管租界還付實施ニ關スル細目取極調印

三月三十日 杭州、蘇州、漢口、沙市、天津、福州、

廈門及重慶ノ八帝國專管租界行政權ノ還

付實施

四月廿六日 專管租界還付實施ニ關スル細目取極告示
六月 九日 專管租界還付實施ノ爲ノ帝國委員任務終了

(二)上海共同租界ノ回收

二月廿四日 上海共同租界回收實施措置要領決定
三月十一日 回收實施ニ關シ在華大使ニ與フル訓令發出

六月三十日 上海共同租界回收實施ニ關スル取極調印
七月廿三日 上海共同租界回收實施ニ關スル取極告示
七月廿九日 上海特別市市政ニ關スル備忘録調印
八月 一日 上海共同租界行政權ノ回收實施

◎關係第三國側態度

(イ)佛 國 七月二十二日在華同國大使館代表者ト國民政府外交部部長トノ間ニ行政權回收ニ關スル公文ヲ交換セリ

(ロ)伊 國 七月二十三日在華同國大使ト國民政府外交部部長トノ間ニ行政權回收ニ關スル取極調印

(ハ)瑞西國

六月十七日同國外務省政務局長ハ在同國帝國公使ニ對シ既ニ在華同國出先官憲ニ對シ支那ニ於ケル特權拋棄ニ關スル交渉ニ付一般訓令發出濟ナルモ瑞西國トシテハ最惠國條款ニ支配セラルル立場ニ在ルヲ以テ關係國トノ交渉狀況隨時内報ヲ得タキ旨述ベタリ

(ニ)西班牙國

七月五日同國外務大臣ハ在同國帝國公使ニ對シ西班牙國ハ本件ニ關シテモ北京公使館區域及廈門鼓浪嶼共同租界回收ノ場合ト同様ノ態度(國民政府ノ回收實施ニ對シ抗議セサルヘシトノ態度)ヲ執ルコトニ決定セル旨述ヘタリ

(ホ)葡萄牙國

六月十七日同國外務次官ハ在同國帝國公使ニ對シ事實問題トシテ回收實施ノ場合ハ實質の利害關係ナキ同國トシテハ之ニ追隨スル外ナキモ法律問題トシテハ權利侵害ナルヲ以テ抗議ヲ行フハ已ムヲ得サルヘキ旨述ヘタリ

(へ) 瑞典國 七月十二日附覺書ヲ以テ同國外務大臣ヨ

リ在同國帝國公使ニ對シ瑞典國トシテハ
其ノ承認セル政府ヲ相手方トスルニ非サ
レハ條約ノ規定ノ變更、特權拋棄等ノ措
置ヲ執リ得サル旨申越セリ

(ト) 丁抹國 七月二十六日在瑞典國同國代理公使ヨリ

在丁抹國帝國公使ニ對シ口頭ヲ以テ日華
間取極ノ條件ハ丁抹國ニモ適用スル用意
アルヘキヤヲ問合越セルヲ以テ帝國公使
ヨリ右ハ國民政府ニ於テモ異存ナシト信
スル旨述ヘ置キタルカ其ノ後何等ノ意思
表示ナシ

(三) 廈門鼓浪嶼共同租界ノ回收

二月廿四日 廈門鼓浪嶼共同租界回收實施措置要領決

定

三月 六日 回收實施ニ關シ在華大使ニ與フル訓令發

出

三月廿七日 廈門鼓浪嶼共同租界回收實施ニ關スル取

極調印

四月廿六日 廈門鼓浪嶼共同租界回收實施ニ關スル取

極告示

五月廿八日 廈門鼓浪嶼共同租界行政權ノ回收實施

◎關係第三國側態度

(イ) 佛 國 四月八日在華同國大使館代表者ト國民政

府外交部部長トノ間ニ行政權回收ニ關ス
ル公文ヲ交換セリ

(ロ) 西班牙國 四月二十九日同國外務大臣ハ在同國帝國

公使ニ對シ國民政府ニ依ル回收實施ニ對
シ抗議セサルヘキ旨ノ意思ヲ表明セリ

(ハ) 瑞典國 五月八日同國外務省政務局長ハ在同國帝

國公使館員ニ對シ國民政府ニ於テ回收ヲ
實施スルモ瑞典國ヨリハ何等ノ反應ヲ生

セサルモノト諒解アリタキ旨述ヘタリ

(ニ) 丁抹國 五月九日附公文ヲ以テ在華同國公使ヨリ

國民政府外交部部長ニ對シ行政權回收ニ
同意スル旨通告越セリ

(四) 北京公使館區域ノ回收

二月十七日 北京公使館區域回收實施措置要領決定

二 南京国民政府参戦問題と「對支新政策」の展開

二月廿四日	回收實施ニ關シ在華大使ニ與フル訓令發 出	二月 九日	治外法權撤廢專門委員會ニ於ケル帝國委 員任命
三月廿二日	北京公使館區域回收實施ニ關スル取極調 印	二月廿四日	治外法權撤廢ニ關スル具體案作成要領腹 案決定
三月三十日	北京公使館區域行政權ノ回收實施	三月 四日	專門委員會兩國委員第一回會合
四月廿六日	北京公使館區域回收實施ニ關スル取極告 示	三月 五日	具體案作成ニ關シ帝國委員ニ與フル訓令 發出
七月三十日	行政委員會殘務整理完了	七月 三日	專門委員會ニ於テ中華民國ニ在留スル日 本國臣民ニ對スル課稅要領案作成
◎關係第三國側態度		七月十四日	條約締結ニ關シ在華大使ニ與フル訓令發 出
(イ)佛 國	三月二十九日在華同國大使館代表者ト國 民政府外交部部長トノ間ニ行政權回收ニ 關スル公文ヲ交換セリ	七月廿三日	中華民國ノ在留日本國臣民ニ對スル課稅 承認要領決定
(ロ)伊 國	三月二十九日在華同國大使ト國民政府外 交部部長トノ間ニ行政權回收ニ關スル取 極調印	七月廿九日	條約案樞密院通過
(ハ)西班牙國	四月二十九日同國外務大臣ハ在同國帝國 公使ニ對シ國民政府ニ依ル回收實施ニ對 シ抗議セサルヘキ旨ノ意思ヲ表明セリ	七月卅一日	中華民國ニ於ケル日本國臣民ニ對スル課 稅ニ關スル日本國中華民國間條約調印
(五)治外法權ノ撤廢		八月 一日	條約實施
		九月 十日	附屬協定第一條ニ基ク國民政府外交部部 長ノ在華帝國大使ニ對スル通報(第一次)

九月二十日 第一次通報ノ兩國官報公示
十月 一日 第一次通報ニ基ク課稅實施

◎關係第三國側態度

(イ)佛 國 二月二十三日一方の宣言ヲ以テ支那ニ於ケル特權拋棄聲明

(ロ)伊 國 一月十四日附公文ヲ以テ在華同國大使ヨリ國民政府外交部部長ニ對シ支那ニ於ケル特權拋棄通告

(ハ)瑞 西 國 三月三十一日同國議會ニ於ケル質問ニ對スル政府答辯ノ形式ニ依リ四月二日支那ニ於ケル特權拋棄ノ意向ヲ表明セリ

(ニ)西班牙國 五月八日附私信ヲ以テ同國外務大臣ヨリ在同國帝國公使ニ對シ西班牙國ハ一九二八年ノ西華條約ニ依リ華府條約(註、後記(ハ)ノ決議ヲ指スモノナルヘシ)調印國全部ノ意見一致ヲ條件トシテ治外法權撤廢ニ同意シ居ルヲ以テ右ニ關スル明白正式ノ決定ハ平常狀態回復迄延期方希望スル旨申越セリ

(ホ)葡萄牙國 未タ何等ノ意思表示ナシ

(ヘ)瑞典國 五月二十日同國外務省政務局長ハ在同國帝國公使館員ニ對シ一九〇八年ノ瑞華條約及華府會議ノ支那ニ於ケル治外法權ニ關スル決議ニ依リ瑞典國トシテハ右ト異ル態度ヲ執ルコト能ハサル旨述ヘタリ

(ト)丁 抹 國 三月二十八日附公文ヲ以テ在華同國公使ヨリ國民政府外交部部長ニ對シ丁抹國ハ一九二八年ノ丁華條約ニ於テ他ノ諸國ノ同調ヲ條件トシテ治外法權撤廢ニ同意シ居ル處右ハ今日ニ於テモ異ルコトナキ旨通告越セリ

(六)第三國專管租界ノ還付及回收

二月廿四日 中華民國關係國間ノ交渉斡旋ニ關シ在華大使ニ與フル訓令發出

(イ)佛 國 五月十八日同國全權委員ト國民政府租界接收委員トノ間ニ天津、漢口及沙面(廣東)佛國租界還付實施ニ關ル取極調印

六月五日天津、漢口及沙面佛國專管租界

行政權ノ還付實施

七月廿二日同國全權委員ト國民政府租界

接收委員トノ間ニ上海佛國專管租界還付

實施ニ關スル取極調印

七月三十日上海佛國專管租界行政權ノ還

付實施

(ロ) 伊 國

九月九日同國政府ノ無條件降伏ニ件ヒ同

十日中國側ハ天津伊國專管租界ヲ接收セ

